



LS 600h / LS 600h L

取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

ハイブリッド車の特徴や運転するまでに必要となる操作、
ご注意が説明してあります。

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 お手入れのしかた

お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明して
あります。

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する
説明がしてあります。

6 車両仕様

車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で
探すことができます。

1 運転する前に**1-1. ハイブリッドシステムについて**

ハイブリッドシステムの特徴	32
ご使用になるにあたって (高電圧・高温について)	36
ご使用になるにあたって (駆動用電池・吸入口に ついて)	40
ハイブリッドシステムの 作動状態	42
ハイブリッド車運転の アドバイス	49

1-2. キーの取扱い

キー	51
----------	----

**1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、
ロックのしかた**

スマートエントリー&スタート システム	56
ワイヤレスリモコン	67
ドア	69
トランク	74

**1-4. シート、ハンドル、
ミラーの調整のしかた**

フロントシート	80
パワーリヤシート	86
ドライビングポジション メモリー	95
リヤシートポジション メモリー	99
ヘッドレスト	101
シートベルト	104
ハンドル	109

インナーミラー	110
ドアミラー	112

**1-5. ドアガラス・ムーンルーフの
開け方、閉め方**

パワーウインドウ	114
ムーンルーフ	117

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方	121
---------------	-----

1-7. 盗難防止システム

イモビライザーシステム	125
オートアラーム	126

1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢	132
SRS エアバッグ	134
子供専用シート	143
チャイルドシート (子供専用シート) の 取り付け	152

2 運転するときに**2-1. 運転のしかた**

運転にあたって	160
パワー (イグニッション) スイッチ	169
EV ドライブモード	173
トランスミッション	176
方向指示レバー	180
パーキングブレーキ	181
ブレーキホールド	184
ホーン (警音器)	186

2-2. メーターの見方

計器類	187
表示灯／警告灯	191
マルチインフォメーション ディスプレイ	195

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方

ライトスイッチ	199
オートマチックハイビーム	202
フォグライトスイッチ	207
ワイパー & ウォッシャー	208
ヘッドライトクリーナー	211

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	212
レーダークルーズ コントロール	215
レーダークルーズ コントロール (全車速追従機能付)	225
LKA (レーンキーピング アシスト)	237
電子制御エアサスペンション ...	243
運転を補助する装置	245
プリクラッシュセーフティ システム	251
後方プリクラッシュ セーフティシステム	262
ナイトビュー (歩行者検知機能付)	265

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	274
寒冷時の運転	276

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	280
・ インテリアライト	281
・ パーソナルライト	281

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	283
・ グローブボックス	285
・ コインホルダー	286
・ ドアポケット	286
・ カップホルダー	287
・ コンソールボックス	288
・ ノースモーターズボックス ...	290
・ 小物入れ	291

3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	294
バニティミラー	295
灰皿	296
シガレットライター	297
アクセサリースOCKET ／アクセサリーコンセント ...	299
ステアリングヒーター	303
コンフォータブル・エアシート ／リヤシートヒーター	305
アームレスト (5人乗り)	309
テーブル (4人乗り)	310
リヤサンシェード	312
リヤドアサンシェード	316
コートフック	319
フロアマット	320
トランク内装備	321

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	324
内装の手入れ	327
タイヤについて	330

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	333
ガレージジャッキ	336
エンジンルームカバー	338
タイヤの交換	340
電球（バルブ）の交換	346
ヒューズの点検、交換	356
電子キーの電池交換	360
ウォッシュ液の補給	362

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは	364
非常点滅灯	365
発炎筒	366
けん引について	368
イベントデータレコーダー	372

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	374
警告メッセージが 表示されたときは	378
パンクしたときは	381
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	392
シフトレバーが シフトできないときは	394
パーキングブレーキが 解除できないときは	395
電子キーが正常に 働かないときは	399
補機バッテリーが あがったときは	402
オーバーヒートしたときは	406
スタックしたときは	410
車両を緊急停止するには	411

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ （指定燃料、オイル量など）	414
---------------------------------	-----

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	420
--------------------------	-----

さくいん

略語一覧	428
五十音順さくいん.....	429
症状別さくいん	440
ハイブリッドさくいん.....	444

1

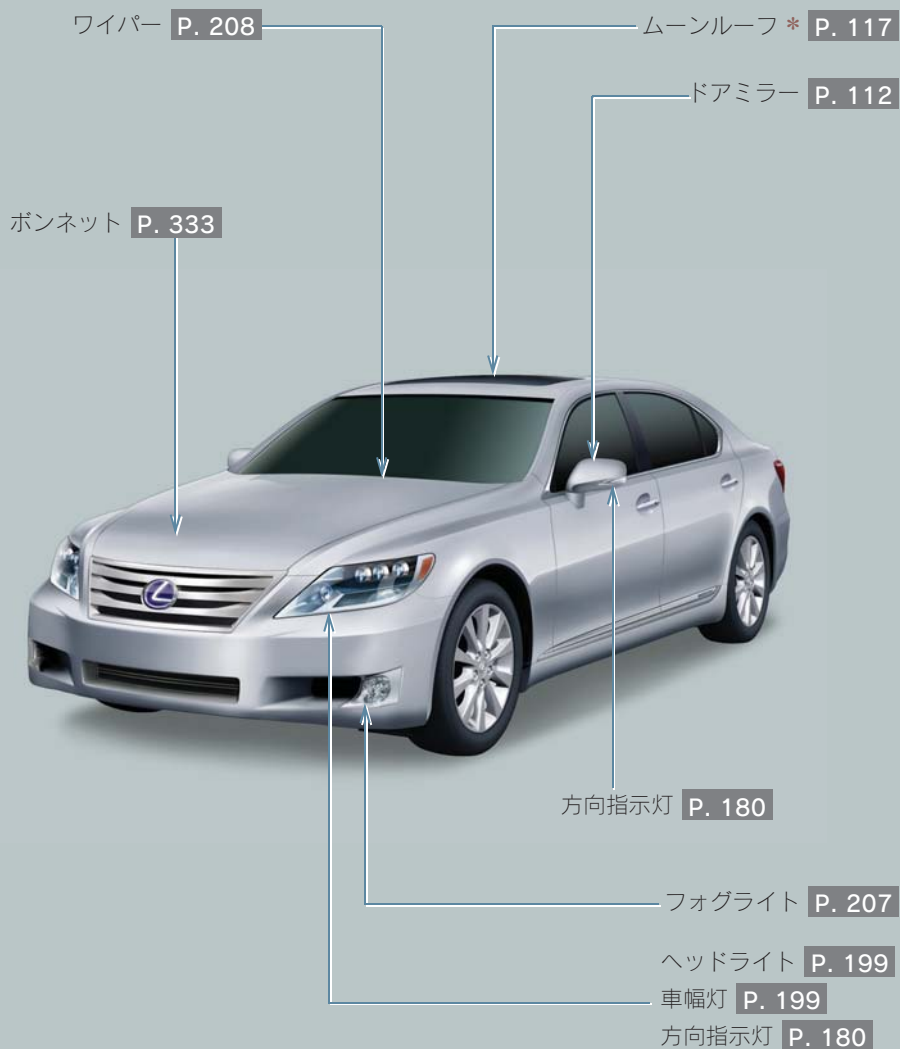
2

3

4

5

6





* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

フロント席

助手席 SRS エアバッグ P. 134

SRS ニーエアバッグ
P. 134

シフトレバー
P. 176

A

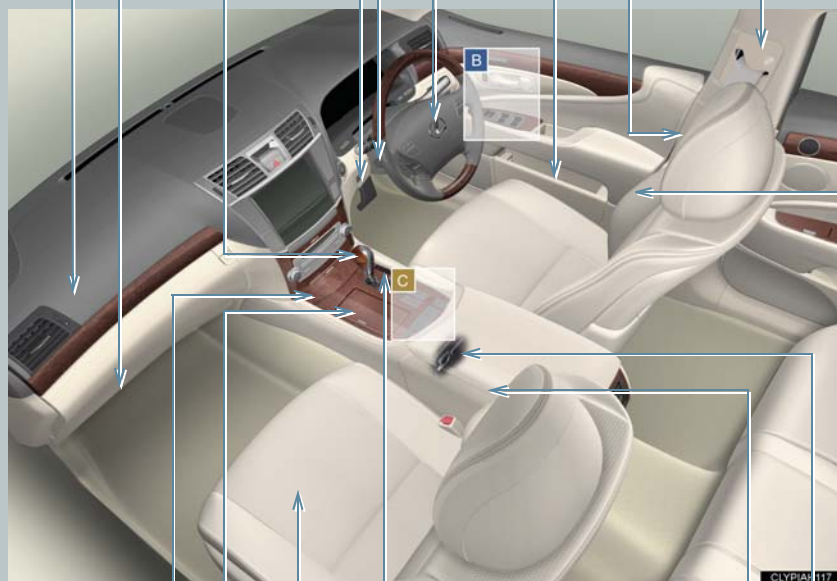
ハンドル位置調整スイッチ P. 109

運転席 SRS エアバッグ P. 134

ドアポケット P. 286

ヘッドレスト P. 101

シートベルト P. 104



シフトロック解除ボタン
P. 394

コンソールボックス
P. 288

フロントシート P. 80

カップホルダー P. 287

アクセサリソケット P. 299

シガレットライター * P. 297

灰皿 * P. 296

ノースモーカースボックス * P. 290

AUX 入力端子※

USB 入力端子※

VTR 入力端子※

SRS サイドエアバッグ P. 134

A

インナーミラー P. 110

インテリアライト P. 281

パーソナルライト P. 281

ムーンルーフスイッチ * P. 117

侵入センサー OFF スイッチ P. 127

ヘルプネットスイッチパネル※



小物入れ * P. 291

セキュリティーカメラ * P. 127

バニティミラー P. 295

サンバイザー P. 294

SRS カーテンシールドエアバッグ P. 134

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

ドアロックレバー P. 69

ドライビングポジションメモリースイッチ P. 95

シートベルト高さ調整スイッチ
P. 104

ウインドウロックスイッチ P. 114

ドアロックスイッチ P. 69

パワーウインドウスイッチ P. 114



C

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車

走行モードセレクトスイッチ P. 177

AVS (アダプティブバリアブルサスペンションシステム) スイッチ P. 243

リヤシート位置戻しスイッチ * P. 89

リヤコンフォータブル・エアシートスイッチ * P. 306

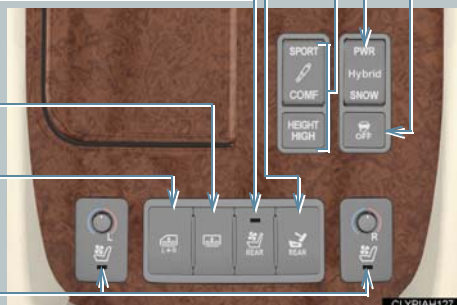
リヤシートヒータースイッチ * P. 307

リヤサンシェードスイッチ P. 312

リヤドアサンシェードスイッチ * P. 316

フロントコンフォータブル・エアシートスイッチ * P. 305

VSC OFF
スイッチ
P. 247



▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車

走行モードセレクトスイッチ P. 177

AVS (アダプティブバリアブルサスペンションシステム) スイッチ P. 243

リヤシート位置戻しスイッチ P. 89

リヤコンフォータブル・エアシートスイッチ P. 306

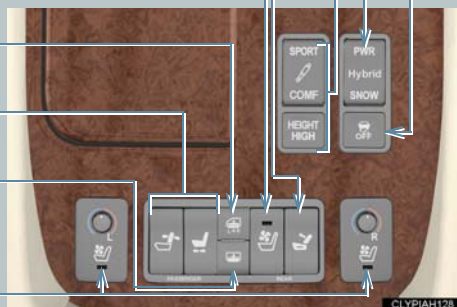
リヤドアサンシェードスイッチ P. 316

助手席パワーシートスイッチ P. 81

リヤサンシェードスイッチ P. 312

フロントコンフォータブル・エアシートスイッチ P. 305

VSC OFF
スイッチ
P. 247



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

イラスト目次

インストルメントパネル

ワイパー&ウォッシャー
スイッチ **P. 208**

パワー (イグニッション)
スイッチ **P. 169**

グローブボックス P. 285

トランクオープナー
メインスイッチ **P. 74**

メーター P. 187

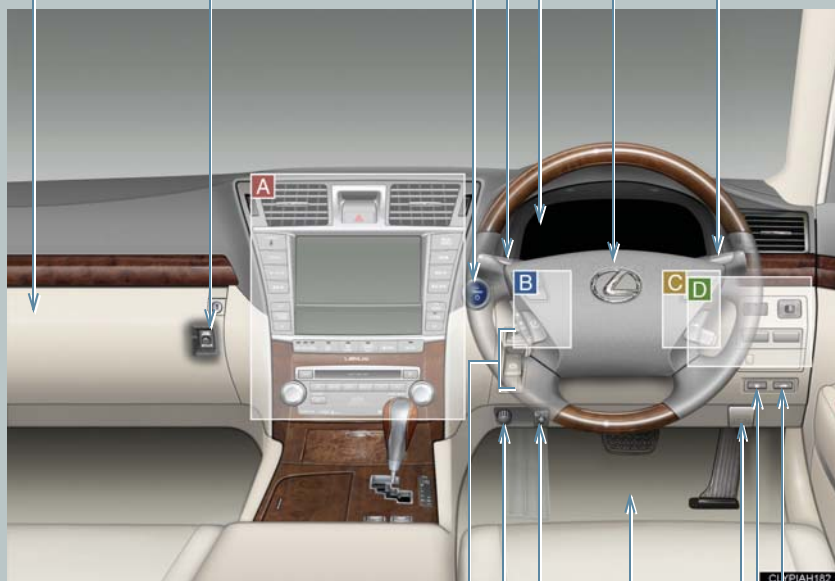
マルチインフォメーション
ディスプレイ **P. 195**

ライトスイッチ P. 199

方向指示レバー P. 180

フォグライトスイッチ P. 207

ホーン
P. 186



パーキングブレーキスイッチ P. 181

ブザー音量調整ツマミ P. 59

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ *

トランクオープナー P. 74

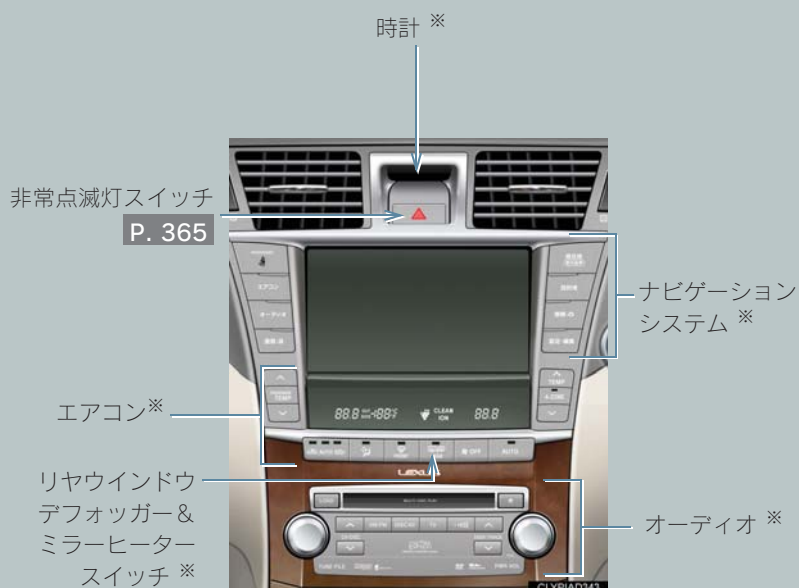
フロアマット
P. 320

ボンネット解除
レバー **P. 333**

給油口オープナー

P. 121

A



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

インストルメントパネル

B ▶ インテリジェントパーキングアシスト非装着車

オーディオスイッチ※



トークスイッチ※

ブレーキホールドスイッチ P. 184

▶ インテリジェントパーキングアシスト装着車

トークスイッチ※

オーディオスイッチ※



IPA (インテリジェントパーキングアシスト) プレサポートスイッチ※

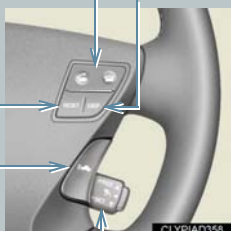
ブレーキホールドスイッチ P. 184

C ▶ レーンキープアシスト (LKA) 非装着車

RESET スイッチ P. 196

電話スイッチ※

DISP スイッチ P. 196



クルーズコントロールスイッチ
P. 212, 215

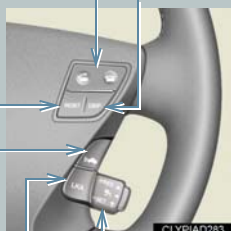
車間距離切り替えスイッチ * P. 215

▶ レーンキープアシスト (LKA) 装着車

RESET スイッチ P. 196

電話スイッチ※

DISP スイッチ P. 196

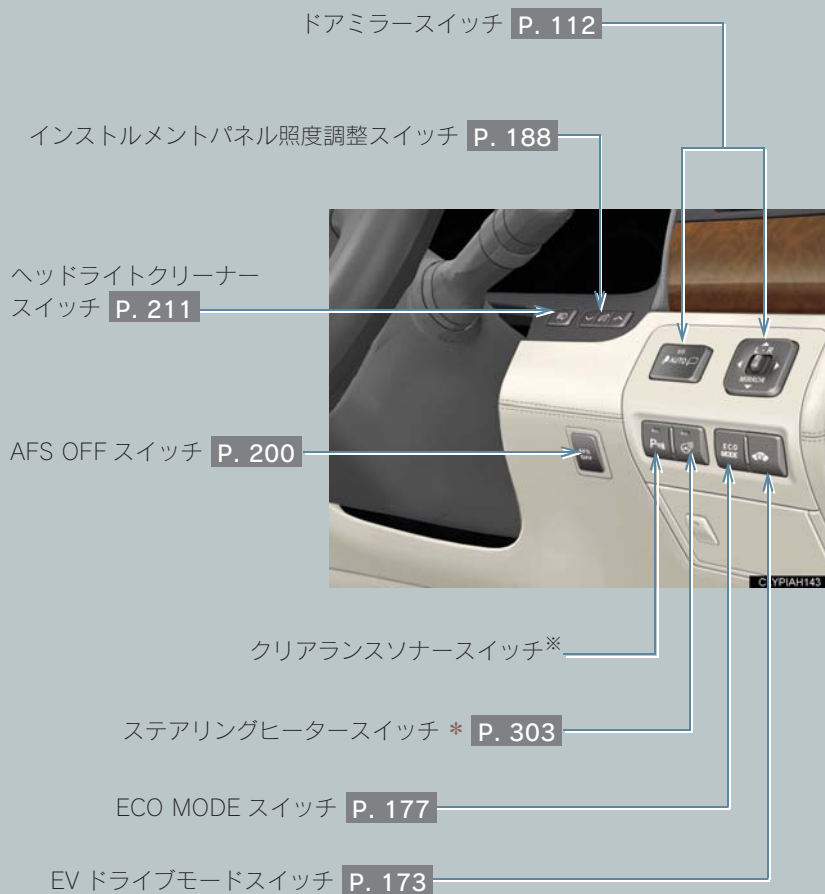


クルーズコントロールスイッチ
P. 225

LKA スイッチ P. 237

車間距離切り替えスイッチ P. 225

D



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

5人乗り リヤ席 (センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車)

小物入れ P. 291

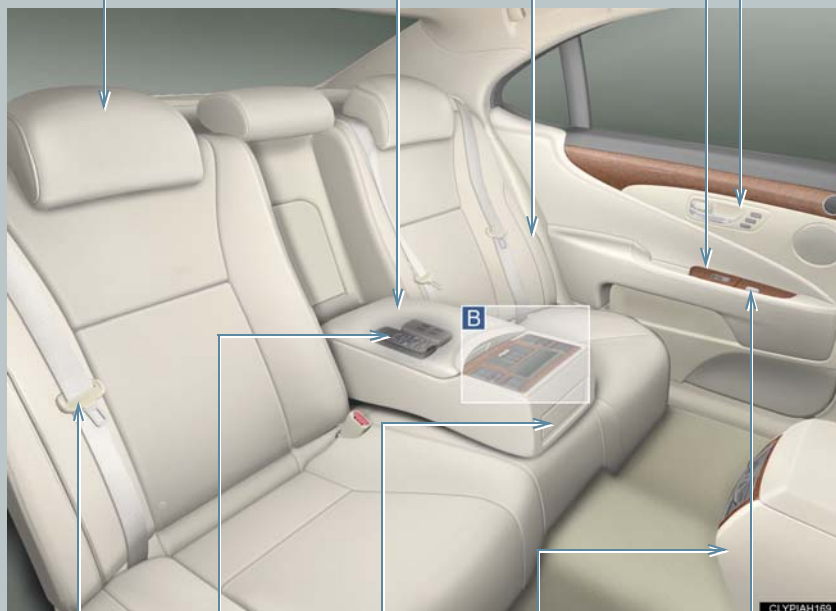
シートポジションメモリー
スイッチ * P. 99

パワーウィンドウ
スイッチ P. 114

ヘッドレスト P. 101

SRS サイドエアバッグ *
P. 134

A



シートベルト P. 104

カップホルダー P. 287

ノースモーカーズ
ボックス * P. 290
灰皿 * P. 296

ペルピックサポートシート
リモコン * P. 86

後席 9 型ワイドディスプレイリモコン※

シガレットライター * P. 297

アクセサリースOCKET * P. 299

アクセサリーコンセント * P. 300

A

後席 9 型ワイドディスプレイ※

インテリアライト P. 281

パーソナルライト P. 281



バニティーミラー P. 295

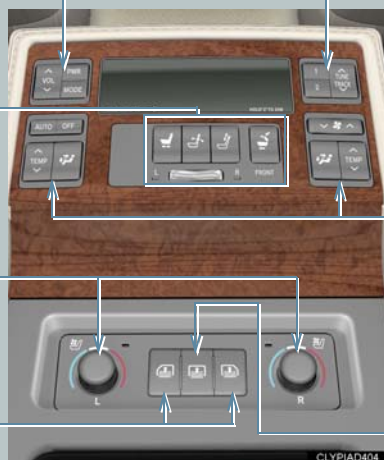
コートフック P. 319

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 134

B

パワーシート
スイッチ * P. 86

リアオーディオスイッチ※



リアコンフォータブル・
エアシートスイッチ *
P. 306

リアエアコンスイッチ※

リアドアサンシェード
スイッチ * P. 316

リアサンシェード
スイッチ P. 312

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

5人乗り リヤ席 (センターコンソール付後席ディスプレイ装着車)

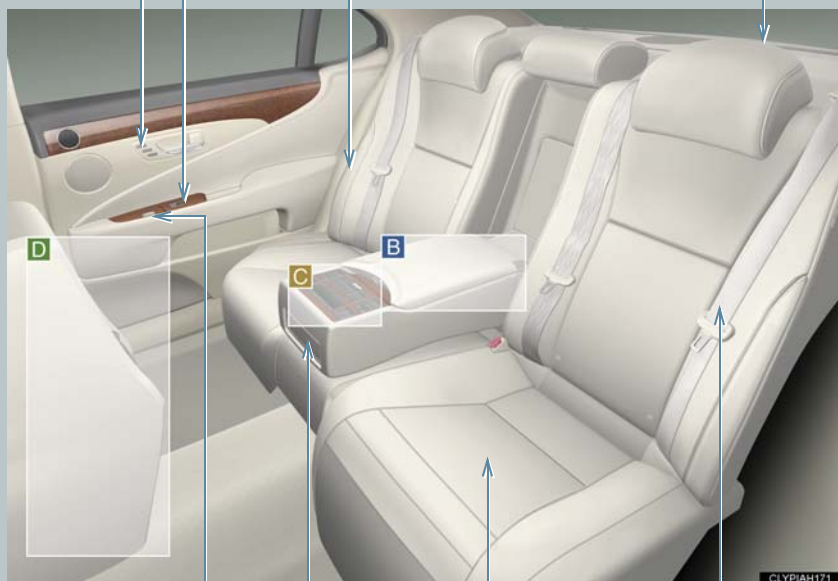
シートポジションメモリースイッチ P. 99

パワーウィンドウ
スイッチ P. 114

SRS サイド
エアバッグ P. 134

ヘッドレスト P. 101

A



ノースモーカーズ
ボックス * P. 290
灰皿 * P. 296

カップホルダー P. 287

SRS シートクッションエアバッグ * P. 134

シートベルト P. 104

A

インテリアライト P. 281

パーソナルライト P. 281



バニティーミラー P. 295

コートフック P. 319

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 134

B

ヘッドフォンジャック※

後席 9 型ワイドディス
プレイリモコン※

リヤシートリラクゼーション
システム / ベルビックサポート
シートリモコン * P. 86

ベルビックサポートシート
リモコン * P. 86



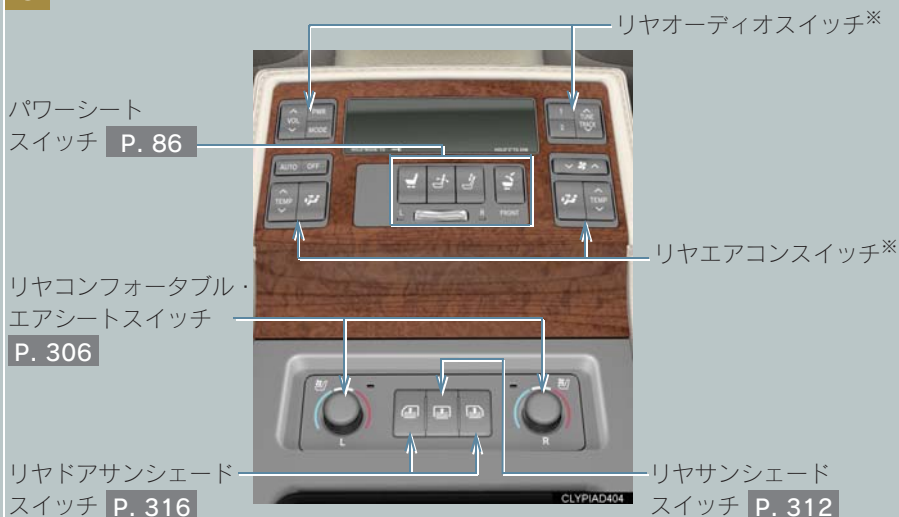
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

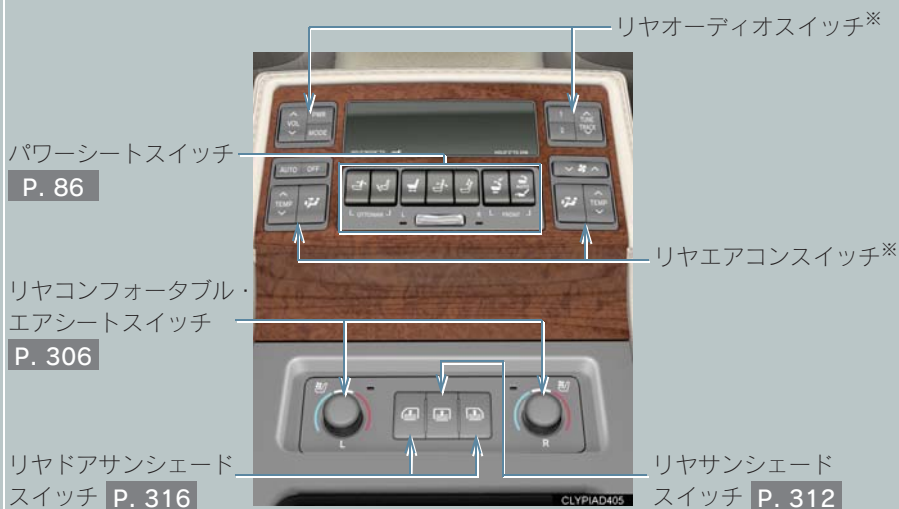
イラスト目次

5人乗り リヤ席 (センターコンソール付後席ディスプレイ装着車)

C ▶ リラクゼーションシート非装着車



▶ リラクゼーションシート装着車



D



後席 9 型ワイドディスプレイ※

DVD プレーヤー※

小物入れ **P. 291**

アクセサリソケット * **P. 299**

アクセサリコンセント * **P. 300**

入力端子※

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

4人乗り リヤ席

シートポジションメモリースイッチ P. 99

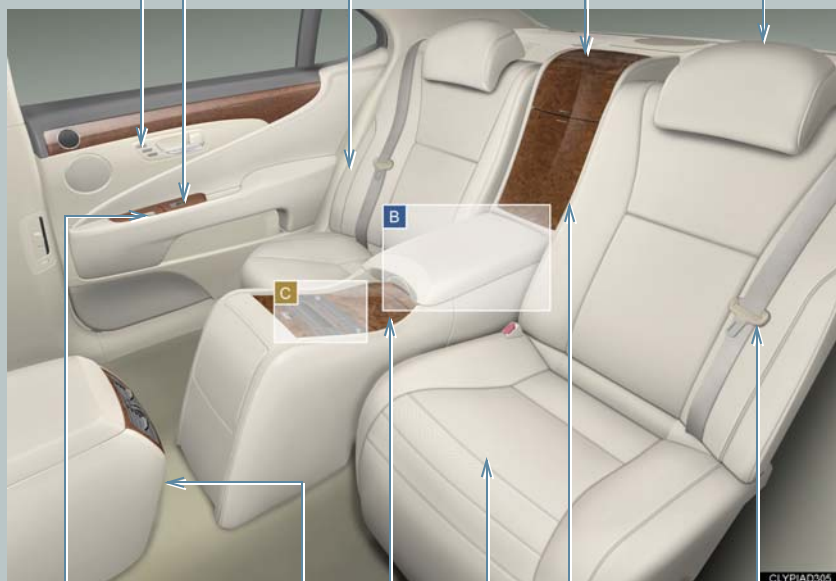
DVD プレーヤー※
ヘッドフォンジャック※

パワーウインドウ
スイッチ P. 114

SRS サイド
エアバッグ P. 134

ヘッドレスト P. 101

A



ノースモーカーズ
ボックス * P. 290

灰皿 * P. 296

アクセサリーコンセント P. 299

カップホルダー P. 287

SRS シートクッションエアバッグ P. 134

シートベルト P. 104

小物入れ P. 291

A

後席 9 型ワイドディスプレイ※

インテリアライト P. 281

パーソナルライト P. 281



バニティーミラー P. 295

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 134

コートフック P. 319

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

シガレットライター * P. 297

アクセサリソケット * P. 299

入力端子※

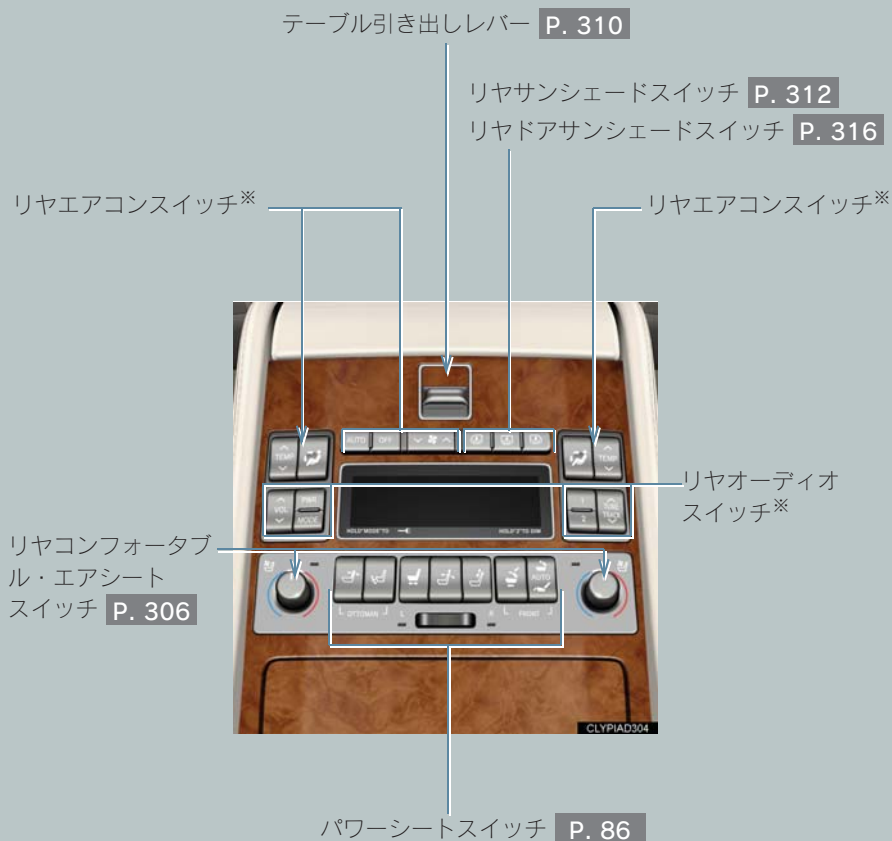
リヤシートリラクゼーション
システム / ペルビックサポート
シートリモコン P. 86



後席ディスプレイリモコン※

小物入れ P. 291

C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはS R Sエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまをのせるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 152）をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務づけられています。）

ハイブリッドシステムについて

LS600h/LS600hL は電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

LS600h/LS600hL を安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりと読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

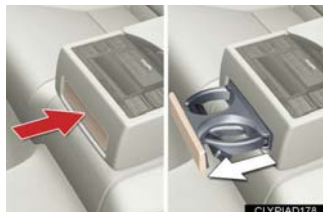
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの 特徴.....	32
ご使用になるにあたって (高電圧・高温について).....	36
ご使用になるにあたって (駆動用電池・吸入口に ついて)	40
ハイブリッドシステムの 作動状態.....	42
ハイブリッド車運転の アドバイス	49

1-2. キーの取扱い

キー.....	51
---------	----

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	56
ワイヤレスリモコン	67
ドア.....	69
トランク.....	74

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート	80
パワーリヤシート	86
ドライビングポジション メモリー.....	95

リヤシートポジション

メモリー	99
ヘッドレスト	101
シートベルト	104
ハンドル	109
インナーミラー.....	110
ドアミラー	112

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ.....	114
ムーンルーフ	117

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方.....	121
--------------	-----

1-7. 盗難防止システム

イモビライザーシステム	125
オートアラーム.....	126

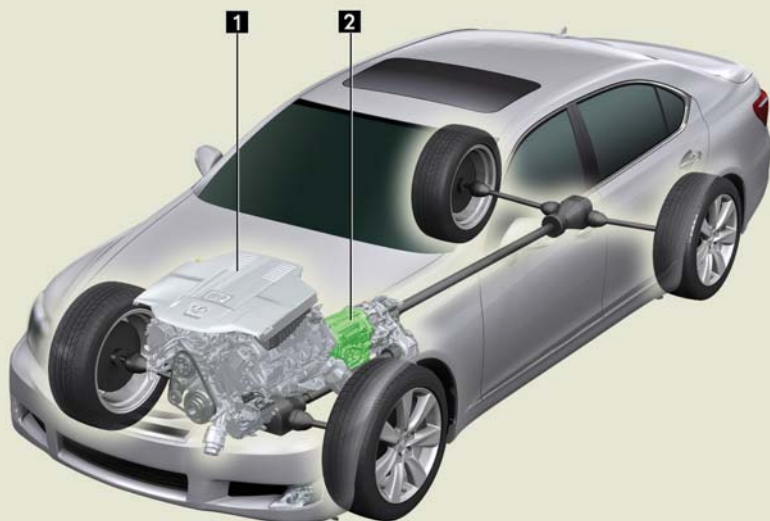
1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢.....	132
SRS エアバッグ	134
子供専用シート.....	143
チャイルドシート (子供専用シート) の取り付け	152

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴

LS600h/LS600hL のハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に優しい技術となっています。



CLY11AH106

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

2 電気モーター

- ガソリンエンジンは必要に応じて始動・停止して燃料の無駄な消費を防ぎます。
- 発進時は電気モーターが駆動を担当し、加速力に応じてガソリンエンジンと電気モーターの両方で駆動することによって、滑らかな発進、力強い加速性能を実現しています。
- ガソリンエンジンと電気モーターを最適に制御することにより、画期的な燃費向上、排出ガスのクリーン化を可能にしています。
- ガソリンエンジンの動力や減速時の回生ブレーキにより、駆動用電池および補機バッテリーが充電されるため、車外からの充電は必要ありません。

 知識**■ ハイブリッド走行について**

車両状態に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても発進可能です。

なお、下記の状態ではガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池の充電レベルが低いとき
- 暖房をかけているとき
- 補機バッテリーの交換などのために、ターミナルの脱着をおこなったとき

なお、自動停止しない状態が長時間続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ 始動・発進について

ハイブリッドシステム始動後、はじめはマルチインフォメーションディスプレイ内のREADY インジケーターが点滅します。点滅が終わるまでお待ちください。

点滅が終わり READY インジケーターが点灯したら走行可能です。(→ P. 169)

■ クリープ現象について

坂道での車両の保持、発進時のペダル操作をより使いやすくするため、通常のオートマチック車と同様にクリープ力を発生させるようにしてあります。

■ 回生ブレーキとは

電気モーターは、外部の力でまわすことにより発電機として作動させることができます。この特性を利用して、アクセルペダルから足をはなしたときやブレーキペダルを踏んだときに、電気モーターを発電機として使用し、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ電気エネルギーを回収するとともに減速力を得ることができます。この機能を回生ブレーキといいます。

回生ブレーキは、ハイブリッドシステムが自動的におこなうため、アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作方法は通常の車と同じです。

■充電について

- ガソリンエンジンの動力や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に1度、約30分間は運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

- ハイブリッドシステム作動中は自動的に充電されますが、シフトレバーがNにあるときは充電がおこなわれません。車両停止時は必ずPにしてください。また、渋滞時などでも、DまたはSで運転してください。

■給油について

ハイブリッド車も燃料がなければ走行できません。燃料残量警告灯が点灯したら、すみやかに燃料を補給してください。

■加速が鈍いときは

急加速を繰り返したり、長い時間加速を続けたりすると、一時的に加速が悪くなったように感じる場合があります。これは、駆動用電池の充電が間に合わず、充電レベルの低下によって、電気モーターの駆動力がプラスされていないためです。しばらく加速を中止するなどして、駆動用電池が充電されるのを待つと、通常の加速性能に戻ります。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

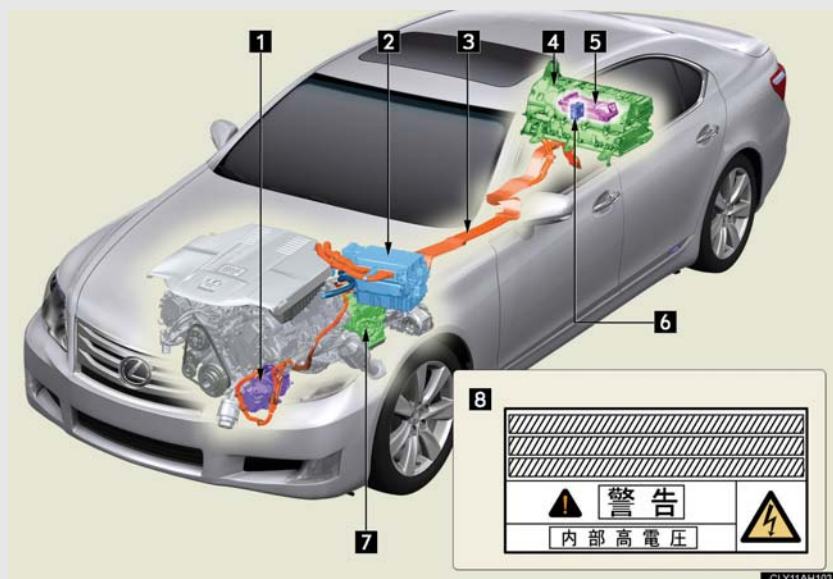
- ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯して走行可能な状態でも、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
安全のため、駐車時は必ずシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。
- エンジンがまわると音がするのと同様に、電気モーターもまわると音がします。
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは、高電圧リレーの音で、異常ではありません。
- ガソリンエンジン始動・停止時に、トランスミッション付近から“コツコツ”、“カタカタ”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 発進時に“キーン”という音がしますが、これはパワーコントロールユニットの作動音です。
- ハイブリッドシステムが作動しているときに、トランクを開けると“キーン”という音がしますが、これはハイブリッドシステムの作動による音です。
- 減速時の“ヒューン”という音は、エネルギー回生音です。
- 急加速時に突然エンジン音が大きくなったとすることがあります。これは、エンジン回転を高くして加速力を得ているためです。通常走行時のエンジン音が静かな分、より大きく感じられます。
- 停車中・走行中の軽い振動は、ガソリンエンジンの始動・停止による振動です。ハイブリッド車のエンジンは、状況に応じて自動的に始動・停止を繰り返すため、走行中であっても軽い振動を感じる場合があります。
- 電気モーターだけで走行しているときは、歩行者や付近の人に注意してください。エンジン音がしないので車両の接近に気づかないおそれがあります。
- リヤシート後方にある吸入口からファンの音が聞こえることがありますが、これは駆動用電池を冷却している音で、異常ではありません。

1-1. ハイブリッドシステムについて

ご使用になるにあたって（高電圧・高温について）

LS600h/LS600hL には、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。

■ 主な高電圧部位



※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 エアコンコンプレッサー | 5 DC/DC コンバーター |
| 2 パワーコントロールユニット | 6 サービスプラグ |
| 3 高電圧ケーブル（オレンジ色） | 7 電気モーター |
| 4 駆動用電池 | 8 コーションラベル★ |

★ 高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

警告

■ 高電圧、高温について

- 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対におこなわないでください。



- サービスプラグがリヤシート奥に設置してあります。サービスプラグはレクサス販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電し、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。危険ですので、絶対に触らないでください。

- 電気モーター、冷却用ラジエーターなど高温になる部位があります。熱くなっている場合がありますので触らないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限におさえます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。



警告メッセージは、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示されたメッセージの指示にしたがってください。

知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 376）が消灯するまで給油してから再起動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 13L です。車両の傾きによって給油量は変わります。）

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線（オレンジ色）は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 無線機の取り付け・取りはずしについては、レクサス販売店にご相談ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

**警告****■事故が発生したときは**

以下のことをお守りいただかないと、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 続発事故防止のため、他の交通の妨げにならないような安全な場所に停車する
- 高電圧が各ユニットにかからないようにするため、シフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、“パワー”スイッチを OFF にしたあと、キーを携帯して車を離れる
- 高電圧部位、高電圧配線（オレンジ色）などには絶対に触らない
- 車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対に触らない
- 液体の付着や漏れがある場合は絶対に触らない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- タイヤが接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。（→ P. 368）

■事故後、ハイブリッドシステムを始動する前に

車の下の路面などを確認し、液体の漏れ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。

この場合は、レクサス販売店へ連絡するときに状況を併せてお伝えください。

1-1. ハイブリッドシステムについて

ご使用になるにあたって（駆動用電池・吸入口について）

パッケージトレイ上部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。



吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

警告

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

吸入口を分解したり、はずさないでください。

吸入口の奥には高電圧電池があるため、手などをいれると、生命にかかわる感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

■ 駆動用電池の回収について

廃車する場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

駆動用電池は、レクサス販売店を通じて回収をおこなっていますので回収にご協力ください。

適切に廃棄されず、不法に投棄または放置されると、第三者が駆動用電池などの高電圧部位に触れた場合に、生命にかかわる感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

**注意****■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- 吸入口の上に荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、ハイブリッドシステムの出力低下につながるおそれがあります。
- 吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの作動状態

LS600h/LS600hL のハイブリッドシステムがどのように作動するかを説明します。

実際には、駆動用電池の充電が必要なときやガソリンエンジン暖機中など、使用状況に応じてさまざまな制御をおこないます。



電気のエネルギー



ガソリンのエネルギー



エネルギーを回収（充電）

■ 停車時・発進時



停車中はガソリンエンジンを停止します。

発進時は、駆動用電池の電力で電気モーターを使って発進します。

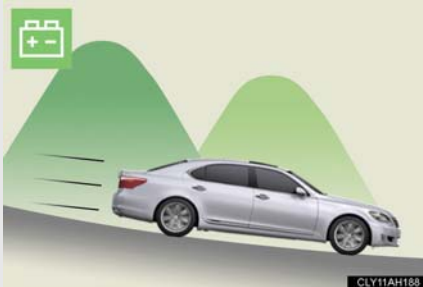
（状況により、ガソリンエンジンが停止しない場合があります。）

■ 通常走行時



ガソリンと電気を効率よく使って、低燃費で走行します。

■ 減速時・制動時



車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。(回生ブレーキ)

■ 低速走行時



ガソリンエンジンの効率が悪い領域では、ガソリンエンジンを停止し、電気モーターで走行します。

■ 全開加速時



ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

エネルギーモニター／燃費画面

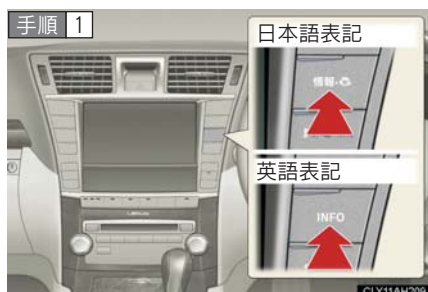


車両駆動状況、ハイブリッド動作状況およびエネルギーの回収状況を表示します。ナビゲーションシステムの画面とメーター内のマルチインフォメーションディスプレイで表示させることができます。

表示されるエネルギーの流れや駆動用電池の残量などは、そのときの走行状況に応じて異なります。

■ エネルギーモニターの見方

- ナビゲーションシステム画面で表示するには：



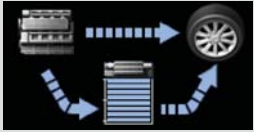
[情報・G] または [INFO] スイッチを押す。

- 手順 2 [エコ情報] にタッチする。

毎分燃費画面または区間燃費画面が表示されているときは、[エネルギー] にタッチします。

- マルチインフォメーションディスプレイで表示するには：

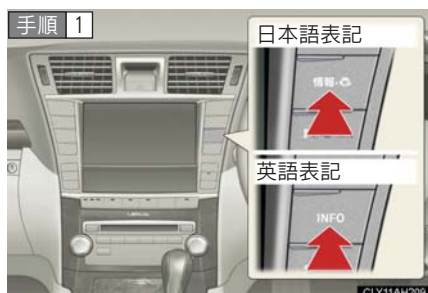
ハンドルのDISPスイッチをエネルギーモニターが表示されるまで数回押す。(→ P. 196)

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	 	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき	 	 

	ナビゲーションシステム画面	マルチインフォメーションディスプレイ
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない 多い	少ない 多い

※画面は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

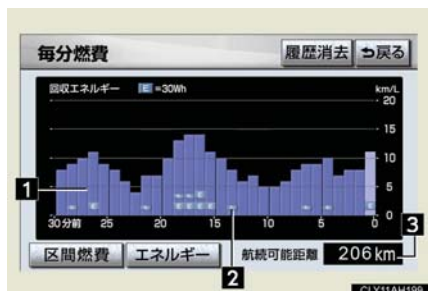
■ 毎分燃費の見方



[情報・G] または [INFO] スイッチを押す。

手順 2 [エコ情報] にタッチする。

エネルギーモニター画面または区間燃費画面が表示されているときは、[毎分燃費] にタッチします。



1 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)

“パワー”スイッチを ON モードにしてから現在までと、それ以前の平均燃費を色分けして表示します。

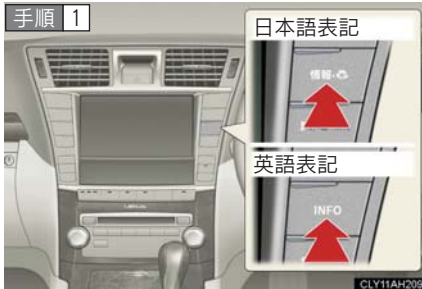
2 過去 30 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 30Wh です。

3 航続可能距離 (→ P. 48)

※画面は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方



[情報・G] または [INFO] スイッチを押す。

手順 2 [エコ情報] にタッチする。

エネルギーモニター画面または毎分燃費画面が表示されているときは、[区間燃費] にタッチします。



1 過去最高燃費

2 平均燃費

マルチインフォメーションディスプレイの平均燃費をリセットしたごとの平均燃費を表示します。(→ P. 196)

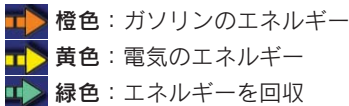
リセット時の平均燃費が過去最高燃費を上まわっていた場合には、過去最高燃費が更新されます。

※画面は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

知識

■ 表示について

- ナビゲーションシステム画面では、エネルギーの流れを次のように色分けして矢印で表示します。



- バッテリー部分は、駆動用電池の残量を 8 段階で表示します。

■ 燃費データをリセットするには

毎分燃費画面で [履歴消去] にタッチすると、平均燃費、エネルギー回収量がリセットされ、0 に戻ります。

区間燃費画面で [履歴消去] にタッチすると、平均燃費、過去最高燃費、日付表示がリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

環境に配慮した経済的な運転のしかた

■ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアに保つことで、環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 189)

■ 加速時のアクセル操作

加速後いったんアクセルを戻し、その後徐々に踏み込みましょう。こうすることでモーターでの走行を多くすることができます。

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、緩やかなブレーキ操作をおこないましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速の繰り返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルを緩めて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルを戻し緩やかなブレーキ操作をおこないましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環に設定しましょう。エアコンの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不用な荷物は、積んだままにせずにおろしましょう。

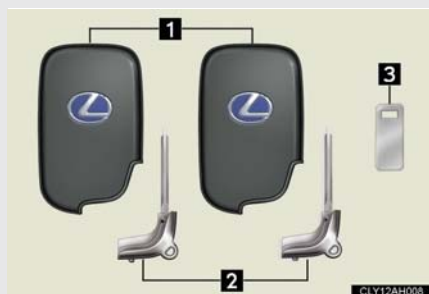
また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的におこないますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行の繰り返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動が頻繁におこなわれることとなりますので、燃費の悪化につながります。

お客様へ以下のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 56)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 67)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー



1 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 56)

2 メカニカルキー

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後はもとに戻し、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

(→P. 399)

知識

■カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。(→P. 74, 285)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。新しいキーを作製する場合にキーナンバーが必要となります。

■ 新しくキーを作製する場合は

車両に付属している電子キー、カードキー、キーナンバープレートからレクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



注意

■ キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 分解しない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

 注意

■ 電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

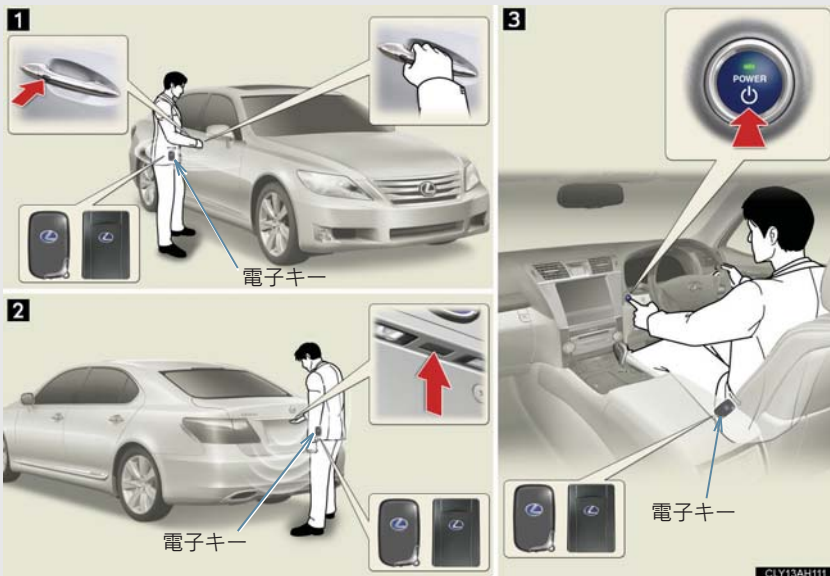
■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が錆びて作動しなくなるおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯しているだけで以下の操作がおこなえます。

（必ず運転者が携帯してください。）



1 ドアの解錠・施錠（→P. 57）

2 トランクの解錠（→P. 57）

3 “パワー” スイッチ切り替え、ハイブリッドシステムの始動（→P. 169）

ドアの解錠・施錠



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠したあと 3 秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

長押しするとドアガラスが閉まります。
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。

トランクを開ける

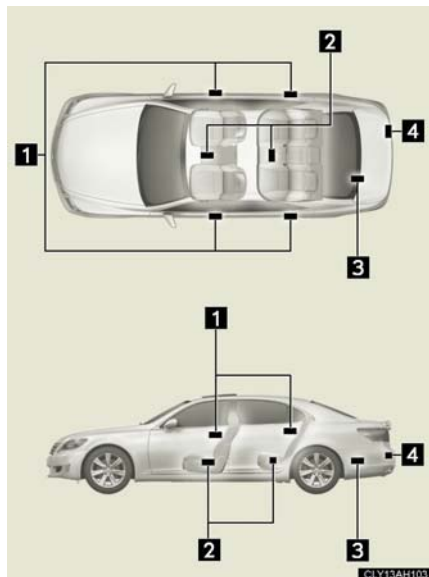


スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は
自動で全開します。

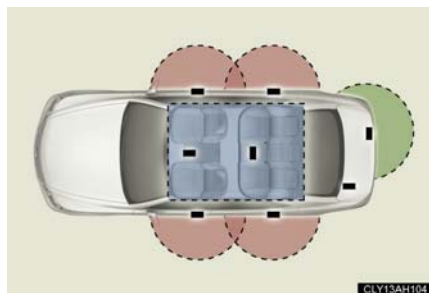
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)
- : トランクの解錠時
トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチ切り替え時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。



1 音量大

2 音量小

いっぱいまでまわすと音を消すことができます。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー & スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 399)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したたばこの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ C D や D V D などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（P D A など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ 解錠ドアの切替機能

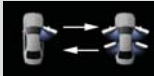
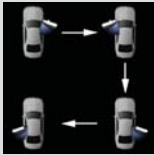
ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にする。

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P. 126）

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける。

操作をおこなうごとに次の表のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手をはなしたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピピッ”（4回） 車内：“ポーン”（1回）
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピピッ”（1回） 車内：“ポーン”（1回）
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける。



ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 126）

■ 節電機能

電子キーの電池と車の補機バッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 1ヶ月以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- 電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する（→P. 67）
- メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 399）

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警報音が鳴ります。(→P. 64)
- 電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 360)
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ T V
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
 - ・ ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチの切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、ドアポケット内、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します。）
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■ 長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

■ 解錠操作後のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。以下にしたいがい適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“パワー”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

警告音	状況	対処方法
車内から “ピー” と鳴り続ける※ 1	“パワー” スイッチが ON モードまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P に入れ、“パワー” スイッチを OFF にしてください。
車内・車外から “ピー” と鳴り続ける※ 1	“パワー” スイッチが ON モードまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを開めた	シフトレバーを P に入れ、“パワー” スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
車内から “ポーン” と 1 回鳴る※ 1	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした。	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動してください。※ 2
車内から “ポーン” と 1 回鳴る 車外から “ピー、ピー、ピー” と 3 回鳴る※ 1	“パワー” スイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを開めた	“パワー” スイッチを OFF にしたあと、再度運転席ドアを閉めてください。
	“パワー” スイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを開めた	キーを車内に戻してください。

※ 1 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

※ 2 電子キーが車内にあってもハイブリッドシステムが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 59)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 399

●ハイブリッドシステムの始動：→P. 400

■キーの電池が切れたときは

→P. 360

■ 設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 → P. 420)

警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは雷克萨斯販売店にお問い合わせください。

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

車外からドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラスとムーンルーフを閉める（長押し）※
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラスとムーンルーフを開ける（長押し）※
- 5 トランク解錠（長押し）
パワートランクリッド装着車：
トランクが開く（長押し）

※：レクサス販売店ででの設定が必要です。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯で知らせます。（施錠は1回、解錠は2回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。
（→P. 59）

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 126）

■ 電池の消耗について

→P. 62

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 64

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

● ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 399

● ハイブリッドシステムの始動：→P. 400

■ キーの電池が切れたときは

→P. 360

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 59

■ 設定可能な機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 420)

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 57

■ ワイヤレスリモコン

→P. 67

■ ドアロックスイッチ



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに車外から運転席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“パワー” スイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“パワー” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

 知識**■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。

- “パワー” スイッチがどのモードであっても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ 設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 420)



警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもやらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートベルトを必ず使用する

● すべてのドアを施錠する

● すべてのドアを確実に閉める

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

● お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

警告

■ イージークローザーについて



- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないよう十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

頻繁にドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには



トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

■ 車外からトランクを開けるには

▶ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 57

▶ ワイヤレスリモコン

→P. 67

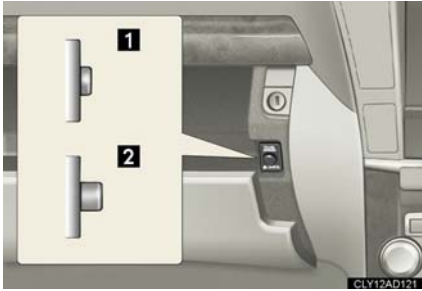
トランクリッカー（パワートランクリッド装着車）



スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。

トランクオープナーを使用できなくするには



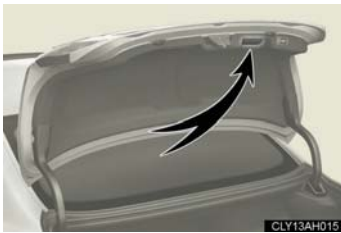
グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- 1 ON
- 2 OFF

ワイヤレスリモコンやスマートエントリー&スタートシステムでも、トランクが開かなくなります。



■ トランクグリップ



トランクを引き下げるときにお使いください。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

- “パワー” スイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、トランクを一旦半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■ 過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止し、開きます。

■販売店で設定可能な機能

パワートランクリッドを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧→ P. 420）

警告

■走行中の警告

- 走行中はトランクを閉じてください。

開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまをのせているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。

不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

トランクの使用にあたって

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■ イージークローザーについて



トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクの間に挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクが落ちる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にトランクリッドが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ ハイブリッドシステム停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、“パワー”スイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

 警告**■ 挟み込み防止機能**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機構は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意**■ イージークローザーの故障を防ぐために**

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や氷などの荷物が乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

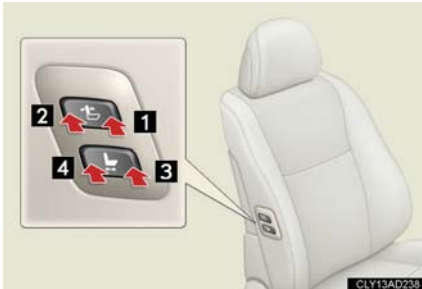
1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

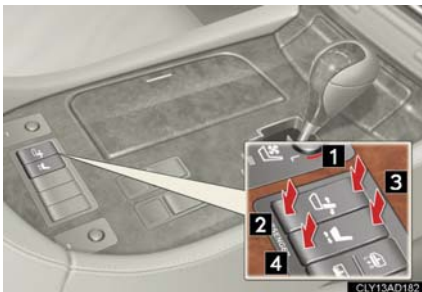
運転席からの助手席操作について

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車



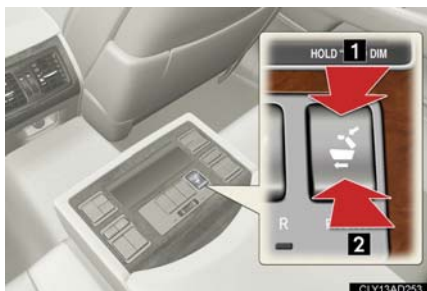
- 1 シートバックを前に傾ける
- 2 シートバックをうしろに傾ける
- 3 シートを前方に動かす
- 4 シートを後方に動かす

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車



- 1 シートバックを前に傾ける
- 2 シートバックをうしろに傾ける
- 3 シートを前方に動かす
- 4 シートを後方に動かす

リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート非装着車）*



1 助手席を前へ移動

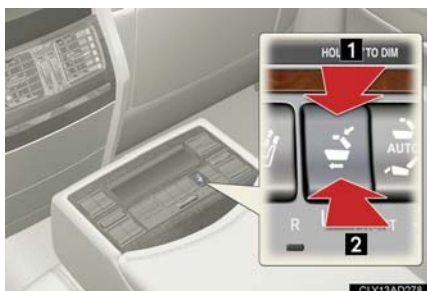
前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

2 助手席をうしろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。

リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート装着車）

▶ 5 人乗り



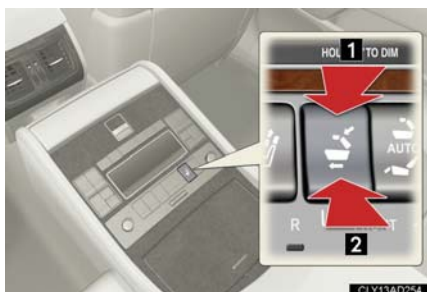
1 助手席を前へ移動

前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

2 助手席をうしろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。

▶ 4 人乗り



1 助手席を前へ移動

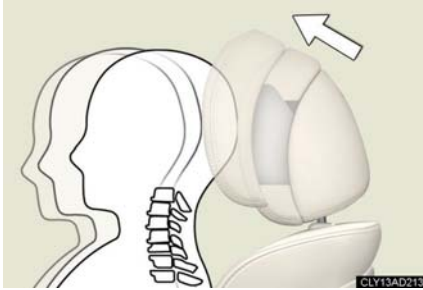
前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

2 助手席をうしろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

アクティブヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車および可倒式ヘッドレストを除く）



追突の衝撃を車両が感知することで、ヘッドレスト前面が斜め上方に動き、乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

後退時に、後方からの弱い衝撃でも作動する場合があります。

プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車）

→ P. 262

知識

■可倒式ヘッドレストの作動について*

- “パワー” スイッチが ON モードのとき、助手席側面または、センターコンソール上のシートリクライニングスイッチの操作にあわせてヘッドレストが以下のよう
に作動します。
 - ・ 前方ヘリクライニング時：リクライニング作動後、ヘッドレストが上昇したの
ち前倒しになり、作動が完了するとブザーが鳴ります。作動の途中でスイ
ッチから手をはなすと、ヘッドレストは中立位置に戻ります。
 - ・ 後方ヘリクライニング時：ヘッドレストが前倒しになっていると、中立位置
まで戻ります。
- 以下の場合、シートリクライニングスイッチを操作してもヘッドレストは作動し
ません。
 - ・ “パワー” スイッチが OFF のとき
 - ・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検
知しているとき
 - ・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
 - ・ 助手席ドアが開いているとき

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤ席からの助手席操作について

“パワー”スイッチがONモードのとき使用できます。ただし以下の場合は、スイッチを操作しても助手席が作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

■ 運転席クッション長さの自動調整*

運転席を前方に調整しているとき、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動的にクッションが短くなるよう調整します。

■ シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）

シート操作時やオートアウェイ機能作動時に、フロントシートがテーブル（4人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。

（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

■ アクティブヘッドレストについて*

- 助手席に乗員がいないと、助手席のアクティブヘッドレストは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトがバックルに留められている場合は、追突時に乗員がいなくても助手席のアクティブヘッドレストが作動することがあります。
- アクティブヘッドレストが作動すると、ヘッドレスト前面が斜め上方に出たままの状態になるため、作動後は必ずレクサス販売店で修理を受けてください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告**■ シート調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。

倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫をうけたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあります。

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。

足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■ 助手席アクティブヘッドレストについて

助手席座面には座布団などを敷かないでください。

乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

■ アクティブヘッドレストの取り扱い

● ヘッドレストカバーをつけないでください。

● アクティブヘッドレストの取りはずしや取り付け、分解、廃棄などは、レクサス販売店にご相談ください。不適切に扱うと、事故の際に正常に作動しなくなるおそれがあります。

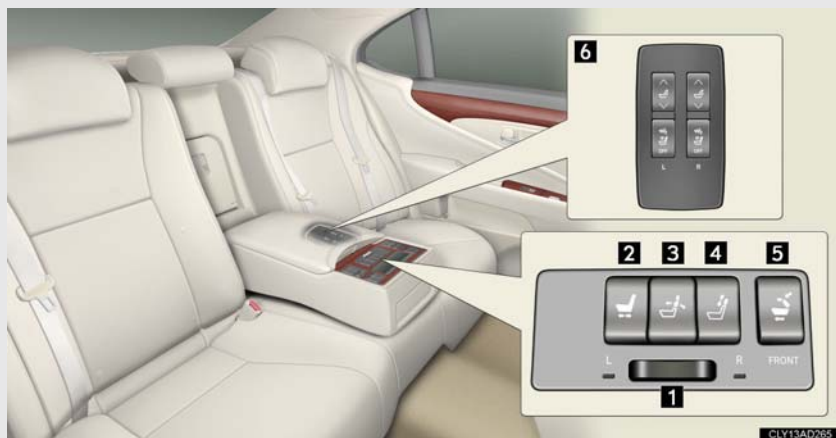
 注意**■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について**

操作するときは助手席の上や足元に作動を妨げるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

パワーリヤシート*

▶ 5人乗り（リラクゼーションシート非装着車）



1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト高さ調整（→P. 101）

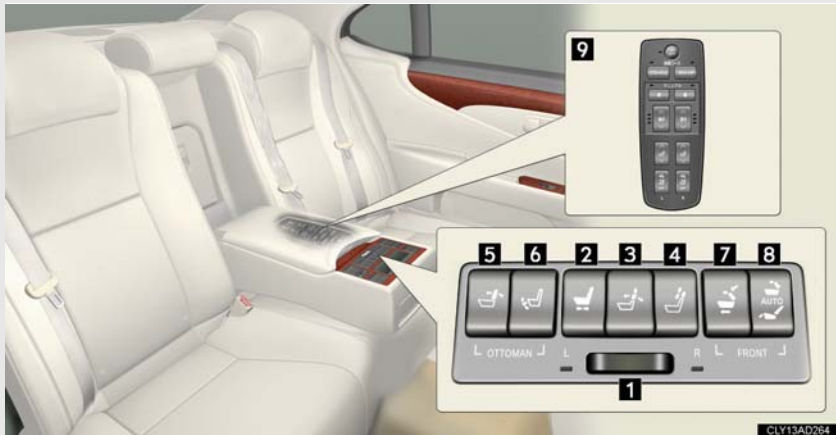
5 助手席コントロールスイッチ（→P. 82）

6 ペルビックサポートシートリモコン

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ 5人乗り（リラクゼーションシート装着車）



リヤ左席（助手席うしろ側の席）には、リクライニング機能とOTTOMAN（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

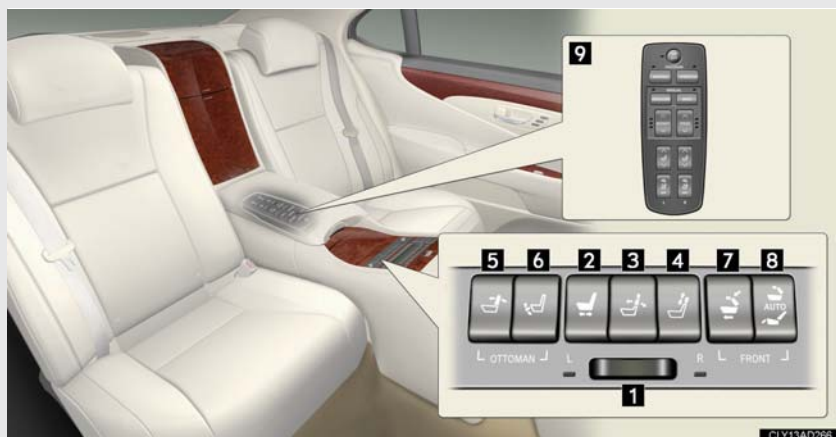
1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整**3 背もたれ上部角度調整****4 ヘッドレスト高さ調整（→P. 101）****5 リクライニング調整****6 OTTOMAN（フットレスト）角度調整****7 助手席コントロールスイッチ（→P. 82）****8 リラクゼーションモードスイッチ****9 リヤシートリラクゼーションシステム / ペルビックサポートシートリモコン**

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

▶ 4 人乗り



リヤ左席（助手席うしろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト高さ調整（→P. 101）

5 リクライニング調整

6 オットマン（フットレスト）角度調整

7 助手席コントロールスイッチ（→P. 82）

8 リラクゼーションモードスイッチ

9 リヤシートリラクゼーションシステム / ペルビックサポートシートリモコン

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

フロント席からリヤシートを戻す

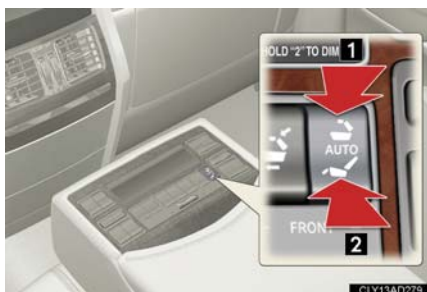


ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へ戻ります。

リラクゼーションモード（リラクゼーションシート装着車）

スイッチ操作で、シートをリラクゼーションモードにすることができます。助手席が前へ移動し、リヤ左席の背もたれとオットマンが同時に作動します。

▶ 5 人乗り



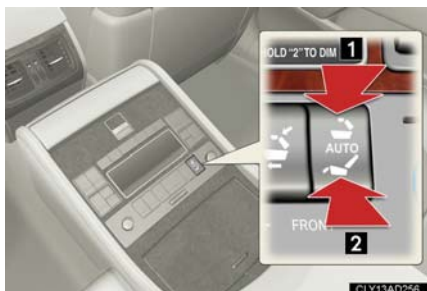
スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

1 リラクゼーションモードにする

2 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

▶ 4 人乗り



スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

1 リラクゼーションモードにする

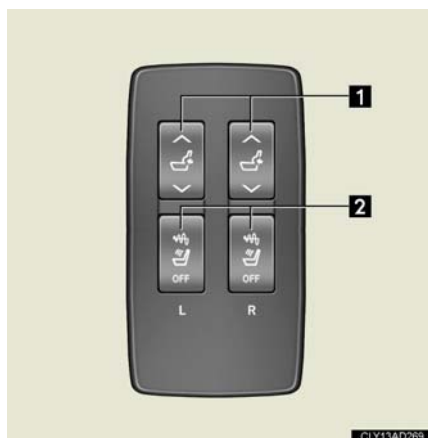
2 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）

腰部のサポート機能にバイブレーターを備えたペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）が左右席に装備されています。腰位置に内蔵されたサポートプレート前後位置とバイブレーターの速度をお好みにより調整することができます。

▶ リラクゼーションシート非装着車

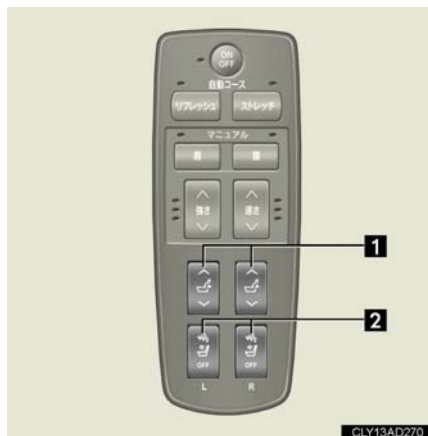


1 前後調整スイッチ

2 バイブレータースイッチ

 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すたびに、バイブレーターの速度を 3 段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。

▶ リラクゼーションシート装着車



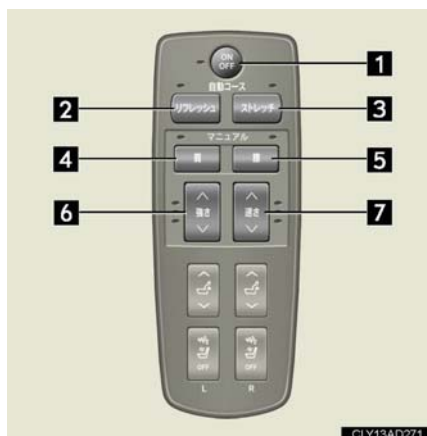
1 前後調整スイッチ

2 バイブレータースイッチ

 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すたびに、バイブレーターの速度を 3 段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。

リヤシートリラクゼーションシステム（リラクゼーションシート装着車）

エアの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが左席（助手席うしろ側の席）に装備されています。作動の強さ、速度をお好みにより調整することができます。



1 システムの ON/OFF、各作動の停止

約3分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的にシステムが OFF になります。

2 リフレッシュの自動コースを開始

背中全体へ部分的に作動します。

3 ストレッチの自動コースを開始

腰部中心に作動をします。

4 肩部の作動を開始

5 腰部の作動を開始

6 作動の強さ調整

3 段階で調整することができます。

7 作動の速度調整

3 段階で調整することができます。

知識

■ ドア連動シートリターン機能について

● 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

● 作動の停止

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- ・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- ・ シート調整スイッチのいずれかを押す。

● 機能のキャンセル



C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケータが点灯します。ドアを連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。

● “パワー” スイッチ OFF 後の作動

“パワー” スイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

■ リラクゼーションモードについて（リラクゼーションシート装着車）

● 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき使用できます。ただし以下の場合は、スイッチを押しても作動しません。

- ・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- ・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- ・ 助手席ドアが開いているときの前方への作動

● “パワー” スイッチ OFF 後の作動

“パワー” スイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、リターン操作でリヤシートを中立位置に戻すことができます。

■ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）について

●作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

●自動停止機能

- ・ バイブレーターの作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。
- ・ バイブレーターは、使用している方のドアを開けると、自動的に停止します。

●リターン機能

- ・ サポートプレートの前後調整は、“パワー” スイッチ OFF 後、約 5 秒で自動的にもとの位置に戻ります。
- ・ サポートプレートは、使用している方のドアを開けると、自動的にもとの位置に戻ります。

■リヤシートリラクゼーションシステムについて

●作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

●自動停止機能

各作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。



警告

■ パワーシートについて

● シート調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

● フロント席からリヤシートを戻すときは

リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

● 前後調整やオットマンの操作をするときは（リラクゼーションシート装着車）

足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。

● オットマンの使用について（リラクゼーションシート装着車）

- ・ オットマン部分には座らないでください。シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

■ ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）/ リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

● 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。

● お子様は使用しないでください。

● 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

● 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。



注意

■ オットマンの故障を防ぐために（リラクゼーションシート装着車）

● 足元のスペースを確保しオットマンの作動を妨げないようにしてください。

● オットマン部分に重いものを載せないでください。

● オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドライビングポジションメモリー

1

運転
する
前
に

お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度、シートベルトの高さ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

助手席側のスイッチ*は助手席の位置を登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 2 “パワー” スイッチをONモードにする。

手順 3 運転席、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さをお好みの位置に調整する。（助手席の位置を記憶させるときは、助手席をお好みの位置に調整する）



SETボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

手順 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 2 “パワー” スイッチをONモードにする。



1～3のうち呼び出したいポジションのボタンを押す。

助手席（リラクゼーションシート装着車）：後席用テーブル使用時（4人乗り）または、オットマン作動時はポジションの呼び出しができません。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには（運転席）

ポジションを電子キーに登録しておく、スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けたとき、ドライビングポジションが呼び出されます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  をブザーが鳴るまで押す。

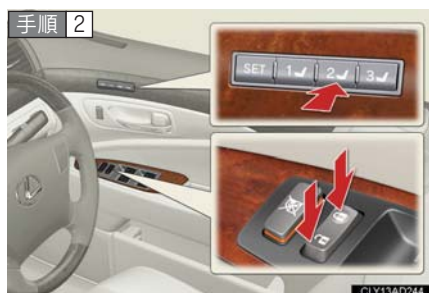
手順 3 いずれかのドアを開ける。

 を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。(→P. 126)

▶ ドアロックスイッチでの登録

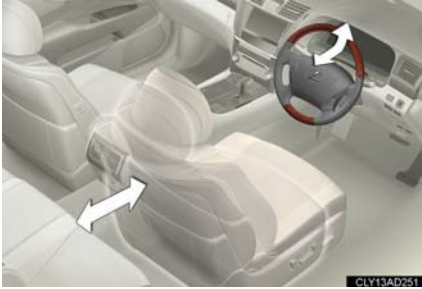
登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



1 ～ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。(運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう。)

パワーイージーアクセスシステム



運転者が乗り降りしやすいよう、乗降時にオートアウェイ機能 / オートリターン機能が作動します。

▶ オートアウェイ機能（降車時）

以下のすべての操作をおこなったとき、ハンドルが最前方・最上段に、運転席が後方にそれぞれ移動します。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ “パワー” スイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

▶ オートリターン機能（乗車時）

以下のいずれかの操作をおこなったとき、ハンドルが手前に、運転席が前方にそれぞれ移動します。

- ・ “パワー” スイッチをアクセサリーモードにする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■ ドアの解錠と連動させたとき

運転席ドアを開けると運転席が登録したポジションまで動くように作動しますが、乗車しやすいように登録したポジションより少し後方でいったんシートが止まります。“パワー” スイッチをアクセサリーモードにする、またはシートベルトを装着すると、登録したポジションまでもう一度スライドします。

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  をブザーが鳴るまで押す。

ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

■“パワー”スイッチ OFF 後の作動

運転席：“パワー”スイッチを OFF にしたあとも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、または再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならスイッチ操作（1 ～ 3）でポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

助手席：“パワー”スイッチを OFF にしたあとも、助手席ドアを開けて 180 秒以内ならスイッチ操作（1 ～ 3）でポジションの呼び出しができます。

■各ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をすると、呼び出し作動のすべてが停止します。

- SET ボタンを押す

- 1 ～ 3 のボタンを押す

呼び出し作動中にシート、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さの調整スイッチを操作すると、操作したシステムがマニュアル作動に切り替わります。

■シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）

シート操作時やオートアウェイ機能作動時に、フロントシートがテーブル（4 人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。

（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあると、オートアウェイ機能をおこなわない場合があります。

■カスタマイズ機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。

（カスタマイズ一覧 → P. 420）

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

リヤシートポジションメモリー*

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

■ ポジションの登録

手順 1 “パワー” スイッチを ON モードにする。

手順 2 リヤ席を好みの位置に調整する。



SET ボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し



M ボタンをブザーが鳴るまで押す。

リラクゼーションシート装着車：
オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下に登録されている場合のみ作動します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■ ドア連動シートリターン機能について

● 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

● 作動の停止

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- ・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- ・ シート調整スイッチのいずれかを押す。

● 機能のキャンセル



C ボタンを押すと、ポジションの呼び出し作動やドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケータが点灯します。機能を復帰させるにはもう一度 C ボタンを押します。

● “パワー” スイッチ OFF 後の作動

“パワー” スイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

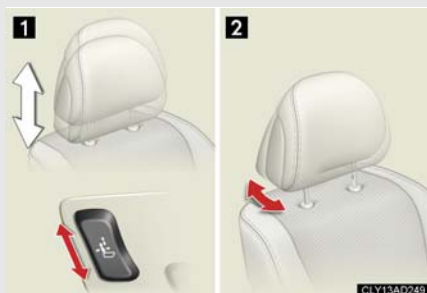
警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートに当たらないよう注意してください。

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト

■ フロント席



1 上下調整

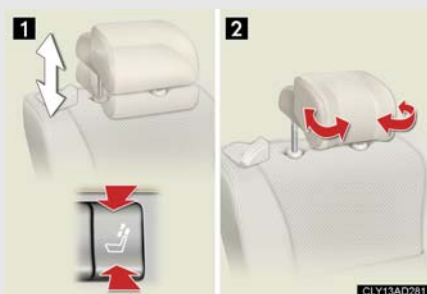
→P. 80

2 前後調整

助手席可倒ヘッドレスト装着車：運転席のみ調整できます。

■ リヤ外側席

▶ 電動式

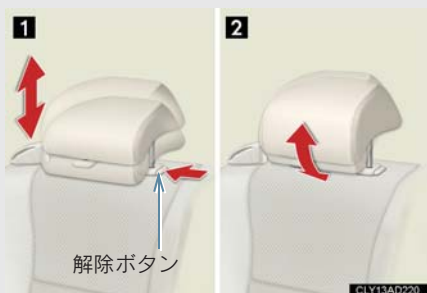


1 上下調整

→P. 86

2 サイドサポート調整

▶ 手動式

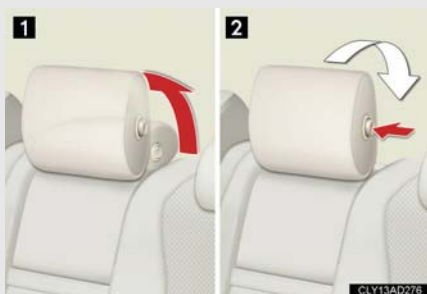


1 上下調整

下げるときは解除ボタンを押しながら調整します。

2 前後調整

■ リヤ中央席（5人乗り）



1 使用時

2 格納時

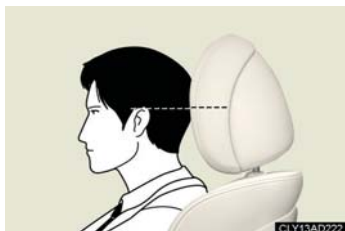


知識

■ ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■ リヤ中央席について

リヤ中央席に座るときは、必ずヘッドレストを手前に引き起こしてご使用ください。

**警告****■ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

■ 着け方、はずし方



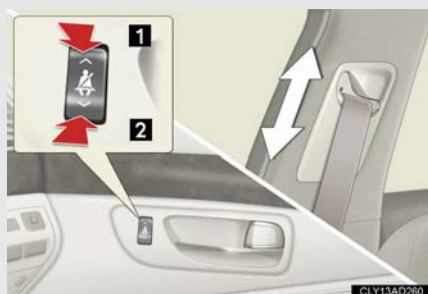
1 固定

“カチツ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。
はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンを押してください。

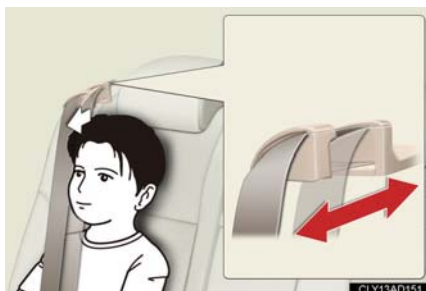
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 上がる

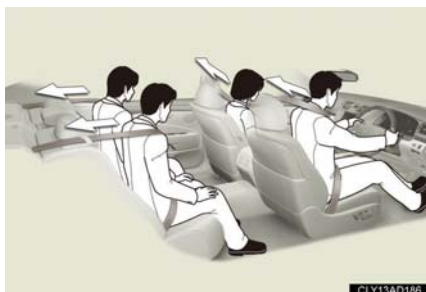
2 下がる

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）



肩ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻きこみ、より早く乗員を拘束することで衝突の被害を軽減します。（→P. 251）

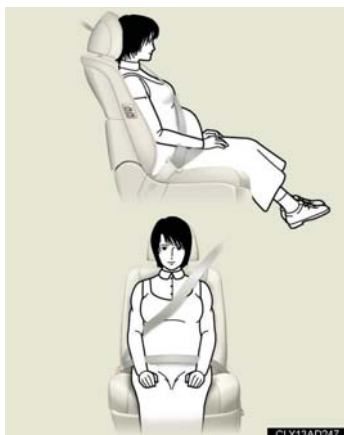
急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 251）

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のあるかたの場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 104)

妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

シートベルトは、それを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 152)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 104)

■シートベルト高さの自動調整

調整後のシートベルト高さをドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 95)

■シートベルトプリテンショナーについて

- 助手席に乗員がいないと、助手席のシートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席のシートベルトプリテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■助手席シートベルトプリテンショナーについて

助手席座面には座布団などを敷かないでください。

乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。



警告

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店へご連絡ください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

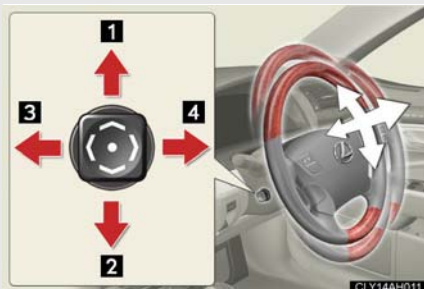
■ プリクラッシュシートベルトについて

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

“パワー” スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



- ❶ 上がる
- ❷ 下がる
- ❸ 前方に動く
- ❹ 手前に動く

知識

■ ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録することができます。(→P. 95)

■ パワーイージーアクセスシステム

“パワー” スイッチのモード切り替えや運転席シートベルト脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P. 96)

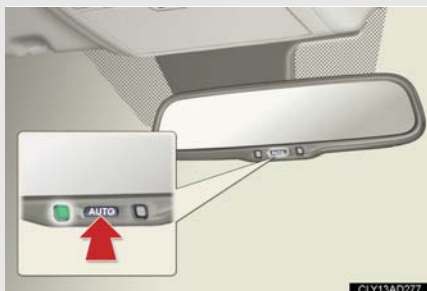
警告

■ 走行中の警告

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた インナーミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“パワー”スイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

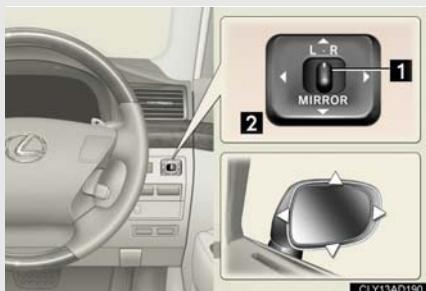
運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1

運転
する
前に

1-4. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

“パワー” スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、スイッチでミラーの角度調整ができます。



- 1 ミラーを選ぶ
(L: 左、R: 右)
- 2 スイッチを操作してミラー角度を上下左右に調整する

ドアミラーを格納するときは



- 1 格納する
- 2 もとの位置に戻す

スイッチを中立の位置 (AUTO) にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 95)

■ リバース連動機能

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置 (L・R の間) にしておくと、この機能は作動しません。

■ レインクリアリングミラー

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

■ 次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を 1・2 日間当てると回復します。

- ミラーの汚れを拭き取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車をしたとき
- 長期間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき

⚠ 警告

■ 走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

⚠ 注意

■ ミラーが凍結したとき

親水膜の効果を持続させるため、ミラーの凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして解氷してください。

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを開閉することができます。(→P. 57)
- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 399)

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたはOFFにしたあと約45秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 設定可能な機能

ドアキー連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 420)

警告

■ ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう「声かけ」をしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

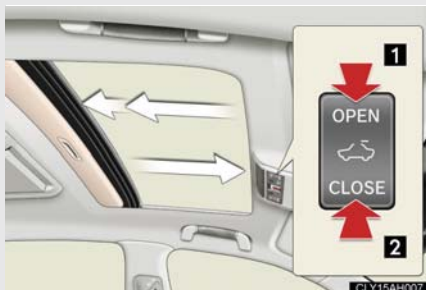
■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ/ダウンできます。

■ 開閉



1 開く

全開の少し手前で止まります。(風切音の低減機能。) さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。



知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ ムーンルーフ開警告ブザー

“パワー”スイッチがOFFでムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴りメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- スマートエントリー&スタートシステムでムーンルーフを閉じることができます。(→P. 57)
- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。(→P. 399)

■ ハイブリッドシステム停止後の開閉作動

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあと約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの CLOSE 側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※² その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの UP 側を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手をはなし、再度 UP 側を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態です。10 秒間停止し、※² 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなす

※¹途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※²10 秒間停止したあとにスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの UP、または、CLOSE 側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■設定可能な機能

ドアキー連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイザー覧 →P. 420)

警告

■ ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-6. 給油のしかた 給油口の開け方

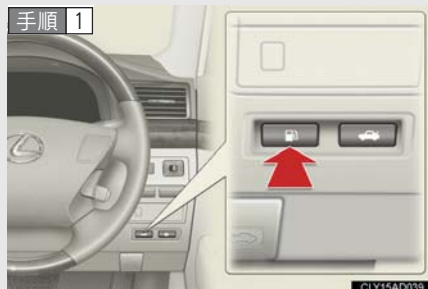
以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“パワー” スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方

手順 1



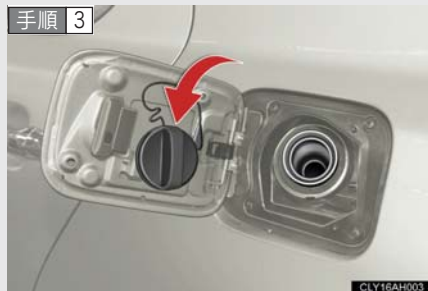
スイッチを押す

手順 2



キャップをゆっくりまわして開ける

手順 3



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして開めます。

手をはなすと、キャップが逆方向に少し戻ります。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン

■ 燃料タンク容量

約 84 L

■ 給油口が車内から開けられないときは



車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内のレバーを引きます。

**警告****■ 給油について**

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内に戻ったり、帯電している人やものに触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油をおこなうと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使用しないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ **給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外では“パワー”スイッチの切り替えやハイブリッドシステムの始動ができません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に働かずハイブリッドシステムが始動できないことがあります。(→P. 59)

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムを無効にするなどの改造や取りはずしをしないでください。お守りいただかないと、システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、キーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link/G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠します。30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- “パワー” スイッチを ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する。（数秒後に解除・停止します。）

セキュリティカメラ*



オートアラームが作動するとカメラが車内の様子を撮影します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link / G-Security」をご覧ください。

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを電波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



“パワー” スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。もう一度スイッチを押すと侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを停止してアラームを設定するには、アラームを設定するたびに侵入センサー OFF スイッチを押す必要があります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。



- 車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■侵入センサーの停止・復帰について

- 侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとに“パワー”スイッチを押すかスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによる解錠操作をおこなうと、侵入センサーが復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定のEメールアドレスへお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠・ドアガラスの全閉・非常点滅灯の消灯を操作できます。
これらの機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知・リモート操作機能*が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 霜よけシートが風などで動いたとき

 注意

- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき
- ドアガラスやムーンルーフ*などが開いているとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

 オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背をはなさない (→ P. 80)
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする (→ P. 80)
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4 運転席 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 109)
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする (→ P. 101)
- 6 シートベルトが正しく着用できる (→ P. 104)

警告

■ 走行中は

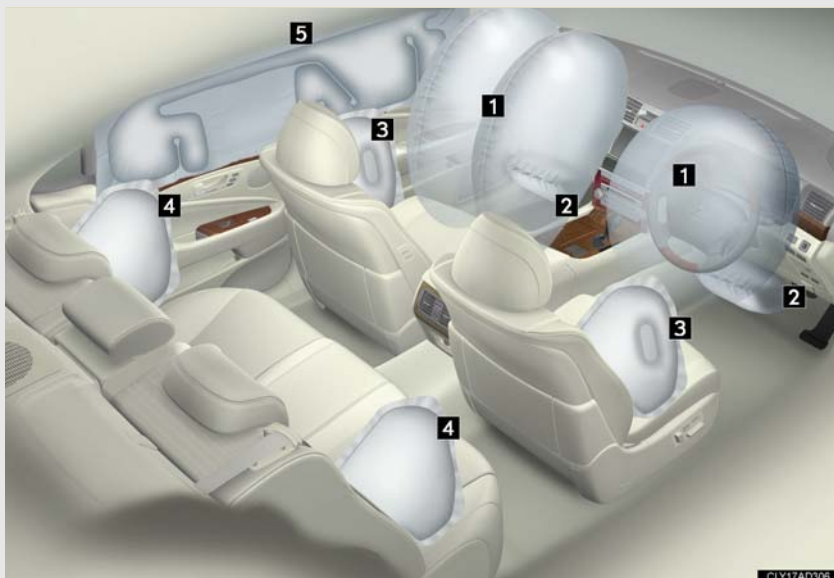
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となつて、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

**警告****■シートを調整するときは**

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS リヤサイドエアバッグ (パワーリヤシート装着車)
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)



6 SRS シートクッションエアバッグ（リラクゼーションシートのみ）
（リラクゼーションシート乗員の拘束に寄与）

知識

■ SRS エアバッグが展開すると

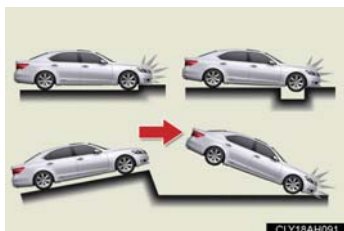
- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、リヤ席、フロントピラーやルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRS エアバッグが作動するとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

- フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値 (移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突 (例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など) の場合は、作動しない場合があります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。
- 助手席に乗員がいないと、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグが作動することがあります。

■ 衝突以外で作動するとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

以下のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



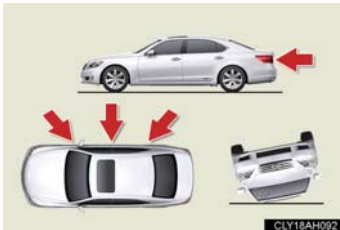
- 縁石や歩道の端など、硬いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 助手席に乗員がいないと、助手席の SRS サイドエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席の SRS サイドエアバッグが作動することがあります。

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

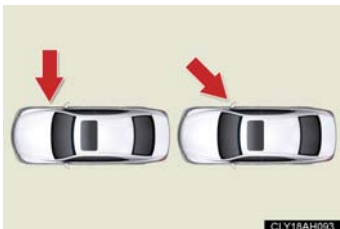
フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

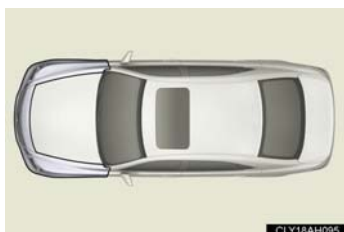


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

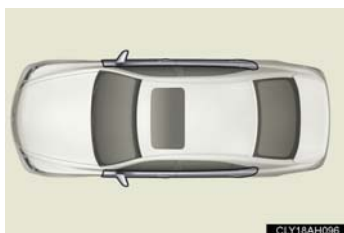
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- リラクゼーションシート: シートクッションの表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

警告

■ SRS エアバッグについて



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。



- ドアやフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→ P. 152)



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

警告

■ SRS エアバッグについて



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア、フロントウインドウガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRSエアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。



警告

■ SRS エアバッグについて

- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。
- 助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席 SRS エアバッグが作動しないことがあります。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理や取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理や改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により以下の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0+	: 13kg まで
グループⅠ	: 9 ~ 18kg
グループⅡ	: 15 ~ 25kg
グループⅢ	: 22 ~ 36kg

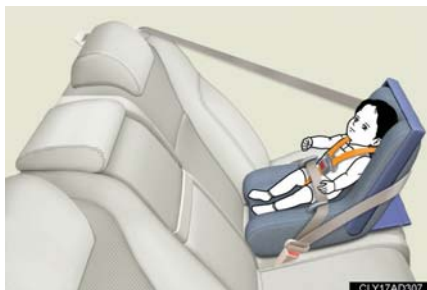
この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III に相当

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0+（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF	U	U
	うしろ向き ×		
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書も確認してください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱い説明書も確認してください。

● ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正ベビーシート	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 145)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 146)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12 kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「II」に記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 146)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

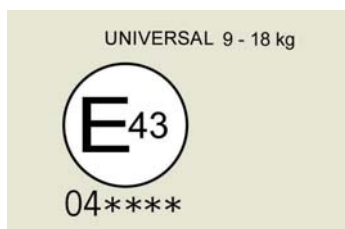
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1** ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2** 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



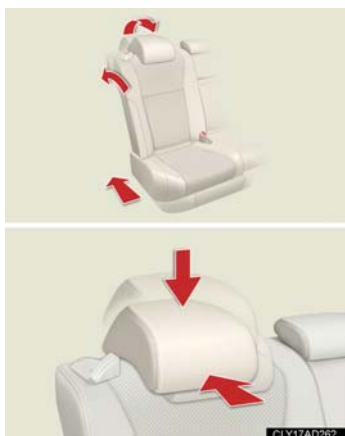
- 3** トップテザー（→ P. 152）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■パワーリヤシートの外側席にチャイルドシートを取り付けるときは



シートを以下のように調整してください。

- 背もたれ上部をいちばんうしろにする。
- リラクゼーションシート: 背もたれをいちばん上まで起こす。
- シートをいちばんうしろに下げる。
- ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにする。

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき



やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 子供専用シートを取り付け背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

**警告****■ 子供専用シートを使用しない場合**

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシート（子供専用シート）の取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書に必ずしたがってください。



- 1** シートベルトによる取り付け
(→ P. 153)



- 2** ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー (→ P. 153)

リヤシート外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



- 3** トップテザーアンカー
(→ P. 153)

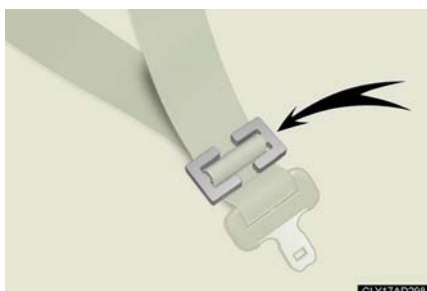
テザーベルトを固定するときには使用します。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックンクリップ（別売）を使用して固定する。

ロックンクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。
(ロックンクリップ 品番：73119-22010)

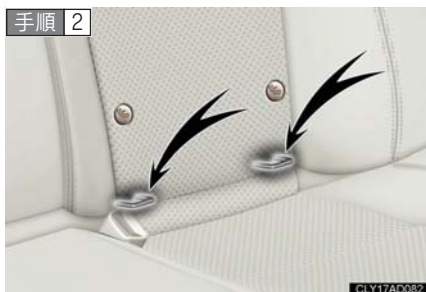
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



ヘッドレストをいちばん下まで下げる。(→ P. 101)

手順 2



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する。

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

手順 3



チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。

手順 4



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されているか確認します。

手順 5



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

**警告****■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、子供がフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧下さい。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首からはなすとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がな
いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■チャイルドシートを使用しないときは

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 153）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	160
パワー（イグニッション） スイッチ	169
EV ドライブモード	173
トランスミッション	176
方向指示レバー	180
パーキングブレーキ	181
ブレーキホールド	184
ホーン（警音器）.....	186

2-2. メーターの見方

計器類.....	187
表示灯／警告灯	191
マルチインフォメーション ディスプレイ	195

2-3. ライトのつけ方・ ワイパーの使い方

ライトスイッチ	199
オートマチック ハイビーム	202
フォグライトスイッチ	207
ワイパー & ウォッシャー	208
ヘッドライトクリーナー	211

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール	212
レーダークルーズ コントロール	215
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付）.....	225
LKA（レーンキーピング アシスト）.....	237
電子制御エア サスペンション.....	243
運転を補助する装置	245
プリクラッシュセーフティ システム	251
後方プリクラッシュ セーフティシステム	262
ナイトビュー （歩行者検知機能付）.....	265

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	274
寒冷時の運転	276

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ ハイブリッドシステムを始動する (→P. 169)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。
(→P. 176)

手順 2 パーキングブレーキを解除する。
(→P. 181)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。
長時間停車する場合は、シフトレバーを P にする。
(→P. 176)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。
(→P. 181)

手順 3 シフトレバーを P にする。
(→P. 176)

手順 4 “パワー” スイッチを押してハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

 知識**■ 燃費を良くする走り方**

ハイブリッド車も急加速を抑えるなど、通常のカソリン車と同様の心がけが必要です。P. 49 の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。(→P. 245)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。



警告

■発進するときは

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションにいったまま惰性で後退したり、Rにいったまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中に決してシフトレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。
- 走行中はシフトレバーをNにしないでください。Nにすると、エンジンプレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

- 走行中は“パワー”スイッチに触れないでください。
誤って“パワー”スイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、エンジnbrakeを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 176)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジnbrakeなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



警告

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。

どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ スプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態(READYインジケーターが点灯している状態)になっていても、音や振動がない場合があります。
- READYインジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後はマフラーやバンパー一体ディフューザーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、READYインジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素(CO)が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■ 仮眠するときは

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるときは

● 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

● ブレーキシステムは三つの独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、のこりは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

■ 万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

■ 運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたら

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりとって徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法 (→P. 381)



注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、ハイブリッド用トランスミッション、トランスファー、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

パワー（イグニッション）スイッチ

以下の操作をおこなうことで、ハイブリッドシステムの始動またはモードを切り替えることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む。

スイッチ上のインジケータが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないとハイブリッドシステムは始動しません。



“パワー” スイッチを押す。

READY インジケータが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏みつけてください。

どのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

■ “パワー” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに “パワー” スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります。)



1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ONモード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※：シフトレバーがP以外のときはOFFになりません。

知識

■ ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 125)

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“パワー” スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ “パワー” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作をおこなっても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリモードにしたままにしておくと、“パワー” スイッチが自動で OFF になります。

■ 外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ 高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 62

■ 電子キーが正常に働かないときは

→P. 360

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 59

■ ご留意いただきたいこと

→P. 63



警告

■ ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、3 秒以上“パワー”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチに触れないでください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると、予期せぬ事故につながるおそれがあります。



注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

2-1. 運転のしかた

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。



スイッチを押す。

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）に戻ります。

知識

■ EV ドライブモードでハイブリッドシステムを始動するには

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動すると、暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動します。次の方法でハイブリッドシステムを始動すると暖機運転を控え、騒音を抑える事ができます。



ブレーキペダルをしっかりと踏み、EV ドライブモードスイッチを押しながら“パワー”スイッチを押す。

■EV ドライブモードの切り替えについて

次のときは EV ドライブモードに切り替わらない場合があります。EV ドライブモードに切り替わらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下回るような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
目安として、エネルギーモニターの残量表示で 3 レベル以下 (→P. 44)
- 車速が 40km/h 以上のとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターの残量表示で 2 レベル以下 (→P. 44)
- 車速が 40km/h をこえたとき
ガソリンエンジン冷却水温が低いときは、30km/h で自動解除されることがあります。
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除が事前にお知らせできるときは、マルチインフォメーションディスプレイに予告画面が表示されます。

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 40km/h 以下で、数百 m から約 1km 程度です。(走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります。)

■ 燃費について

LS600h/LS600hL は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、もっとも燃費が良くなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると燃費が悪くなることがあります。

警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードでの走行は、エンジン音がしないため歩行者、自転車、付近の人や車が車両の発進や接近に気がつかない場合があります。十分注意して運転してください。

2-1. 運転のしかた トランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方



“パワー” スイッチが ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

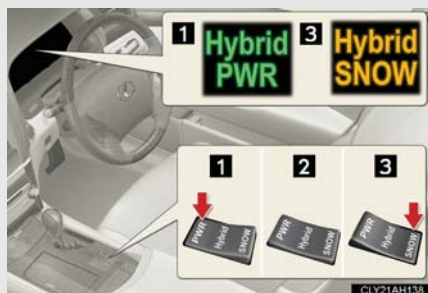
シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ 1
S	S モード走行※ 2 (→ P. 178)

※ 1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※ 2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。D ポジションに比べエンジン回転数が高くなるようにトランスミッションを制御するため、加速応答性も向上します。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて以下のモードをすべてのシフトポジションで選択できます。



1 パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）

2 通常走行モード

3 スノーモード（雪道など、すべりやすい路面での発進、走行）

パワーモードまたはスノーモードを解除するときは、もう一度同じスイッチを押します。



4 エコドライブモード

エコドライブモードがONになると、エコドライブモード表示灯が表示されます。

もう一度ECO MODEスイッチを押すと、エコドライブモードがOFFになります。

S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S の位置にして、以下のように操作します。



1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 4、5、6 レンジもしくは 7 レンジに設定されます。

知識

■ S モード

- 6 レンジ以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると 8 レンジに設定されます。
- 6 レンジ以上でシフトレバーを “-” 側へ操作したとき、走行状態に応じて 2 レンジ以上シフトダウンすることがあります。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります。）

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に 7、6、5 または 4 へシフトレンジダウンしてもエンジンプレーキは効きません。（→P. 212, 215, 225）

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに戻ります。

■ エコドライブモード

エコドライブモードは車両駆動力とエアコン作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。走行モードがパワーモードまたはスノーモードのときエコドライブモードにすると、パワーモードまたはスノーモードは解除されます。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 394



警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンプレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

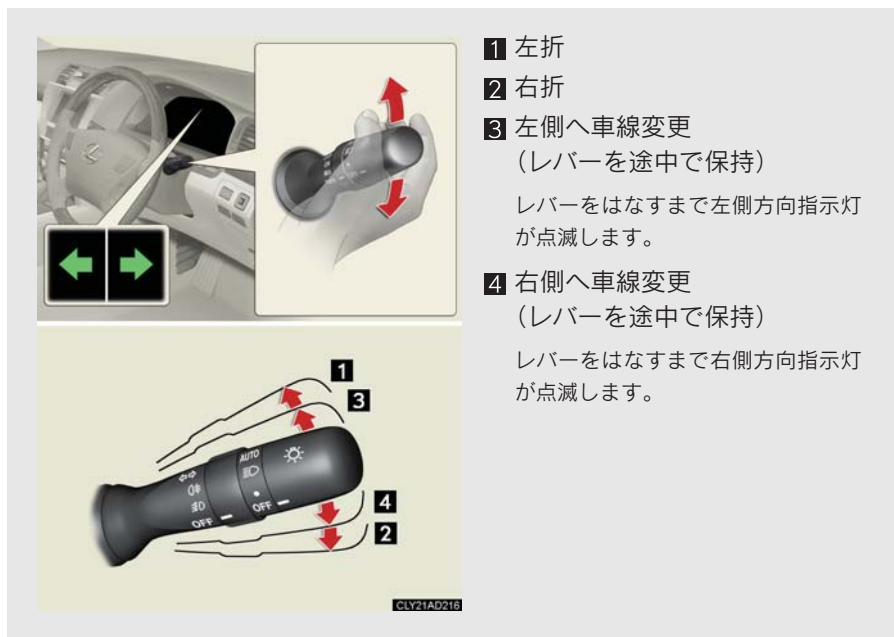


注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは電動パーキングブレーキシステムを採用しています。

■ マニュアルモード



1 パーキングブレーキをかける

“パワー”スイッチがONモード以外で操作したとき、パーキングブレーキ表示灯がしばらく点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消えます。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモード



ON/OFF

パーキングブレーキがシフトレバーの操作に応じて自動で作動します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
(→P. 176)

- P から P 以外にしたとき
パーキングブレーキが解除される
- P 以外から P にしたとき
パーキングブレーキがかかる

 知識

■ パーキングブレーキの作動

- “パワー” スイッチが ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- “パワー” スイッチが ON モード以外では、オートモードによる作動（かける、解除する）はできません。
- 短時間に作動を繰り返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態に戻ります。

■ パーキングブレーキ表示灯について

パーキングブレーキをかけた状態で “パワー” スイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが異常ではありません。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 374, 378）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 276）の記載を参照してください。

**注意****■ 駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

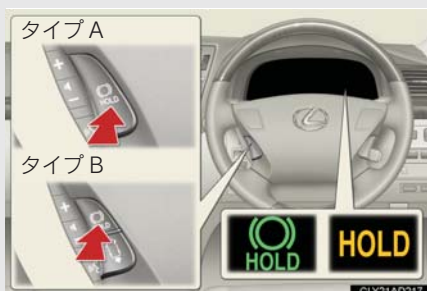
■ 故障などでかかったままになったとき

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。
(→P. 395)

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ブレーキホールド

シフトレバーが D、S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。



ブレーキホールドシステム ON

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 () が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 () が点灯します。

知識

■ システムの作動条件

以下のときはシステムを ON できません。

- トランクまたはボンネットが閉まっていない
- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときにいずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消えます。ブレーキ保持中に検出した場合はさらに警告音とともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告音とともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。このときはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動的に解除されません。パーキングブレーキスイッチを操作してブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P. 181)

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 374, 378)

**警告****■ すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界を超えて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

**注意****■ 駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中に“パワー”スイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。“パワー”スイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

2-2. メーターの見方

計器類



“パワー” スイッチを ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 195

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

7 インストルメントパネル照度調整スイッチ

8 オドメーター

走行した総距離を表示します。

9 トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

10 外気温度表示

外気温度を -40°C ~ 50°C のあいだで表示します。

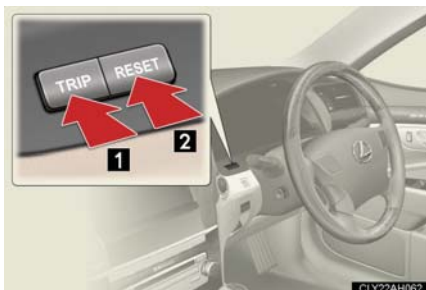
11 シフトポジション・シフトレンジ表示

→P. 176

12 トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットスイッチ

ナイトビュー装着車にお乗りの方は、「ナイトビュー」(→P. 265) もあわせてご覧ください。

トリップメーター切り替え、トリップメーターリセットスイッチ



1 表示を切り替える

2 表示中のトリップメーターの走行距離が0に戻る

インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

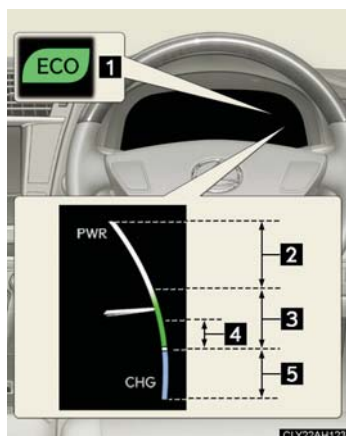


1 明るくなる

2 暗くなる

 知識

■ ハイブリッドシステムインジケータについて



- 1** エコドライブインジケータランプ
環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケータランプが点灯します。

エコドライブインジケータランプは、シフトレバーが“D”の位置にあるとき作動します。EVモード、パワーモードまたはスノーモードで走行しているときは作動しません。

- 2** パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲を越えている状態を示します。

- 3** エコエリア
環境に配慮した走行をしている状態を示します。

- 4** ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

- 5** チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

- インジケータの針をエコエリアに保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
- チャージエリアは、回生[※]状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。
- エコドライブインジケータランプとハイブリッドシステムインジケータの表示／非表示を設定できます。（→ P. 197）

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20 km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）



注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 406）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メータ-



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 180)



尾灯表示灯 (→P. 199)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 199)



※ 1

オートマチックハイビーム
表示灯 (→P. 202)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 207)



リヤフォグライト
表示灯* (→P. 207)



スポーツモード表示灯
(→P. 243)



コンフォートモード表示灯
(→P. 243)



※ 1

エアサスペンション HIGH
表示灯 (→P. 243)



READY インジケーター
(→P. 169)



Hybrid PWR 表示灯
(→P. 177)



Hybrid SNOW 表示灯
(→P. 177)



クルーズコントロール
表示灯
(→P. 212, 215, 225)



※ 1

AFS OFF 表示灯
(→P. 200)



※ 1, 3

スリップ表示灯
(→P. 246)



※ 1

VSC OFF 表示灯
(→P. 247)



※ 1

ブレーキホールド
スタンバイ表示灯
(→P. 184)



※ 1

ブレーキホールド
作動表示灯 (→P. 184)



パーキングブレーキ表示灯
(→P. 181)



※ 1

LKA 表示灯* (→P. 237)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



エコドライブインジケーターランプ (→P. 189)



エコドライブモード表示灯 (→P. 177)



EV ドライブモード表示灯 (→P. 173)

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 374)



※¹ 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※² 点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※³ 点滅した場合はシステムが作動していることを示します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



■ **安全装置の警告灯が点灯しないときは**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“パワー” スイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関する様々な情報を表示します。



- トリップインフォメーション
(→P. 196)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- クリアランスソナー表示*

(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 215, 225)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- レーンキープアシスト表示* (→P. 237)

レーンキープアシスト使用時に自動で表示されます。

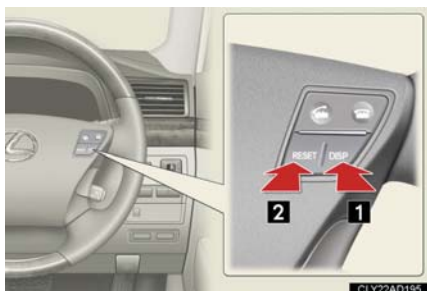
- レーン表示／交差点案内表示
(→P. 197)

- 警告メッセージ (→P. 378)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション



1 DISP スイッチ

項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

2 RESET スイッチ

■ エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。(→P. 44)

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均燃費

リセットしてからの通算平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に RESET スイッチを押します。
ナビゲーションシステム画面の区間燃費画面も更新されます。(→P. 44)

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

■ 給油後走行距離

給油をしてからの走行距離を表示します。

■ 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に RESET スイッチを押します。

■ 平均車速

リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に RESET スイッチを押します。

■ カスタマイズ

表示内容や文字サイズなどの設定を変更できます。

車両停車中に、DISP スイッチを 1 秒以上押すとカスタマイズメニュー画面が表示されます。

カスタマイズメニュー画面に、カスタマイズ項目説明や操作方法などが表示されるので、表示に従って設定を変更できます。

クルーズコントロールスイッチが ON の状態、またはナイトビュー画面表示中は設定を変更できません。

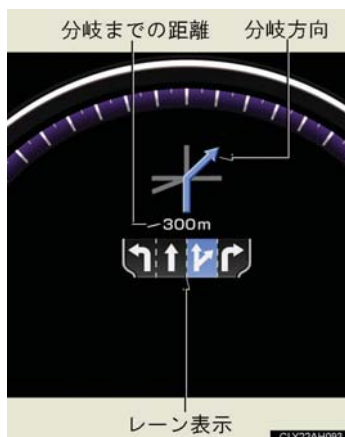


知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ レーン表示／交差点案内表示について



● 交差点案内表示は、ナビゲーションシステムの目的地案内設定をしているときに表示されます。分岐する交差点に近づくと、分岐までの距離、分岐方向が表示されます。

● レーン表示は、交差点に近づくと表示されます。ナビゲーションシステムで目的地案内を設定しているときは、推奨レーンを青色で表示します。

カスタマイズで、交差点案内表示／レーン表示の有無を設定できます。(→P. 197)



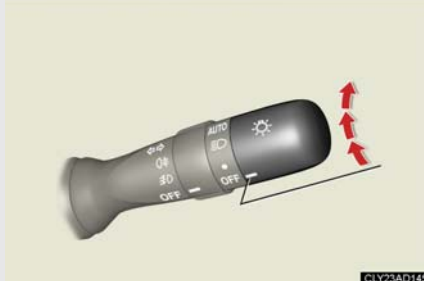
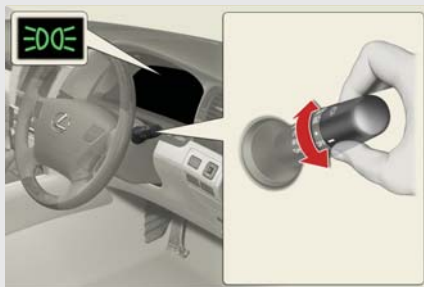
■ レーン表示、交差点案内表示の形状について

レーン表示、交差点案内表示の形状は、実際と異なる場合があります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

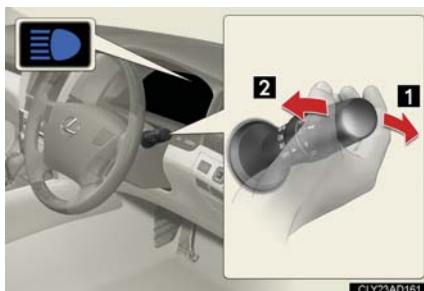


● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

☰ 上記ライトとヘッドライトを点灯

AUTO ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯
（“パワー”スイッチがONモードのとき）

ハイビームにする



1 ライト点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームに戻るまたは消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには



ON/OFF

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。



知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“パワー” スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF に戻し、再度  または  の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧 →P. 420)



注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

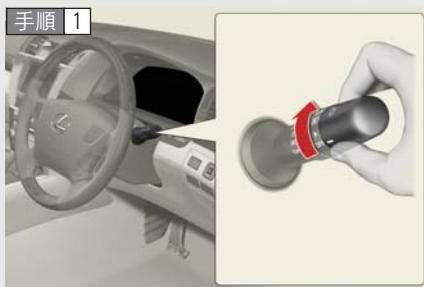
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

オートマチックハイビーム

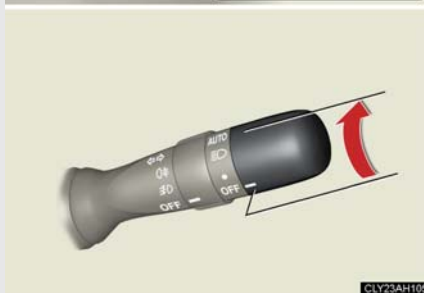
オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のライトや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

■ オートマチックハイビームの使い方

手順 1

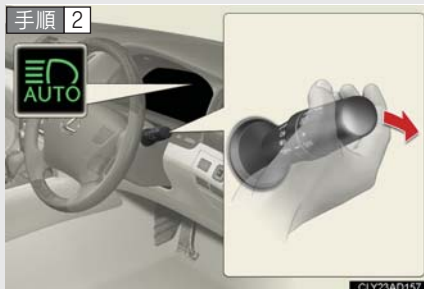


ライトスイッチを AUTO にする



CLY23AH105

手順 2



レバーを前方に押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

カメラセンサーが遮断物などで状況を検知できないときは、オートマチックハイビーム表示灯は点灯しません。

ハイビーム点灯中は、ヘッドライト上向き表示灯も点灯します。

CLY23AD157

■ ハイビームとロービームの自動切り替え条件

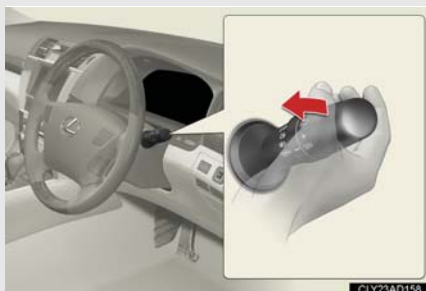
以下の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30 km/h 以上
 - 車両前方が暗い
 - 対向車または先行車が存在しない、またはライトを点灯していない
- 以下の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25 km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がライトを点灯している

■ 手動切り替えのしかた

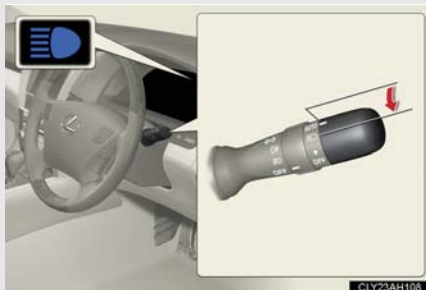
▶ ロービームへの切り替え



レバーをもとの位置に戻す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

▶ ハイビームへの切り替え



ライトスイッチを  にする

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。



知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ オートマチックハイビームについて

- 以下の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグライトにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります。
- 街路灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 以下の要因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のライトの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のライトが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは、車両前方にあるライトの明るさなどで周囲の状況を認識します。したがって、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●以下の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

- ・悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・対向車または先行車のライトが無灯火のときや、ライトに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- ・バンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・オートマチックハイビーム表示灯が点滅しているとき

■オートマチックハイビーム表示灯が点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ

オートマチックハイビームを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧 →P. 420）

警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために



オートマチックハイビームを正しく作動させるために以下のことをお守りください。

- カメラセンサーのレンズに触れない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

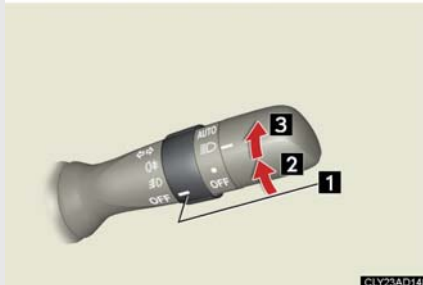
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。（リヤフォグライトはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。）



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯
- 3 リヤフォグライト装着車：
フロント＆リヤフォグライト
点灯（再度操作すると、リヤ
フォグライトのみ消灯）

手をはなすと **F** の位置まで戻ります。



知識

■ リヤフォグライトについて

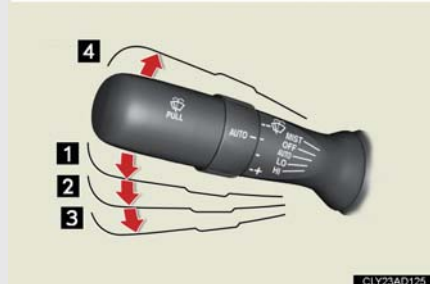
- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

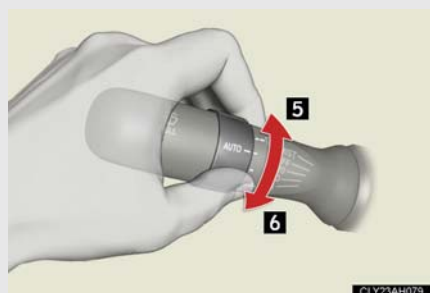
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



- 1 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)
- 4 一時作動 (MIST)

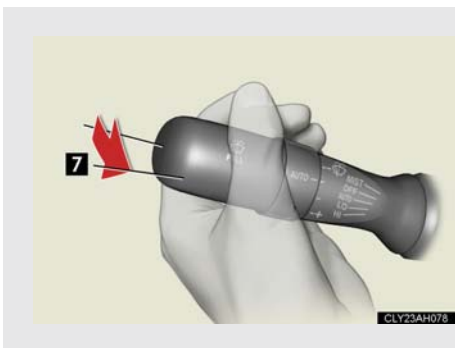


CLY23AD125



CLY23AH079

- 5 感度が下がる (－)
- 6 感度が上がる (＋)



7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。)

ヘッドライトが点灯しているときは、ヘッドライトクリーナーが 1 回作動します。

知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。)

■ 雨滴感知センサー



- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などでよごれたときに正しく作動しないことがあります。

- “パワー”スイッチがONモードのときにワイパースイッチをAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ **AUTO モード時のワイパー作動に関する警告**

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

 注意

■ **フロントウインドウガラスが乾いているときは**

ガラスを傷つけるおそれがありますのでワイパーを使わないでください。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ヘッドライトクリーナー

ヘッドライトへウォッシャー液を噴射します。



ヘッドライトを洗浄する

知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードでヘッドライトが点灯しているとき

■ フロントウインドウガラスウォッシャー連動作動

“パワー”スイッチがONモードでヘッドライトが点灯しているときに、フロントウインドウガラスのウォッシャーを作動させると、ヘッドライトクリーナーが1回作動します。(→P. 208)

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドライトクリーナースイッチを操作しつけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチでシステムをONにする。

OFF するには再びスイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える



1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行に戻ります。

車速が約 40km/h 以上のとき有効です。



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。(推奨)
シフトレバーが S の 4、5、6、7、8 レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 40 ～ 100 km/h の範囲で設定できます。

■ アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速に戻ります。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを操作しなくても、一定の速度での走行や、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます（車間制御モード）。定速制御モードでは一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 レーダークルーズコントロール表示
- 3 車間距離切り替えスイッチ
- 4 クルーズコントロールスイッチ

- 先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチでシステムを ON にする。

OFF するには再びスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する。

定速制御モードを選択するには



- 1 ON-OFF スイッチでシステムを ON にする
- 2 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間長押し)

OFF するには再び ON-OFF スイッチを押します。

“パワー” スイッチが ON モードになるたびに車間制御モードに戻ります。

■ 設定速度を変えるには



- 1 増速
- 2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行に戻ります。
車速が約 40km/h 以上のとき有効です。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

1 長い

2 中間

3 短い

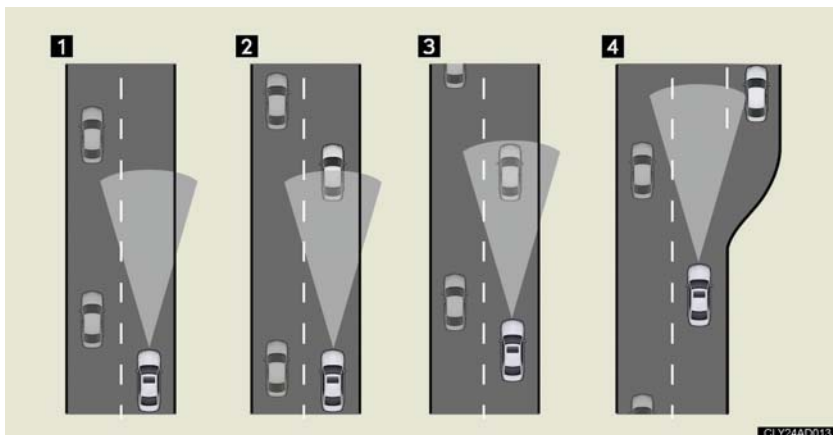
“パワー”スイッチが ON モードになるたびに **1** に戻ります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行に戻ります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■スピードメーターについて



設定した車速を、インジケーターで表示します。

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 378)

■モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへ戻すこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■設定条件について

- シフトレバーがDのとき設定できます。(推奨)
シフトレバーがSの4、5、6、7、8レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 50 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速に戻ります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 速度が約 40km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した
- レーダーセンサーの汚れが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 217) (時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルについて

システムを正しく働かせるためにセンサーとグリルは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。) 汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



■接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 219）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告

■ **車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪が撒き散らされ、レーダーセンサーの作動の妨げになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ **レーダーセンサーを正しく働かせるためには**

センサーとグリルには以下のことをしないでください。

センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりする
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）*

アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度での走行や、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます（車間制御モード）。定速制御モードは一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 レーダークルーズコントロール表示
- 3 車間距離切り替えスイッチ
- 4 クルーズコントロールスイッチ

- 先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する



ON/OFF スイッチでシステムをONにする。

OFF するには再びスイッチを押します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



定速制御モードを選択するには



■ 設定速度を変えるには



希望の速度 (約 50km/h ~ 100km/h) まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する。

車速が約 50km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を約 50km/h として先行車に追従走行を始めます。(車間制御モードのみ)

1 ON/OFF スイッチでシステムを ON にする

2 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間長押し)

OFF するには再び ON/OFF スイッチを押します。

“パワー” スイッチが ON モードになるときに車間制御モードに戻ります。

1 増速
(車間制御モードで制御停車中を除く)

2 減速
表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

レバーを手前に引きます。

走行中にブレーキを踏んだときも解除されます。(制御停車中は、ブレーキを踏んでも制御は解除されません。)

2 復帰

レバーを上げると、定速走行に戻ります。

車速が約 40km/h 以上のとき有効です。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

1 長い

2 中間

3 短い

“パワー”スイッチが ON モードになるたびに**1**に戻ります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 制御停車から追従走行に復帰させるには（車間制御モード）



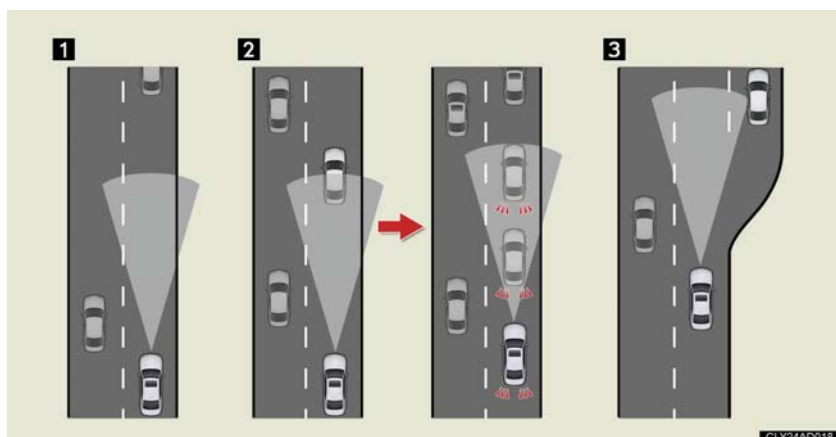
先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルを操作しても追従走行に復帰します。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーとカメラセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行 - 追従走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。先行車が停止したときは、続いて停止します。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルを踏むと追従走行に戻ります。

3 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

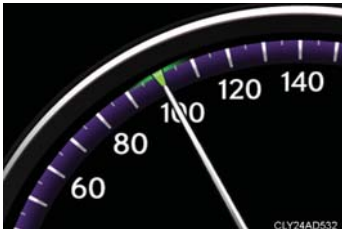
先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行に戻ります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■スピードメーターについて



設定した車速を、インジケーターで表示します。

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 378)

■モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへ戻すこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。(推奨)
シフトレバーが S の 4、5、6、7、8 レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 50 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速に戻ります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

以下ようになったとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 先行車がいなく速度が約 40km/h 以下になった
- 速度が 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった
- 車が横すべりして VSC が作動した
- レーダーセンサー / カメラセンサーのよごれが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした
- パーキングブレーキが作動した
- 急坂路で制御停車した
- プリクラッシュブレーキが作動した
- 制御停車時に次を検出した
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・トランクまたはボンネットが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 227) (時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定に関わらず約 3 ～ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルについて

システムを正しく働かせるためにセンサーとグリルは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。) 汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



■ カメラセンサーについて

システムを正しく働かせるためにフロントウインドウガラスは常にきれいにしておいてください。



■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

 警告**■安全にお使いいただくために**

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。



警告

■ 誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 229）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 警告**■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車が水や雪を撒き散上げて走行している場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルには以下のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりする
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。



警告

■ カメラセンサーを正しく働かせるためには

以下のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントウインドウガラスに写りこんだ映像で性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、カメラセンサーを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

LKA が ON で、50 km/h 以上で走行中に車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、ピピピピ・・・というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報を用いて注意を促します。

■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（→ P. 225）の車間制御モードが 65 km/h 以上で設定されると、車線維持支援機能が付加され、車両が車線中央付近を走行するようにハンドルに小さい操舵力を与えてドライバーのハンドル操作を支援します。

■ 設定のしかた

白線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。



スイッチを押して設定する

解除するには再度スイッチを押します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が 約 50km/h ~	車速が 約 65 ~ 100 km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が 64km/h 以下で車間制御走行 しているとき	○	×
	ON 設定車速が 65km/h 以上で車間制御走行 しているとき	○	○

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



- 1 ハンドル表示
車線維持支援機能作動中
- 2 レーダークルーズコントロール表示
- 3 車線表示
白抜き表示のとき：白線が認識できていないまたは、機能を一時解除している
実線表示のとき：車線逸脱警報機能作動中

 知識**■機能の一時解除**

以下のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 車線変更に相当する程度にハンドルを操作したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
- 作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能が作動中はブザーあり）
- 走行中の白線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能が作動中はブザーあり）
- ワイパースイッチを低速作動または高速作動にしたとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）
レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、解除時のブザーが鳴らないときがあります。
- 車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき（ブザーあり）

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。

■炎天下に駐車したとき、車内が極低温になったとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。車内の温度が低下、または上昇し、カメラセンサー周辺（→ P. 242）の温度が適温になると作動開始となるので、一旦 LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。



警告

■ LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。前方への注意を軽減する装置ではないため、常にハンドル操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■ 次のような状況では、LKA を OFF にして走行してください。

次の状況では、LKA を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スタッドレスタイヤ・タイヤチェーンなどを装備しているとき
- 純正品以外の部品に交換しているとき（タイヤ・サスペンションなど）
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ボールなど）
- 雪道のわだちなどで、帯状に雪が残っているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線・追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき

 注意

■ 次の状況では、LKAが作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。

- 検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- 片側のみに白（黄）線があるとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイなどのとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、もしくは見えにくくなっているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光、太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐、合流路などを走行するとき
- 雨・雪・霧などで白（黄）線が見えにくいとき
- 雨天・雨上がり・水溜りなど濡れた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 走行中の車両が横風を受けているとき

 注意

■ 白線認識用カメラ



LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない
- インナーミラーの位置がカメラのレンズ前にかからないようにする
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラの向きは精密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

2-4. その他の走行装置の使い方

電子制御エアサスペンション

路面の状態や走行状況にあわせて車高やショックアブソーバーの減衰力を選択できるシステムです。

■ 車高選択スイッチ

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。



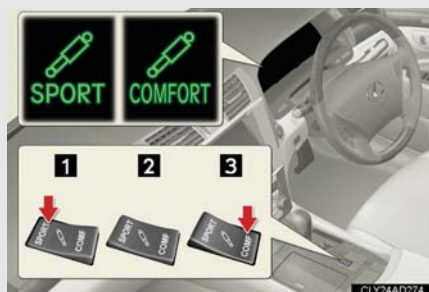
HIGH モード

メーター内の HEIGHT HIGH 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、HIGH モードがキャンセルされます。

■ AVS (アダプティブバリアブルサスペンションシステム) スイッチ

サスペンションの硬さを走行状態に合わせて選択できます。



1 SPORT モード

メーター内の表示灯が点灯します。

2 NORMAL モード

3 COMFORT モード

メーター内の表示灯が点灯します。



■ エアサスペンション用コンプレッサーの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときやHIGHモードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



■ **エアサスペンションについて**

次の状況ではハイブリッドシステムを停止してください。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

“パワー” スイッチを ON モードのままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤが切れる角度を制御します。

■ アクティブスタビライザーサスペンションシステム*

ハンドル操作量やAVSの選択モードなどに応じて、コーナリング時のロールを抑え、安定した車両姿勢の確保に寄与します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、ブレーキアシスト、TRC、VSC、ヒルスタートアシストコントロール、EPS、VGRS、トランスミッションを総合的に制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ブレーキ、ハイブリッドシステム出力、ハンドル操作力、タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 251

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 262

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

ABS 作動時もスリップ表示灯が点滅します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。



■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

TRC が OFF になったことをメッセージでマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

VSC OFF 表示灯が点灯し、TRC が OFF になったことをメッセージでマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態に戻ります。



■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、“パワー” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動可能状態に戻ります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロール、VGRSの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に、ハンドルがわずかに動いたり、小さな音が聞こえることがあります、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- シフトレバーがDまたはSの位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■VGRSの作動について

以下の状況では直進時のハンドル位置がずれることがあります、状況が改善されればもとに戻ります。

- 停車中か極低速走行中に素速くハンドル操作をしたり、長時間ハンドルをまわし続けたりしたとき
- ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき
- 補機バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき
- 30℃以下でハイブリッドシステムを始動したあと

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、システムの過熱を避けるためEPSの効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を止め、ハイブリッドシステムを停止してください。10分程度でもとの状態に戻ります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

以下のときシステムが作動します。

- 車速約 55 km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの解除条件

以下のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

■ スリップ表示灯が点灯したとき

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの故障が考えられます。(→P. 374)

⚠ 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告

■ **TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ **ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ **スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■ **TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は自動的にブレーキやハイブリッドシステムの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■ **タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プリクラッシュセーフティシステム*

前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 105)

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。



衝突の可能性があるとして検知したとき、注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、衝突警告表示を出し、回避操作を促します。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰量を適正化します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ドライバーモニター*

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていないまたは運転者の眼が閉じている状態にあると判断した場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに、状況が改善しない場合は、警報ブレーキが作動します。

■ ステアリングギヤ比コントロール（ドライバーモニター装着車）

衝突の可能性があるとき：VGRS によってステアリングギヤ比を変化させ、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

■ 警報ブレーキ（ドライバーモニター装着車）

運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じていて、衝突の可能性がある状態が継続したと判断した場合は、短時間の減速による体感警報により回避操作を促します。スイッチを使って、警報ブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ



1 プリクラッシュブレーキ、警報ブレーキ* OFF

2 プリクラッシュブレーキ、警報ブレーキ* ON

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

カメラセンサー（ドライバーモニター装着車）



レーダーセンサーに加え、走行中に路上またはその付近の歩行者など立体物を検知します。

ヘッドライト点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

1 カメラセンサー

2 近赤外線投光器

ドライバーモニター用カメラ（ドライバーモニター装着車）



運転者の顔をモニターし、正面を向いていない状態・目を閉じている状態をシステムが判断します。

 知識

■ レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ カメラセンサーが検知しない場合（ドライバーモニター装着車）

- 太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき
- 悪天候などで視界が悪いとき
- センサーの温度が非常に高いとき

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（ブレーキ連動方式）：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（レーダー連動方式）：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 車速が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

● サスペンションコントロールの作動条件：

- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 30 km/h 以上

●ステアリングギヤ比コントロールの作動条件（ドライバーモニター装着車）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

●警報ブレーキの作動条件（ドライバーモニター装着車）：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 正面を向いていないか、眼を閉じていると判断したとき
- ・ 自車速度が約 15km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 15km/h 以上
- ・ 車両直進状態

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況
- 車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 下り坂走行中に、鉄板などの路面の金属物が車両の前方にみえるとき
- 上り坂走行中に、看板などの金属物が車両の前方にみえるとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- ETC ゲートを高速で通過しようとしたとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引き戻されたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 374, 378)

**警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。



警告

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリル周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

 警告**■ カメラセンサーの取り扱い（カメラセンサー装着車）**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

■ ヘッドライトについて（カメラセンサー装着車）

近赤外線投射量を確保するため以下のことをお守りください。

- ヘッドライトは、いつもきれいにしておく。
- ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- 安全のために
近赤外線投射器は、目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時には照射していませんが、のぞき込まないでください。



警告

■ **ドライバーモニター用カメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）**

ドライバーモニターの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、故障の原因となったり、顔向き／眼の開閉判定ができないおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷つけたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない
- 走行中はカメラを触ったりしない
- カメラを濡らしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、よごれ、シール貼りなどがないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、おおったりしない

■ **顔向き／眼の開閉判定について（ドライバーモニター装着車）**

以下のときは正常に判定ができない場合があります。

- カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき
（カメラの前にものを置くなど。）
- 顔の一部が隠れる状況
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき
- 停車中

 注意**■ ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）**

- 傷をつけないよう、柔らかい布で軽くふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ペンジン、シンナー、ガラスクリーナー、ワックスなどを使用しないでください。

後方プリクラッシュセーフティシステム*

追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害を軽減するためのシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があるると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意を促します。

■ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）

追突の危険性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害を軽減します。

レーダーセンサー



レーダーセンサーにより、後方から接近するものを検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

*：グレードで異なる装備やオプション装備

 知識**■ システムの作動条件**

“パワー”スイッチがONモードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに以下の条件で作動します。

● 後方車両への警報（非常点滅灯）：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ 停止時または前進時にブレーキを踏んでいる
- ・ 方向指示灯や非常点滅灯がOFF

● むち打ち傷害の軽減：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15 km/h 以上
- ・ 停止または前進している

■ センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムはすべての追突を検知できるシステムではありません。以下のときは作動しない場合がありますので周辺への注意を怠らないでください。

- 車両姿勢が極端に変化しているとき。
- 自転車、オートバイなどは検知しないことがあります。
- 雨滴、氷雪がリヤバンパーに付着したとき。
- カーブや起伏の大きな道路のとき。
- ななめからの追突やオフセットの大きな追突のとき。

■ むち打ち傷害の軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■ 追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- 右左折などで停車したときなどに自車の真うしろを後方車がすり抜けたとき。
- 道路脇に停車したときなどに、車が真横をすり抜けたとき。
- 走行時、後方車が近距離から追い越したとき。
- 走行時または停車時、後方車が近距離まで急接近したとき。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 374, 378）



警告

■レーダーセンサーの取り扱い

- センサーを分解しない。
- センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

■リヤバンパーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車のリヤバンパーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく。
雨滴、冰雪などによって性能が低下することがあります。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、修理してください。
- リヤバンパー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーをつけたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない。
- リヤバンパーの改造や別のものに交換しない。
- リヤバンパーの塗装修理についてはレクサス販売店にご相談ください。

■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

ヘッドレストカバーはつけないでください。

ナイトビュー（歩行者検知機能付）*

ナイトビューは、夜間の走行を補助するシステムです。

夜間に肉眼では見えにくい前方の歩行者、障害物、道路状況を、投光器から照射した近赤外線の影響光をカメラで撮影・映像化して、メーター中央部に表示します。

■ 歩行者検知機能

映像から歩行者を検知すると、その位置を黄色の枠（歩行者検知枠）で表示し、同時にスピードメーターの枠を黄色（注意喚起枠）で点滅させることにより運転者に注意喚起を促す機能です。

■ ナイトビュー画面の表示のしかた

ナイトビュースイッチを押すと、メーターの中央部にナイトビュー画面が表示されます。



ナイトビュー画面を表示させる

もとに戻すには再度スイッチを押します。

* : グレードで異なる装備やオプション装備

■ ナイトビュー画面表示について



1 ナイトビュー画面

2 歩行者検知枠

- ・ 歩行者を検知すると注意喚起枠とともに表示されます。
- ・ 検知された人数分の歩行者検知枠が表示されます。
- ・ 歩行者が検知されなくなると注意喚起枠とともに表示がなくなります。

3 注意喚起枠

- ・ 歩行者を検知すると歩行者検知枠とともに表示され、3 回点滅し、その後点灯にかわります。
- ・ 歩行者が検知されなくなると歩行者検知枠とともに表示がなくなります。

4 歩行者検知作動インジケータ

歩行者を検知可能かどうかアイコンで知らせます。

表示	作動の状況
	作動中
	非作動中

5 マルチインフォメーションディスプレイ (→P. 195)

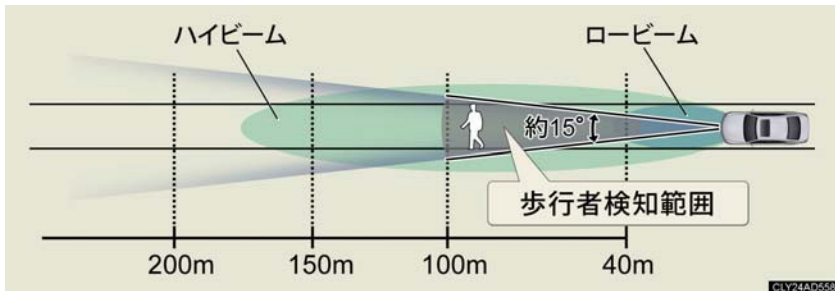
ナイトビュー画面が表示されると横にスライドして表示されます。

6 シフトポジション表示灯

ナイトビュー画面が表示されると横にスライドして表示されます。

ナイトビューが映し出せる範囲

ヘッドライトのロービーム照射範囲の先から、ハイビームまでです。

**歩行者検知の範囲**

車両前方約 15° 以内、距離は約 40 ~ 100 m の間です。

- 車両の速度に応じて検知範囲はかわります。

知識

■ システムの作動条件

ライトセンサー（→P. 200）が周囲の明るさの状態から夜と判断しているときに、ヘッドライトを点灯した状態でナイトビュースイッチを押すとシステムが作動します。

● 作動条件の詳細

作動条件		近赤外線 投光器	歩行者 検知機能
	車速条件		
・“パワー”スイッチがオンモード ・周囲が暗い状態 ・ヘッドライトが点灯状態 ・ナイトビュースイッチを ON	車速が約 15 km/h 以下	消灯※ 1	非作動
	車速が約 15 km/h 以上 約 60 km/h 以下	点灯	作動※ 2
	車速が約 60 km/h 以上	点灯	非作動

※ 1 近赤外線が照射されなくなるため、ナイトビュー画面に映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

※ 2 ワイパーが低速作動（LO）または高速作動（HI）で作動しているときは歩行者検知機能は作動しません。また、周囲の明るさが一定以上の場合も、歩行者検知機能は作動しません。

■ ナイトビューが作動可能なとき以外にナイトビュースイッチを押したときは

メーターにアドバイス情報が表示されます。表示されたアドバイスにしたがってください。

■ ナイトビュー作動中にシフトレバーを R にしたときは

ナイトビュー画面は黒色となり映像は表示されません。



警告

■ ナイトビューをお使いになる前に

ナイトビューを過信しないでください。

ナイトビューは、夜間走行中に見えにくい前方の道路状況、歩行者認知を補助するものです。機能には限界がありますので、使用する場合には過信せず、下記に十分気を付けて安全運転に心がけてください。

■ ナイトビュー画面について

- 通常の目視のかわりに、ナイトビュー画面のみを見て運転しないでください。
- 運転中にナイトビュー画面を見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。ナイトビューはあくまで運転の補助として使用してください。
- ナイトビューは夜間のカーブの少ない道路を走行するときに運転者の視覚を補助するためのものです。坂道やカーブの多い場所、市街地では使用しないでください。道路形状（カーブの大きさ、勾配など）により表示できない場合があります。
- インstrumentパネル照度調整スイッチ（→P. 188）と連動してナイトビュー画面の明るさが調整されます。暗い設定にしているときは、ナイトビュー画面が見づらい場合があるため、明るくして使用してください。
- ナイトビューは全てのものを明るく映像化できるわけではありません。全体が暗く映ったり、一部が見えにくくなることがあります。ナイトビューを過信せず、ナイトビューを装着していない車と同様に、必ず周囲の安全を確認しながら慎重に運転してください。

< 映像に映りにくいもの >

- ・ 特定の素材の衣類（本革ジャケットなど）
- ・ 看板の文字
- ・ 道路案内板の情報など

< 映像が映りにくい状況 >

- ・ 雨、霧、降雪、吹雪などの悪天候時
- ・ 雨上がりの水たまりなど路面反射が大きいとき
- ・ カメラ前面のフロントウインドウガラスが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
- ・ ヘッドライト付近に氷、雪、泥などが付着しているとき
- ・ 著しく補機バッテリーの電圧が低下しているとき
- ・ 対向する強い光源が前方にあるとき



警告

■ 注意喚起枠について

注意喚起枠は、ナイトビューの歩行者検知機能が歩行者を検知したときに表示され、運転者に注意を促すものです。

- 注意喚起枠が出た場合は、前方に歩行者がいるおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- 注意喚起枠が出ても、ナイトビュー画面を見続けしないでください。前方の危険を見落とすおそれがあります。
- 天候や道路状況、歩行者の状況により注意喚起するタイミングが遅くなり、歩行者との距離が近くなる場合があります。注意喚起が出た場合は、まず直接周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- わき見運転の状態では役に立ちません。

■ 歩行者検知機能について

歩行者検知機能には限界があります。機能作動状態でも、下記のような歩行者を検知できないおそれのある状況では作動しないことがあります。

● 映像が映りにくい状況

- ・ 雨、霧、降雪、吹雪などの悪天候時
- ・ ワイパー作動中および間欠作動時（ワイパー LO 作動、HI 作動中は歩行者検知機能を停止）
- ・ カメラ前面のフロントウインドウガラスが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
- ・ ヘッドライト付近に氷、雪、泥などが付着しているとき
- ・ 著しく補機バッテリーの電圧が低下しているとき

など

- カーブや坂道、勾配のある道では、前方に歩行者がいても検知できない場合があります。
- 街路灯、照明、対向車の強いライトなど、強い光のある状態では検知しない場合があります。
- 自車の前方に歩行者が飛び出したときは、正しく検知できない場合があります。
- 歩行者検知範囲内でも、ガードレール、街路樹、柱、停車車両などで歩行者の体の一部が隠れている場合は検知できません

 警告

- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差、形状、大きさで歩行者を判断しているため、機能には限界があります。 また以下の場合、正しく検知できない場合があります。

<体型・姿勢の影響>

- ・寝ている人、しゃがんでいる人
- ・身長 1 m 以下、または 2 m 以上の人
- ・つれ立って歩く複数の人（ナイトビュー画面で重なって見える場合）
- ・横向きに立っている人
- ・手をあげている人

<衣服の影響>

- ・上下で反射率が大きく異なる服を着た人
- ・近赤外線カメラで暗く映るような近赤外線の反射率の低い服（本革ジャケットなど）を着た人
- ・コートや着物などで手足のシルエットのような特徴が出にくい服装の人
- ・反射材のタスキなど身につけた人

<持ち物の影響>

- ・傘をさしている人
- ・大きな荷物、かばんなどを持っている人

<その他>

- ・自転車に乗った人、自転車を押している人
- ・ベビーカーを押している人
- ・車いすの人、車いすを押している人

など

- 動物は検知しません。

- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差、形状、大きさで歩行者を判断しているため、人の形に似ているものがあつた場合、誤認識することがあります（看板、植木、テールライトなど）。

 注意

■ 近赤外線カメラについて



ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、以下のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 防眩ミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスタースイッチでガラスの曇りを取る
- カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像がナイトビュー画面に表示され、歩行者を正しく検知できない場合があります。

■ ナイトビュー作動中で近赤外線投光器が消灯しているときは

映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

 注意

■ 近赤外線投光器について



ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、以下のことをお守りください。

- ヘッドライト付近の汚れはナイトビューの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。
- 近赤外線投光器の電球は、ハイビームの電球も兼用しており、電球切れをおこすことがあります。ハイビームも使用できなくなるため、電球切れをおこした場合は、新しい電球に交換してください。
- 近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、ハイビームを長時間のぞきこまないようにしてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ パッケージトレイ
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

**警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりリスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P にいれて駐車し、輪止めをしてください。

 知識**■ 寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

- 安全に作業できる場所でおこなう
- 後 2 輪にのみ取り付ける
- ジャッキで車を持ち上げておこなう
- タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■ タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（氷雪路）を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ タイヤチェーンの使用について

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

合わせガラスの場合、ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	280
・ インテリアライト	281
・ パーソナルライト	281

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧	283
・ グローブボックス	285
・ コインホルダー	286
・ ドアポケット	286
・ カップホルダー	287
・ コンソールボックス	288
・ ノースモーカーズ ボックス	290
・ 小物入れ	291

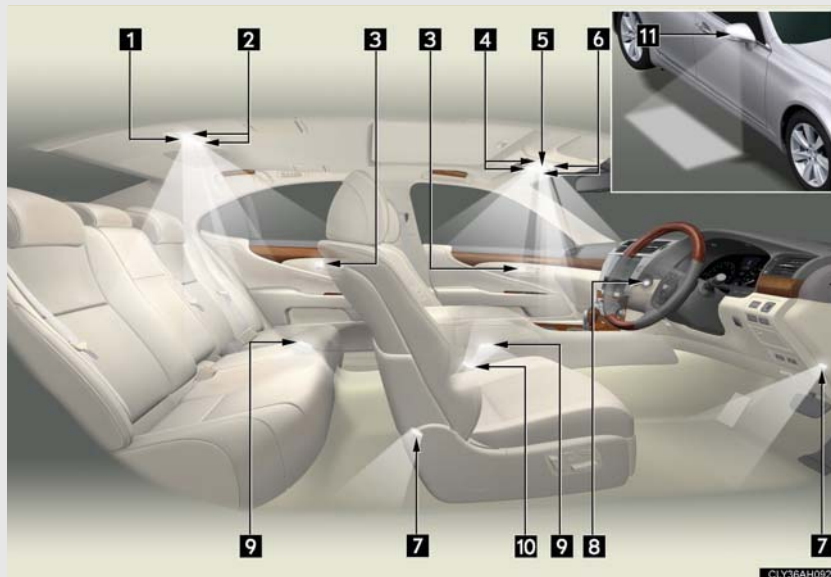
3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー	294
バニティミラー	295
灰皿	296
シガレットライター	297
アクセサリソケット／ アクセサリ コンセント	299
ステアリングヒーター	303
コンフォータブル・ エアシート／ リヤシートヒーター	305
アームレスト（5人乗り）	309
テーブル（4人乗り）	310
リヤサンシェード	312
リヤドアサンシェード	316
コートフック	319
フロアマット	320
トランク内装備	321

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

夜間の乗降を補助するために、イルミネテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“パワー”スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。



- 1 リヤインテリアライト (→P. 281)
- 2 リヤパーソナルライト (→P. 281)
- 3 インサイドハンドル照明
- 4 フロントインテリアライト (→P. 281)
- 5 シフト照明 (“パワー”スイッチアクセサリモードまたは ON モード)
- 6 フロントパーソナルライト (→P. 281)
- 7 足元照明
- 8 “パワー”スイッチ照明
- 9 ドアカーテシー照明
- 10 シートベルトバックル照明
- 11 ドアミラー照明

インテリアライト、パーソナルライト

インテリアライト

▶ フロント



- 1 OFF（消灯）
- 2 ドアポジション（ドア連動）
ON/OFF
- 3 ON（点灯）

▶ リヤ



点灯／消灯

フロントインテリアライトのドアポジションが ON のときは、ドアの開閉によっても点灯、消灯します。

パーソナルライト

▶ フロント



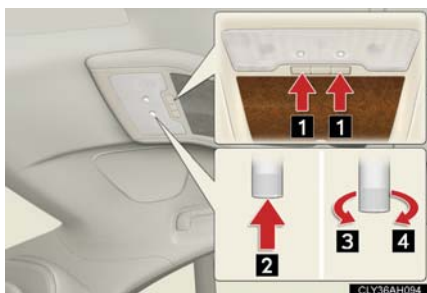
点灯／消灯

▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車）



点灯／消灯

▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ装着車）



1 点灯／消灯

2 ツマミを押し出します。左右にまわして明るさを調整できます。

3 暗くなる

4 明るくなる

 知識

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

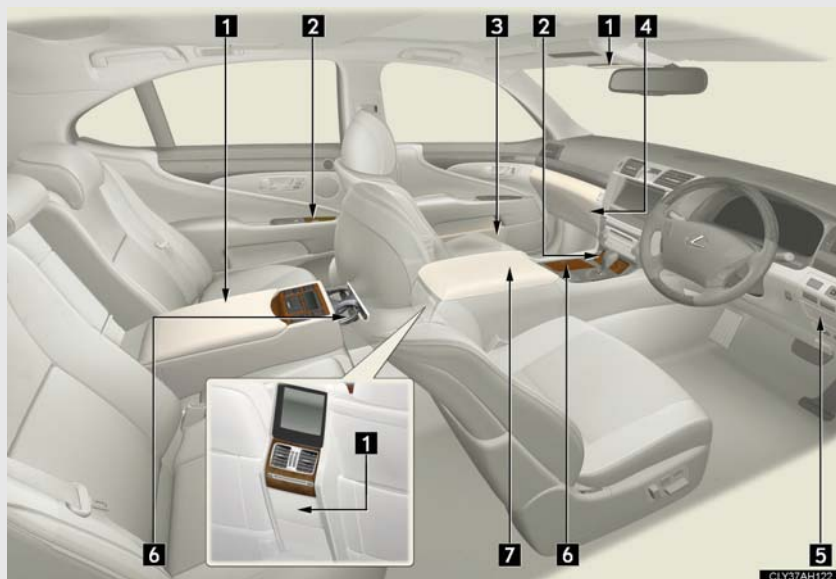
半ドア状態でフロントインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 → P. 420)

収納設備一覧

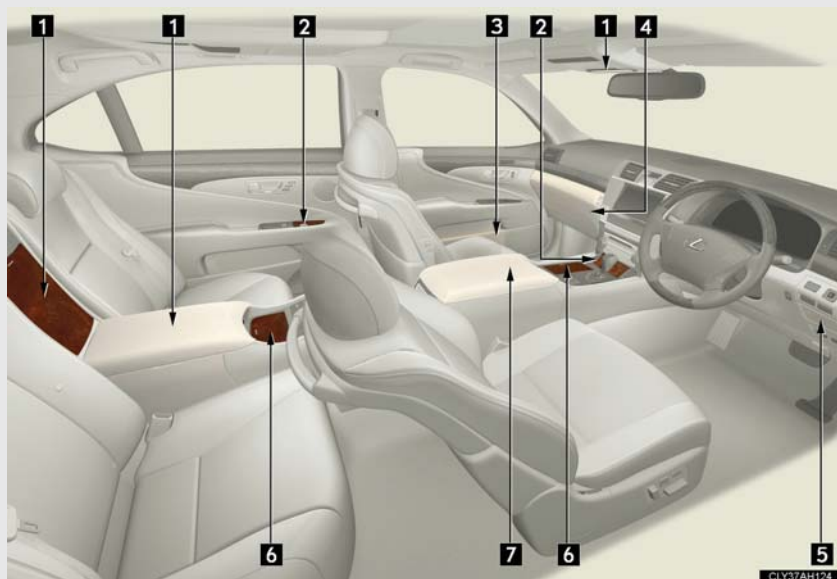
▶ 5人乗り



- 1 小物入れ*
- 2 ノースモーカーズボックス*
- 3 ドアポケット
- 4 グローブボックス
- 5 コインホルダー
- 6 カップホルダー
- 7 コンソールボックス

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ 4 人乗り



- 1 小物入れ
- 2 ノースモーカースボックス*
- 3 ドアポケット
- 4 グローブボックス
- 5 コインホルダー
- 6 カップホルダー
- 7 コンソールボックス

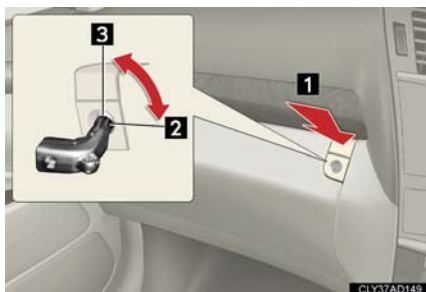
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

グローブボックス

！ 警告**■ 収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 メカニカルキーで解錠

知識**■ トランクオープナーメインスイッチ**

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 75）

！ 警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー、ドアポケット

コインホルダー



ボタンを押す。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

コインホルダーを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコインホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット（フロント席）



フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

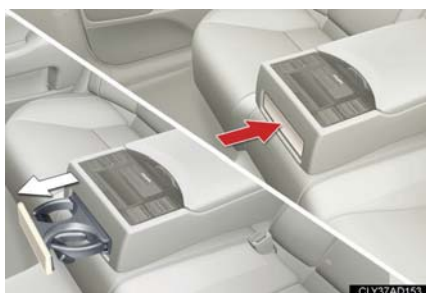
カップホルダー

▶ フロント



カップホルダーのふたの左側を押す。

▶ リヤ（5人乗り）



カップホルダーを押す。

▶ リヤ（4人乗り）



カップホルダーのふたの後側を押す。

警告**■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス**▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車**

- 1 ボタンを押しながらアームレストをスライドさせる。
- 2 アームレストを持ち上げる。

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車

- 1 ボタンを押す。
- 2 アームレストを持ち上げる。

コンソールボックス



■ コンソールボックス内のトレイについて (センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車)



トレイは引き上げた状態でも使うことができます。

■ 開閉操作の補助機能 (センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車)

コンソールボックスの開閉を途中までおこなうと、開閉操作を補助するように、操作方向に適切に力が働きます。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出した
りして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ トレイについて

トレイの高さ以上にものを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

ノースモーターズボックス*

▶ フロント



ふたの前部を押す。

▶ リヤ



ふたを開ける。

知識

■ ノースモーターズボックスの取りはずしについて（フロント）



本体の左端を持って引き上げます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ノースモーターズボックス、小物入れ

警告**■安全にお使いいただくために**

ノースモーターズボックスを灰皿として使用しないでください。

■走行中の警告

ノースモーターズボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ**▶ 天井***

ボタンを押す。

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ コンソール背面（センターコンソール付後席ディスプレイ装着車）

ふたを押す。

3

室内装備の使い方

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤシート（5人乗り）

手順 1 アームレストを手前に倒す。（→P. 309）



1 ボタンを押す。

2 ふたを持ち上げる。

ふたがスライドしているときは持ち上げることができません。（→P. 309）

▶ リヤシート（4人乗り）



ふたの上側を押す。

DVD やヘッドフォンを収納するのに便利です。



レバーを引き上げてロックを解除し、アームレストを持ちあげる。

小物入れ



知識

■ コンソール内のトレイについて



トレイは取りはずすことができます。

**警告**

■ 走行中の警告

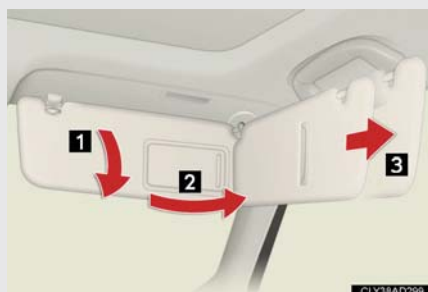
小物入れを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出した
りして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

3

室内
装備
の使
い方

サンバイザー



- ❶ 下ろす
- ❷ 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- ❸ 横へスライドさせる

3-3. その他の室内装備の使い方

バニティミラー

▶ フロント



カバーをスライドして開けます。

カバーを開けるとライトが点灯します。

▶ リヤ



ボタンを押して開けます。

ライトが点灯します。

⚠ 注意

■ 使用しないときは（リヤ）

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ライトを点灯しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

灰皿*

▶ フロント



ふたの前部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押します。

取りはずすときは、本体左右を持って引き上げます。

▶ リヤ



ふたを開けます。

取りはずすときは、ふたを持って引き上げます。

⚠ 警告

■ 使用後について

ふたを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものをいれないでください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

シガレットライター*

▶ フロント



灰皿のふたを開けて、シガレットライターを押し込みます。

もとの位置に戻ったら使用できます。

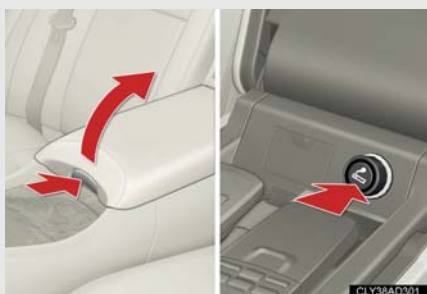
▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着の5人乗り）



シガレットライターを押し込みます。

もとの位置に戻ったら使用できます。

▶ リヤ（4人乗り）



シガレットライターを押し込みます。

もとの位置に戻ったら使用できます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



■使用条件

“パワー” スイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき



■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■使用後について（フロント）

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

アクセサリースOCKET/アクセサリコンセント

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V: DC12V で最大電流 10A(最大消費電力 120W) 以下の電気製品

AC100V: AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリースOCKET

▶ フロント



▶ リヤ (センターコンソール付後席ディスプレイ非装着の5人乗り)*



▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ装着の5人乗り）*

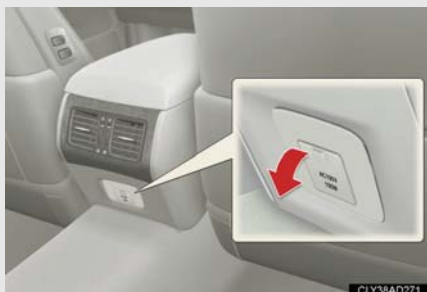


▶ リヤ（4人乗り）*



■ アクセサリーコンセント

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車*



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車*



 知識

■ 使用条件

- ▶ アクセサリーソケット
“パワー” スイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき
- ▶ アクセサリーコンセント
“パワー” スイッチが ON モードのとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

▶ アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶ アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

ステアリングヒーター*

ハンドルのレザー部分をあたためることができます。



ON/OFF

作動中はインジケータが点灯します。

知識

■ 作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■ インジケータが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたが触れないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いのかた
- 疲労の激しいのかた
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたのかた

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



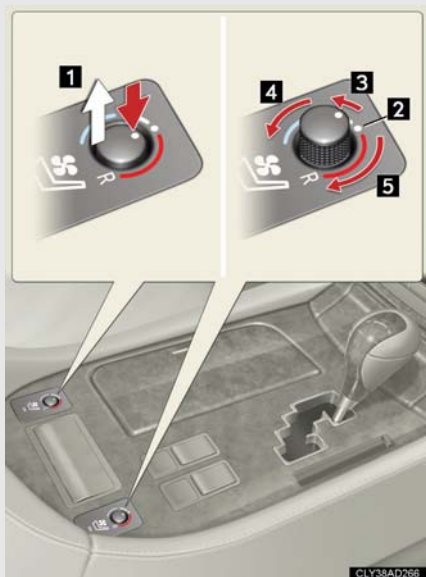
■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

コンフォータブル・エアシート* / リヤシートヒーター*

シート表面をあたためたり、冷やしたりすることができます。

■ フロントコンフォータブル・エアシート



1 ツマミを押し出します。左右にまわして温度を設定します。

使用しないときはツマミをもとの位置に戻してください。

2 OFF

3 送風

4 冷房

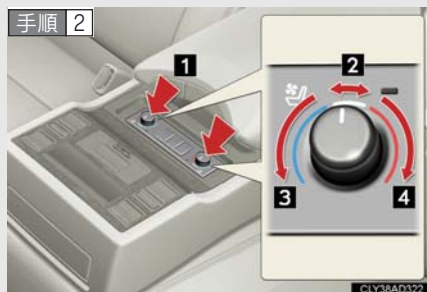
5 暖房

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤコンフォータブル・エアシート

▶ 5 人乗り

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。(→P. 309)

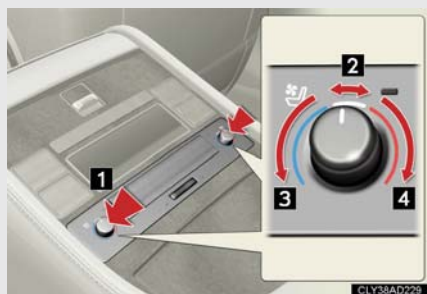


1 ツマミを押して ON にします。
左右にまわして温度を設定します。

OFF するにはもう一度ツマミを押します。

- 2** 送風
- 3** 冷房
- 4** 暖房

▶ 4 人乗り



1 ツマミを押して ON にします。
左右にまわして温度を設定します。

OFF するにはもう一度ツマミを押します。

- 2** 送風
- 3** 冷房
- 4** 暖房

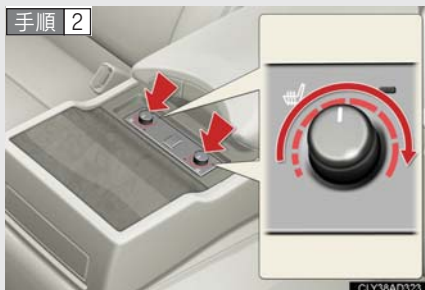


フロント席からも ON/OFF することができます。

■ リヤシートヒーター

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。(→P. 309)

手順 2



ツマミを押して ON にします。左右にまわして温度を設定します。

ツマミを右まわりにまわすほど高温になります。OFF するにはもう一度ツマミを押します。



フロント席からも ON/OFF することができます。

知識

■ コンフォータブル・エアシート／リヤシートヒーターの作動条件

“パワー” スイッチが ON モードのとき

■ フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

 警告

■ **やけどや冷やしすぎを防ぐために**

- 低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
コンフォータブル・エアシート／リヤシートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 注意

■ **コンフォータブル・エアシート／リヤシートヒーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

3-3. その他の室内装備の使い方 アームレスト（5人乗り）



手前に倒して使用します。

知識

■ アームレスト内のスイッチを操作するときは



ボタンを押してロックを解除し、ふたをスライドさせます。

もとに戻すときもボタンを押してください。

注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

テーブル（4人乗り）



レバーをスライドさせてテーブルを上げる。



テーブルを引き上げ、手前へ倒す。



テーブルの向きを変えることができます。テーブルを使用する前に、必ずロックされている事を確認してください。

前席のパワーシートはテーブルに接触しそうになると作動が止まります。(→P. 84、98)



テーブルを戻すには、ロック解除レバーを引きながらテーブルを上げてください。

 警告**■ 使用しないときは**

けがを防ぐために、テーブルを戻してください。

■ 走行中の警告

テーブルを確実に戻してください。事故や急ブレーキ時などに、テーブルに接触し、重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

■ テーブル使用中について

以下の注意をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

- テーブルが確実にロックされていることを確認してください。
- テーブルにもたれかけないでください。
- テーブルの上に 10kg を超える物体を置かないでください。

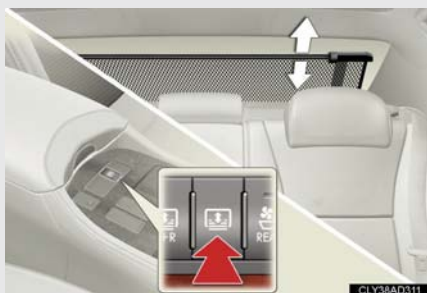
 注意**■ テーブルの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納できます。

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車）



展開／格納

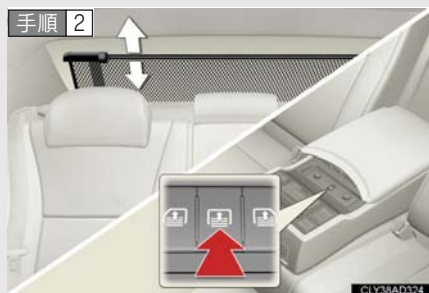
- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ装着車）



展開／格納

- ▶ リヤ席からの操作（5人乗り）

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。（→P. 309）



展開／格納

▶ リヤ席からの操作（4人乗り）



展開／格納

 知識

■ 作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリモードまたはOFFにしたあとでも、約60秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーをRにすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、下記のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーをPに入れる
- シフトレバーをPとR以外にし、15 km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でハイブリッドシステムを停止した場合は、再びハイブリッドシステムを始動させて15 km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストのリヤサンシェード、リヤドアサンシェード、オーディオ、エアコンの操作を禁止することができます。

▶ 5人乗り



ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

▶ 4人乗り



ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

⚠ 警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐため

ハイブリッドシステムが停止しているときはリヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

リヤドアサンシェード*

スイッチ操作でリヤドアサンシェードを伸縮できます。

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車）



展開／格納

片側が開いている状態では両側とも格納します。

- ▶ フロント席からの操作（センターコンソール付後席ディスプレイ装着車）



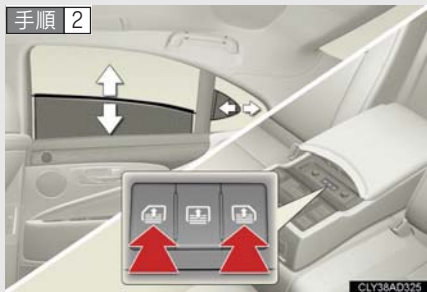
展開／格納

片側が開いている状態では両側とも格納します。

- ▶ リヤ席からの操作（5人乗り）

手順 1 アームレストのふたをスライドさせる。（→P. 309）

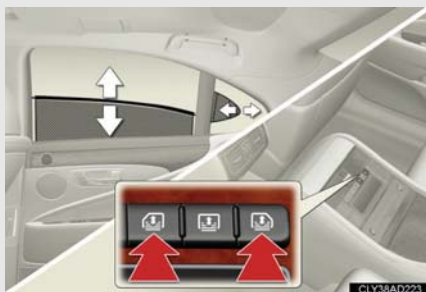
手順 2



展開／格納

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ リヤ席からの操作（4人乗り）



展開／格納

 知識

■ 作動条件

- “パワー” スイッチが ON モードのとき
- リヤドアガラスが完全に閉じているとき
リヤドアガラスを開けると自動的にリヤドアサンシェードが格納します。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 60 秒間リヤドアサンシェードを操作できます。

■ 挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠との間に異物が挟まると、挟み込み防止機能が作動してアームからサンシェードがはずれます。

▶ 展開作動中で挟み込み防止機能が作動したら

スイッチを押すとアームとサンシェードが連結されます。

スイッチをもう一度押すことで再び使用できます。

もしスイッチを押してもサンシェードが作動しない場合は、もう一度操作してください。

▶ 格納作動中に挟み込み防止機能が作動したら

サンシェードを再び展開させるためにボタンを押し、そのままサンシェードが完全に展開し停止してから 5 秒以上経過するまでボタンを押しつづけてください。



知識

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 314)

■ 補機バッテリーを再接続したときは

補機バッテリーを再接続したあと、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドアサンシェードは格納方向に動きます。



警告

■ リヤドアサンシェード作動中は

リヤドアサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。



注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐため

ハイブリッドシステムが停止しているときはリヤドアサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

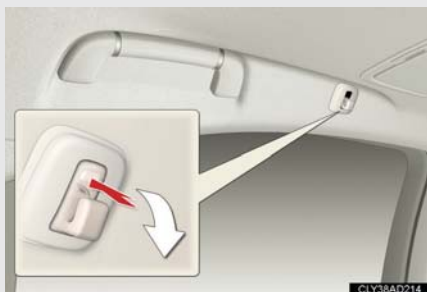
以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤドアサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

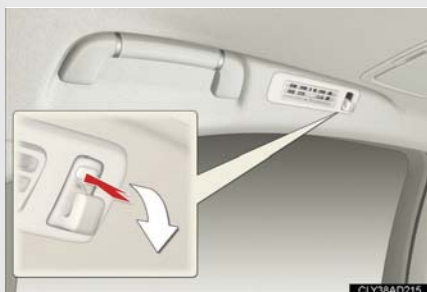
コートフック

▶ リヤエアコン非装着車



使用するときには、コートフックを
押します。

▶ リヤエアコン装着車



使用するときには、コートフックを
押します。

⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な
傷害または死亡につながるおそれがあります。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。



フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない。
- 運転席専用のフロアマットを使用する。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にとしっかりと固定する。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない。

■ 運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にとしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う。
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する。

3-3. その他の室内装備の使い方

トランク内装備

■ 荷物固定用ネット

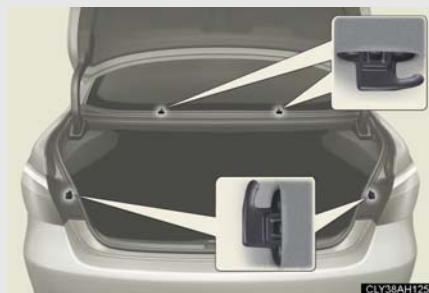


ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

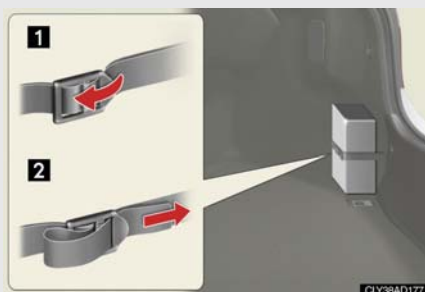
床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。



■ 買い物フック



■ 救急箱等固定用バンド



1 ゆるむ

2 締まる

■ 三角表示板収納スペース



三角表示板を収納することができるスペースです。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)

⚠ 警告

■ 荷物固定用ネットを使用しないときは

必ず固定用フックをもとの位置に戻しておいてください。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	324
内装の手入れ	327
タイヤについて	330

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	333
ガレージジャッキ	336
エンジンルームカバー	338
タイヤの交換	340
電球（バルブ）の交換	346
ヒューズの点検、交換	356
電子キーの電池交換	360
ウォッシュャー液の補給	362

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

- シリコンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す
- 晴天時に太陽光を 1・2 日間当てる

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付）について

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷えてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ 後方ブリクラッシュセーフティシステム* について

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、レクサス販売店にご相談ください。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

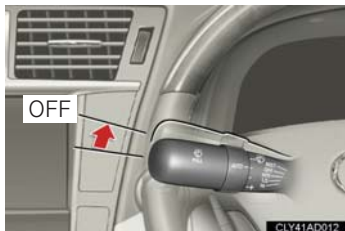
■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパー
が作動してワイパーブレードなどを損傷する
おそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
(本革張りインストルメントパネル*には必要ありません。)

■ カーベットの洗淨

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 104)

警告

■車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 40) 駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 134)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

**注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みをさけるために

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-1. お手入れのしかた

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの磨耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

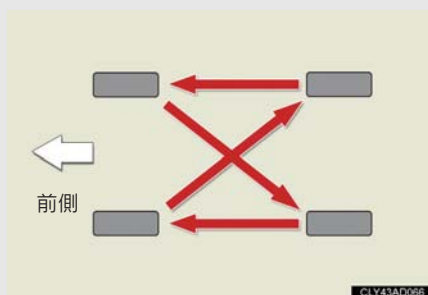
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



▶ 235/50R18 97W

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

▶ 235/50R18 97V

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

▶ 245/45R19 98Y

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm²)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、ベルテッドバイアスタイヤ、バイアスタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

 警告

■ **異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

 注意

■ **走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1



ボンネット解除レバーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネットを開ける。

警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 修理、車検、整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

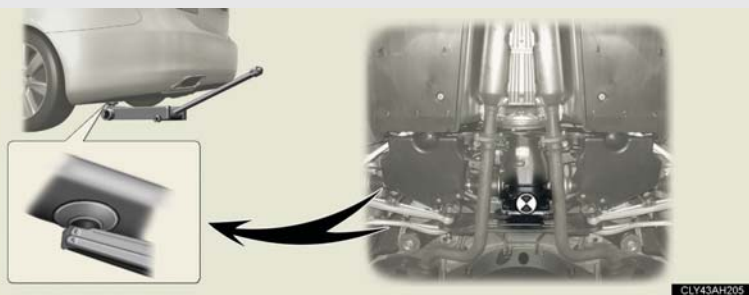
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



警告

■ 車両を持ち上げる時には

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

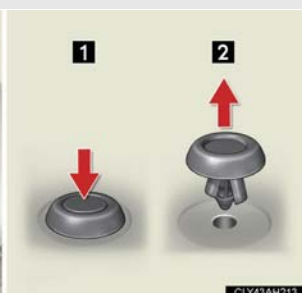
ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 外側

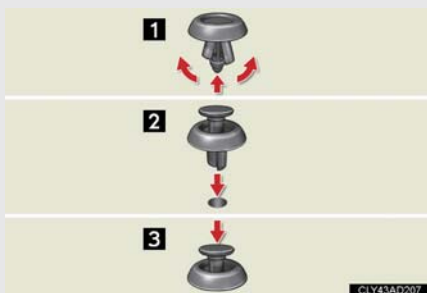


▶ 前側



■ クリップの取り付け方

▶ タイプ A



▶ タイプ B


 警告

■ けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、“パワー” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ カバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

タイヤの交換

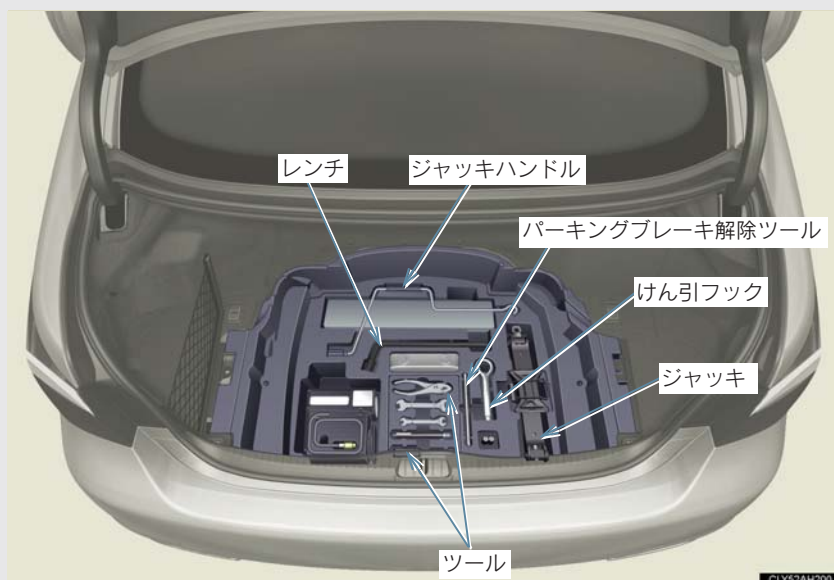
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- ハイブリッドシステムを停止する

■ 工具とジャッキ位置



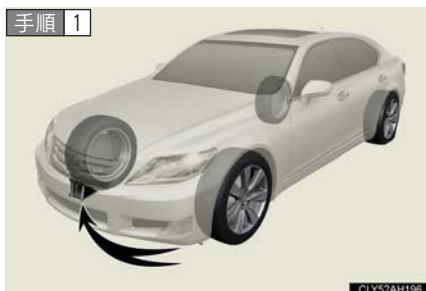
ジャッキの取り出し方

手順 1 ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたんだあとデッキボードを取りはずす。(→ P. 383)



ジャッキのとめ具を取りはずす。

タイヤの交換



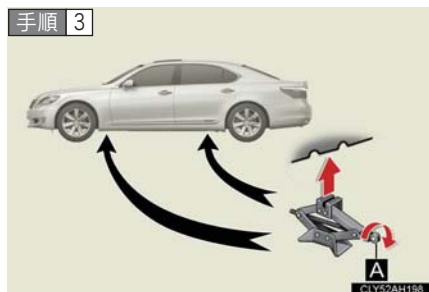
輪止め※をする。

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。



ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる。



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。



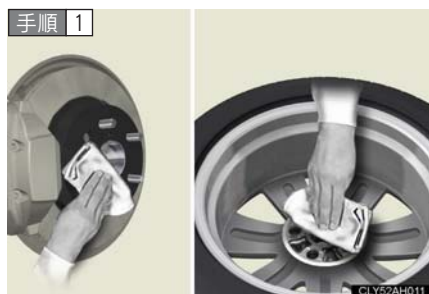
タイヤが地面から少しはなれるまで、車体を上げる。



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

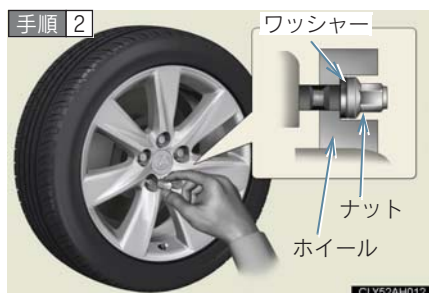
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷つかないように意匠面を上にする。

タイヤの取り付け



ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

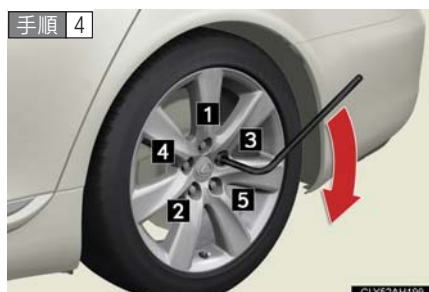


タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

ワッシャーがホイールに軽く当たるまでナットをまわす。



車体を下げる。



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
140 N・m (1430 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキを収納する。

 警告

■ **ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車両に使ったり、他の車両のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- 車両を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車両の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずハイブリッドシステムを停止する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

**警告****■ タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 140 N・m (1430 kgf・cm) の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する。
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

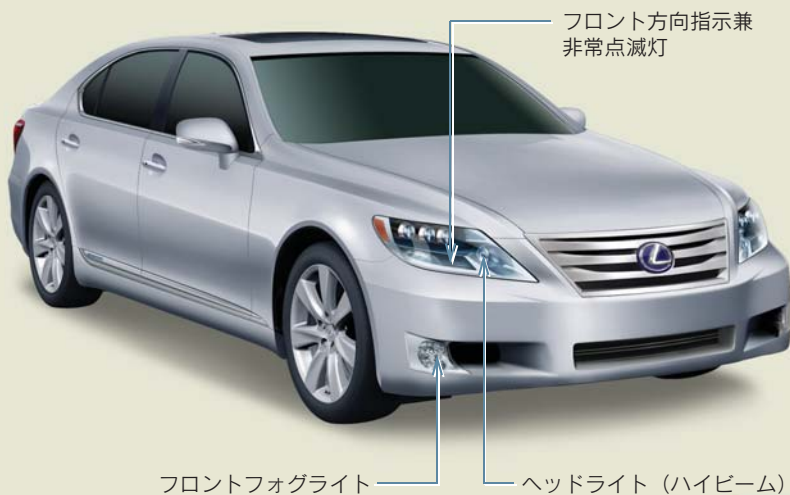
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 418）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 338

■ フロントのバルブ位置



GLY43AH191

■ リヤのバルブ位置



電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1 電球を交換するまえに、

▶ 左側



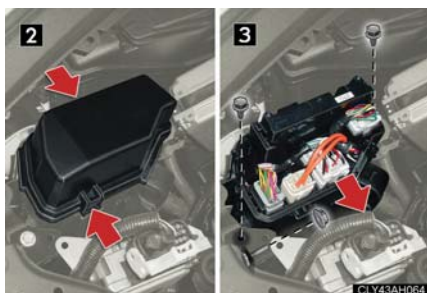
ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動する。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ 右側



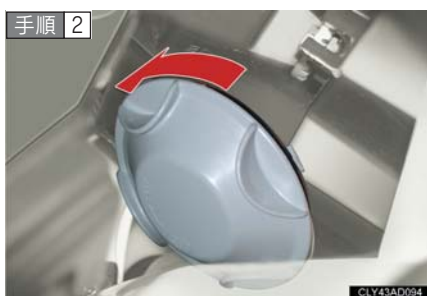
- 1 ECU の固定ボルトをはずし、ECU を移動する。



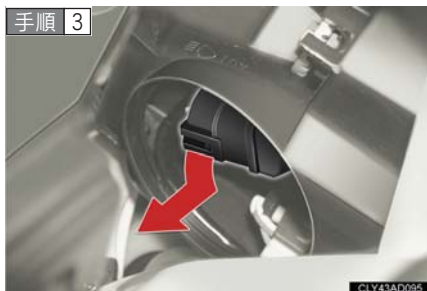
- 2 リレーブロックのカバーをはずす。



- 3 リレーブロックの固定ボルトをはずし、リレーブロックを移動する。

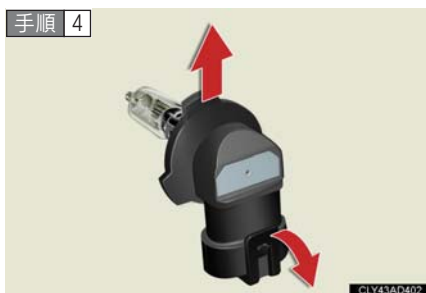


カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。

手順 4



電球を取りはずす。

■ フロントフォグライト

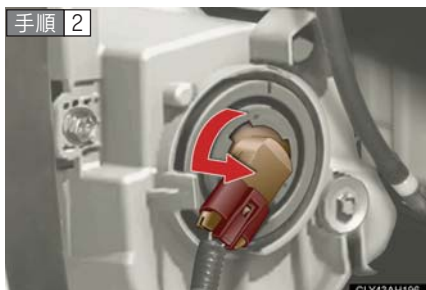
手順 1



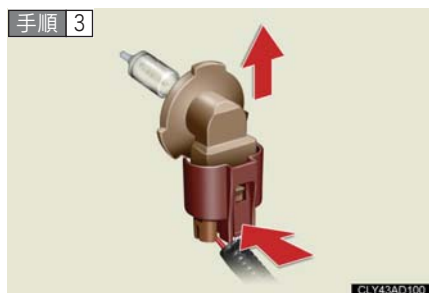
交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。

フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをめくる。

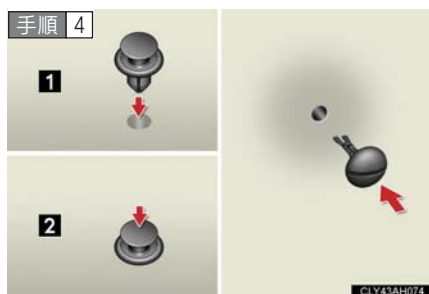
手順 2



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。



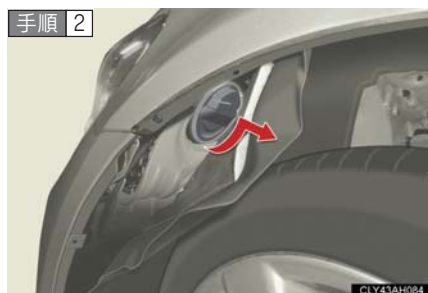
固定ボルトとクリップを取り付ける。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

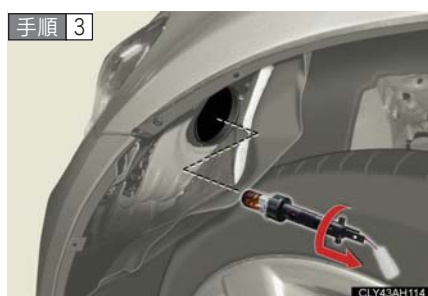


交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。

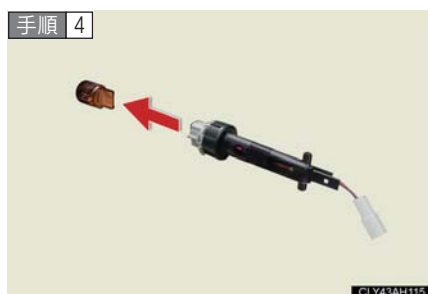
フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをめくる。



カバーを取りはずす。



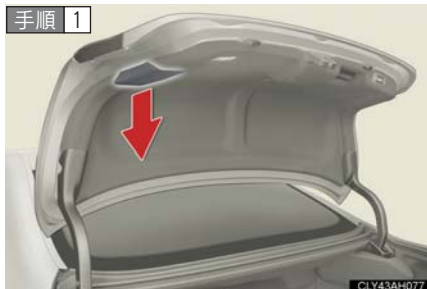
ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

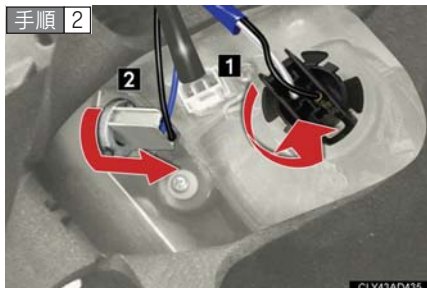
■ 後退灯、リヤフォグライト*

手順 1



トランクを開け、カバーを取りはずす。

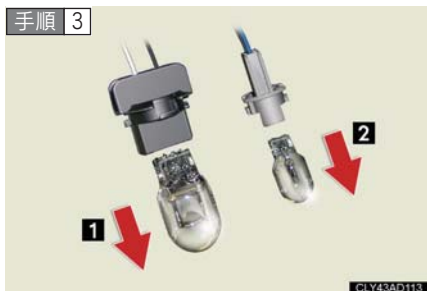
手順 2



ソケットを取りはずす。

- 1 リヤフォグライト
- 2 後退灯

手順 3



電球を取りはずす。

- 1 リヤフォグライト
- 2 後退灯

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

手順 1



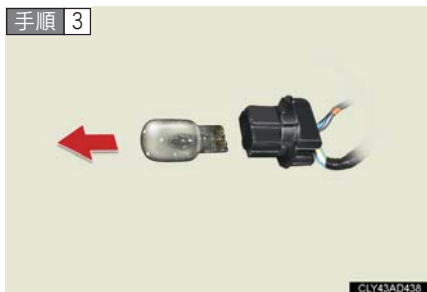
トランクを開け、カバーを取りはずす。

手順 2



ソケットを取りはずす。

手順 3



電球を取りはずす。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- 車幅灯
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップライト
- 番号灯



知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている



警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

**注意****■ ヘッドライト（ハイビーム）、フロントフォグライト、フロント方向指示兼非常点滅灯の電球交換について**

ご自身で電球交換をおこなった場合、車を損傷するおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■ LED ライトについて

ヘッドライト（ロービーム）、車幅灯、サイド方向指示兼非常点滅灯、制動灯、尾灯、ハイマウントストップライト、番号灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “パワー” スイッチを OFF にする。

手順 2 ボンネット、トランクを開ける。

▶ エンジンルーム

エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 338)

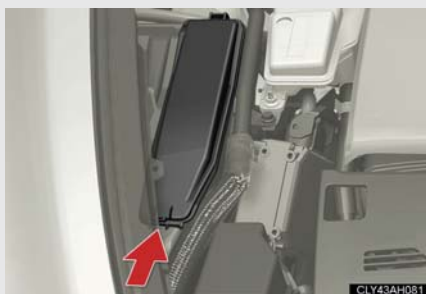
▶ トランク



補機バッテリーカバーを取りはずす。

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス C）



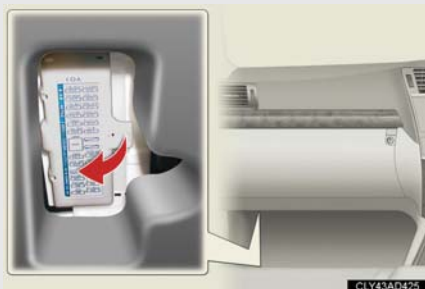
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元



カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元



カバーを取りはずす。

▶ トランク



カバーを取りはずす。

手順 4



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 5

1



2



CLV43AD158

ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 346)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズが同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位、高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換をおこなわないでください。

取り扱いを誤ると感電し、生命に関わるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

4-2. 簡単な点検・部品交換

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1



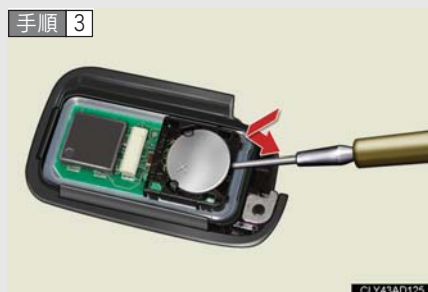
メカニカルキーを抜く。

手順 2



カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

 知識**■ 電子キーの電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

 警告**■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまに触れさせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

 注意**■ 交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給する。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

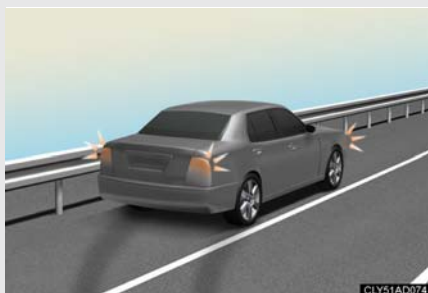
故障したときは.....	364
非常点滅灯	365
発炎筒	366
けん引について.....	368
イベントデータ レコーダー	372

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	374
警告メッセージが 表示されたときは.....	378
パンクしたときは.....	381
ハイブリッドシステムが ^g 始動できないときは.....	392
シフトレバーが ^g シフトできないときは.....	394
パーキングブレーキが ^g 解除できないときは.....	395
電子キーが正常に 動かないときは.....	399
補機バッテリーが ^g あがったときは.....	402
オーバーヒートした ときは	406
スタックしたときは.....	410
車両を緊急停止するには	411

5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。



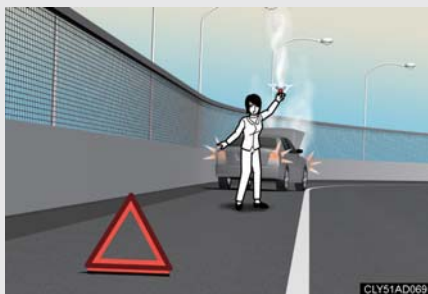
非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→ P. 365)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



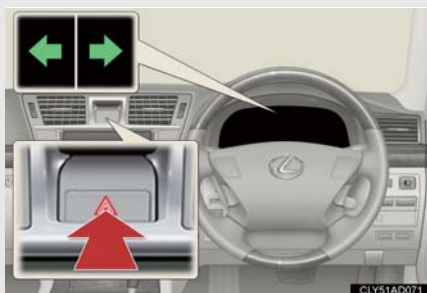
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→ P. 366)

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向
指示灯が点滅し、もう一度押すと
消灯します。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

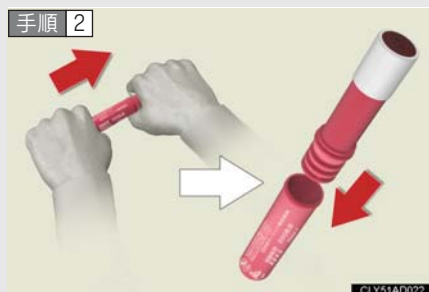
ハイブリッドシステム停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す。



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。



先端のふたを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。

**警告****■ 発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動などにとどめてください。

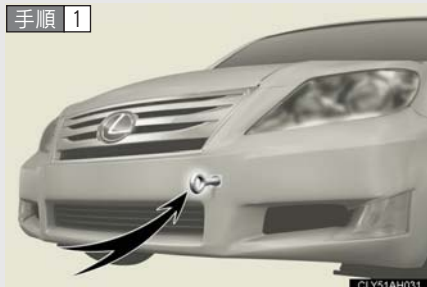
■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- READY インジケーターが点灯しているのに、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

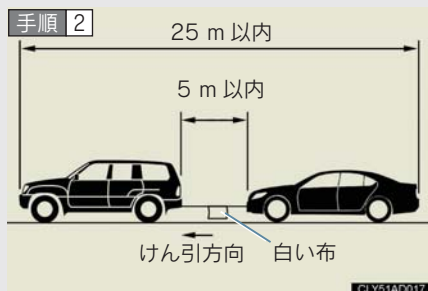
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 3 ハイブリッドシステムを始動する。

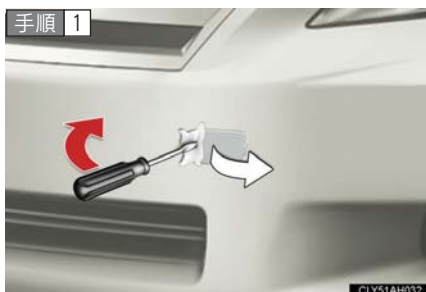
ハイブリッドシステムが始動しないときは、“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

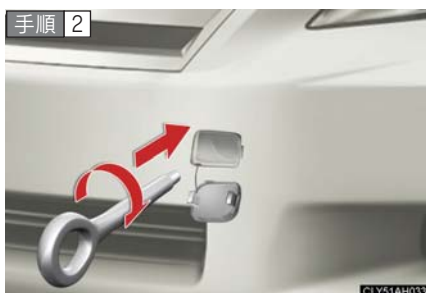
手順 1



マイナスドライバーを使ってふたをはずす。

車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

手順 2



けん引フックを穴に差し込み軽く締める。

手順 3



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける。



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 340



警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

しっかりと取り付けてください。

さもないとけん引時にはずれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車両を運搬するときは

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

車輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

■けん引中の運転について

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。

けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

- “パワー”スイッチをOFFにしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- けん引される車は、慎重に運転してください。

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

**注意****■車両の損傷を防ぐために**

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動などにとどめる
 - ・前進方向でけん引する
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理をおこなうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯 ・ブレーキ液の不足 ・電子制御ブレーキシステムの異常

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常

警告灯	警告灯名・警告内容
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 ・ アクティブヘッドレストシステムの異常*
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常
	ブレーキ警告灯 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 ・ 電動パーキングブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (点滅)	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常 (処置により消灯する場合は、異常ではありません。)
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常
 (点滅)	オートマチックハイビーム表示灯 オートマチックハイビームシステムの異常
 (点滅)	クルーズコントロール表示灯 クルーズコントロールシステムの異常
 (点滅)	AFS OFF 表示灯 AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなる場合があります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
 燃料計内	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 13 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	水温警告灯 エンジン冷却水高温異常	→ P. 406

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示	→ P. 378

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**

各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときにブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。



知識

■ **助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときはメッセージの内容にしたがってご対処ください。



1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

対処後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が以下のように切り替ります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行に関わるシステムの故障や、そのまま放置するとおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点滅	—	なし	お車を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※：メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 専用警告灯について

以下の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングライトが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
AFS OFF 表示灯が点滅します。（→P. 200）
- ブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（赤色）が点灯します。（→P. 374）
- 回生ブレーキシステム・電子制御ブレーキシステム・電動パーキングブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。（→P. 374）
- ABS の異常
ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→P. 374）
- 充電系統の異常
充電警告灯が点灯します。（→P. 374）
- エンジン冷却水高温異常
水温警告灯が点滅または点灯します。（→P. 406）

■ 「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたとき

→P. 408

■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認下さい」が表示されたとき

- 数秒後に表示が消えたとき
ハイブリッドシステムを約 15 分以上作動させ、補機バッテリーを充電してください。
- 表示が消えないとき
「補機バッテリーがあがったときは」の手順でハイブリッドシステムを始動してください。（→ P. 402）



注意

- 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認下さい」が頻繁に表示されるときは補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こす可能性があるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

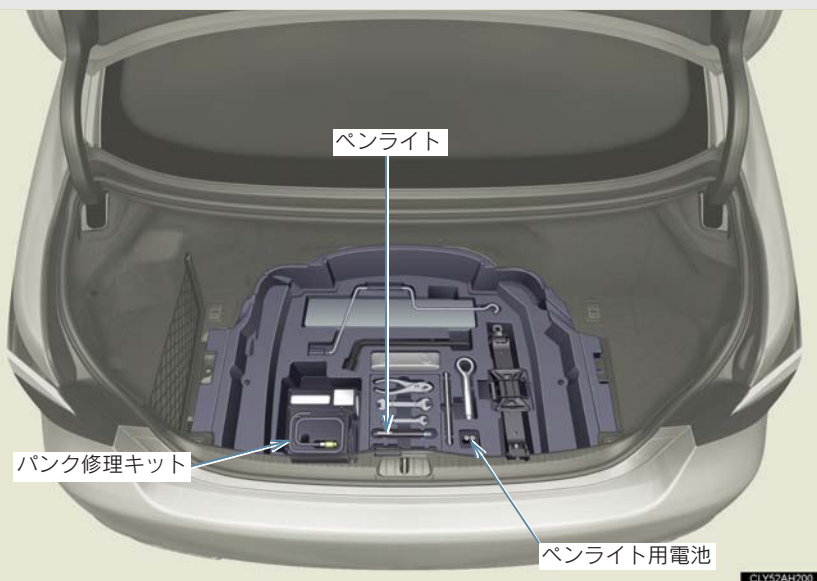
この車両にはスペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときにパンク修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。)
パンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、販売店にご相談ください。

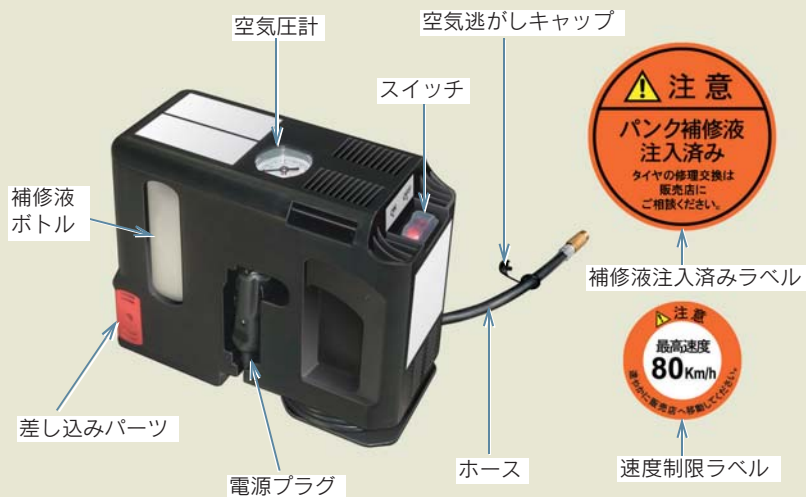
■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ パンク修理キットとペンライトの位置



■ パンク修理キットの内容、各部名称



ペンライトの使い方

夜間の応急修理などに使用できるペンライトをトランク内に装備しています。



- 1 先端部を回して開ける。
- 2 電池を入れる。
- 3 先端部を装着する。
- 4 ON/OFF

パンク修理キットの取り出し方



ハンドルを起し、ラゲージマットを折りたたむ。



デッキボードを取りはずす。

手順 3 パンク修理キットを取り出す。

応急修理をする前に

応急修理をする前に、タイヤの損傷状況を目視で確認する。

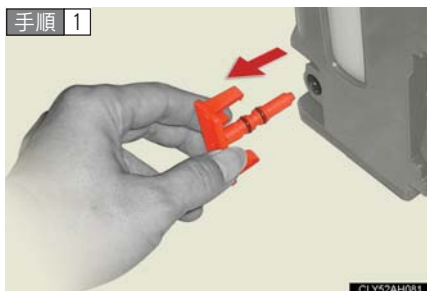


釘やねじなどが刺さっている場合のみタイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さったクギやネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり、応急修理ができなくなる場合があります。
- ・ パンク補修液が漏れないように、パンク箇所が分かっている場合は、タイヤのパンク箇所が上側になるように車を移動してください。

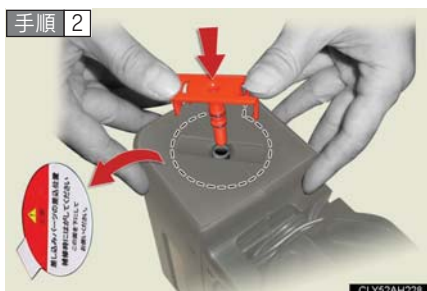
応急修理するときは

手順 1



キットから差し込みパーツを引き抜く。

手順 2



キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込む。

“パチッ” と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

手順 3



キットの向きをもとに戻し、スイッチがOFFであることを確認する。

必ず立ててご使用ください。

手順 4



キットの電源プラグをアクセサリソケットに差し込む。(→P. 299)

手順 5



バルブからバルブキャップを取りはずす。

手順 6



ホースから空気逃がしキャップを取りはずす。

手順 7



ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する。

ホース先端を時計まわりに回してしっかりと最後までねじ込む。

手順 8



タイヤの指定空気圧を確認する。

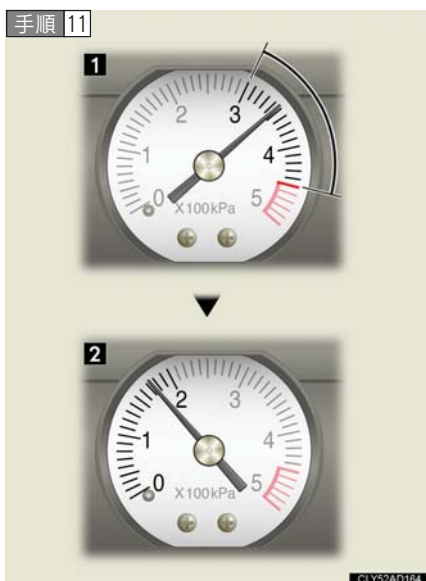
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 418)

手順 9 ハイブリッドシステムを始動する。



キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する。

必ず立ててご使用ください。



空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する。

1 スイッチ ON 直後はパンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300 ~ 450kPa まで上昇します。

2 1 分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填してください。

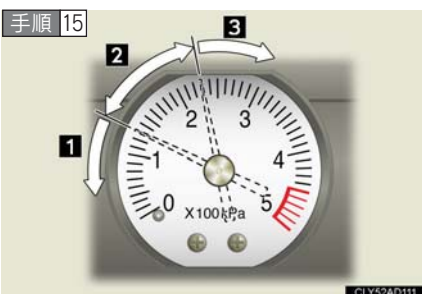
- ・ 空気圧は、キットのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認を繰り返してください。
- ・ 空気圧計の針が赤いゾーン (450kPa 以上) に達した場合、タイヤまたはキットに異常がある可能性があります。直ちに修理を中止してください。
- ・ 10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。販売店にご連絡ください。
- ・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 389)

手順 12 バルブからキットのホースを取りはずし、アクセサリソケットから電源プラグを取りはずす。

手順 13 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、直ちに約 5 km 走行する。



走行後、再度キットを接続する。



キットのスイッチを数秒間ONにし、OFF にしてから空気圧を確認する。

1 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理できません。販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kPa 以上、指定空気圧未満の場合：**手順 16**へ

3 空気圧が指定空気圧の場合：
手順 17へ

手順 16 キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後に改めて**手順 14**から実施する。



キットを片付けて、付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける。

急ブレーキ、急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転して販売店へ行きます。タイヤの修理・交換については販売店にご相談ください。

知識

■ 以下のときは、パンク修理キットでは応急修理できません。販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側壁の亀裂や損傷によりタイヤがパンクしているとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤ溝に 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については販売店にご相談ください。
- タイヤ 1 本を 1 回、応急修理できます。使用したパンク補修液のボトルと付属品の交換は販売店にご相談ください。
- 外気温度が $-30^{\circ}\text{C} \sim 60^{\circ}\text{C}$ のときに使用できます。
- キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。
- キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからホースを取りはずす。



ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く。

手順 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する。

手順 4 キットのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する。
(→P. 418)

指定空気圧より低いときは、再度キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のバルブについて

パンク修理キットを使用したときは、バルブを新品に交換してください。



警告

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させる。
- ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続する。
- ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるのでキット作動中は補修中のタイヤからはなれてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにキットのスイッチを切り、修理を中止してください。
- キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
- キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 警告**■ 補修液を均等に広げるための運転について**

- 低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 再度空気圧を測ってください。130kPa 以下の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急修理をするときは

- タイヤ溝に刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理をおこなってください。
取り除いてしまうと、パンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ キットについて

- キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- キットは指定の位置に格納し、お子様が誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。以下のことをご確認ください、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステムの始動方法(→ P. 169)にしたがっても始動できない

以下の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→ P. 400)
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→ P. 125)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。(→P. 393)

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 402)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 402)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、以下の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
- 手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。
- 手順 3 “パワー” スイッチをアクセサリモードにする。
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “パワー” スイッチを約 15 秒以上押しつづける。

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “パワー” スイッチをアクセサリモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

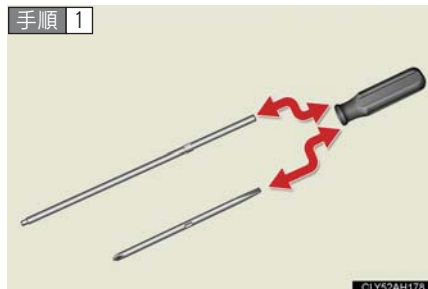
パーキングブレーキが解除できないときは

補機バッテリーあがりやパーキングブレーキスイッチを操作しても解除されないときは、以下の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみおこなってください。補機バッテリーが正常なときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 手動解除する前に

- シフトレバーを P に入れる
- “パワー” スイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法

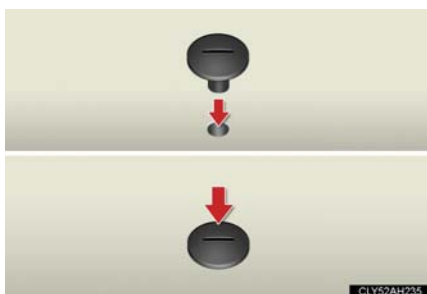


パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す。(→ P. 340)

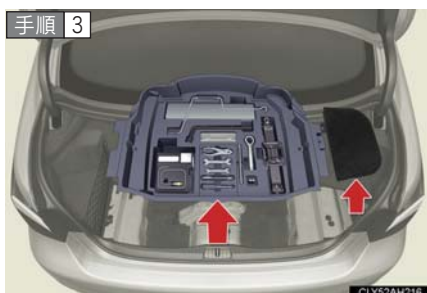
車載ドライバーのハンドルは、用途に応じてパーキングブレーキ解除ツールに差し換えてご使用ください。



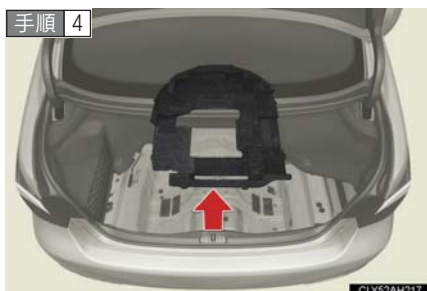
マイナスドライバーを使って、クリップを取りはずす。



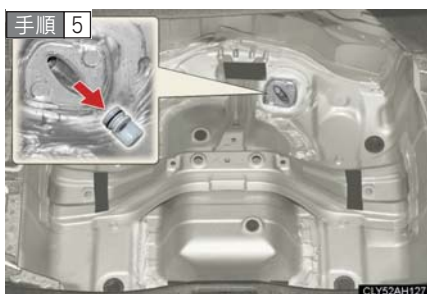
図のようにクリップを取り付ける。



サイドデッキボードを取りはずし、ツールトレイを取り出す。



ツールトレイガードを取り出す。



キャップを取りはずす。



車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差し換える。

パーキングブレーキ解除ツールを差し込み、強く押し当てながら左へ止まるまでまわす。

知識

■ 手動操作について

パーキングブレーキは手動でかけることができません。



警告

■手動解除するときの警告

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーを P に入れて輪止めで固定してください。
車両が動きだすおそれがありますので、とくに注意してください。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ず“パワー”スイッチを OFF にして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
“パワー”スイッチが ON モードのときに手動解除をおこなうと、システムが作動して差し込んだツールが回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 56）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

▶ ドア



電子キーに内蔵されているメカニカルキー（→P. 52）を使います。運転席側のドアハンドルのカバーを取りはずして操作します。

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス、ムーンルーフ*が閉まる（長まわし）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス、ムーンルーフ*が開く（長まわし）

使用後は、カバーをもとに戻してください。



*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ トランク



メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

“パワー” スイッチの切り替え、ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 シフトレバーがPの状態ブレーキを踏む。



電子キーのレクサスエンブレム面で、“パワー” スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“パワー” スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 “パワー” スイッチの切り替え：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足をはなして “パワー” スイッチを押します。“パワー” スイッチを押すごとにスイッチを切り替えることができます。(→P. 170)

ハイブリッドシステム始動：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで “パワー” スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



■ ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にして “パワー” スイッチを押します。

■ 電池交換について

上記のハイブリッドシステム始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 360)

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、以下の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付救援車があれば、以下の手順にしたがって、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

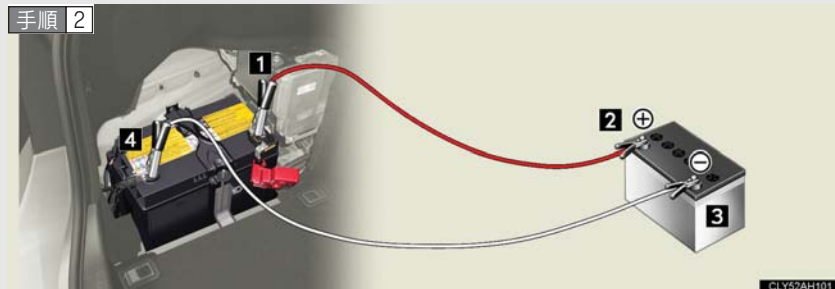
手順 1



トランクを開け、バッテリーカバーをはずす。

トランクオープナースイッチで開かない場合は、メカニカルキーで開けます。(→P. 399)

手順 2



補機バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

- 1 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子につなぐ。
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ。
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を自車の補機バッテリーの-端子につなぐ。

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する。

手順 4 “パワー” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“パワー” スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する。

手順 6 READY インジケーターが点灯することを確認する。

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

手順 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーがはずされたり、補機バッテリーがあがってしまった場合は

“パワー” スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ハイブリッドシステムの始動について

補機バッテリーあがり発生後や、脱着後は次の操作を行ってください。それでも始動しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 補機バッテリーあがり発生後は、補機バッテリーが復帰してもハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、シフトレバーをP、“パワー”スイッチをOFFにしていずれかのドアを開閉し、再度始動操作をおこなってください。
- 補機バッテリー脱着後は、運転席ドアを開閉して10秒以上待ってから始動操作を行ってください。その際、1度目の操作では始動しませんが異常ではありません。再度始動操作をおこなってください。

警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルの+側と-側を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ず守ってください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- 補機バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

 警告

- 補機バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近づけない

■ 補機バッテリーの交換について

交換する場合は LS600h/LS600hL 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

以下のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温警告灯が点滅または点灯：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- 「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

手順にしたがってご対処ください。

対処方法

■ 水温警告灯が点滅または点灯したとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

ハイブリッドシステムを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

READY インジケーターが点灯した状態のまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 エンジンルームカバーをはずす。(→P. 338)

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

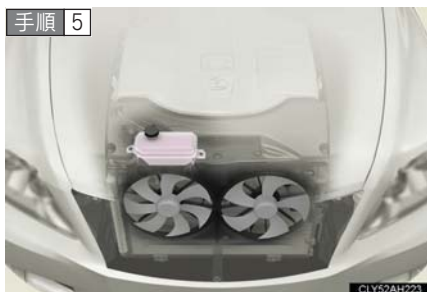
ファンが作動している場合：

水温警告灯が消灯してからハイブリッドシステムを停止する。

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する。

手順 5



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水漏れを点検する。

手順 6



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。(別冊メンテナンスノート参照)

■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 READY インジケーターが点灯した状態のまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 エンジンルームカバーをはずす。(→P. 338)

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

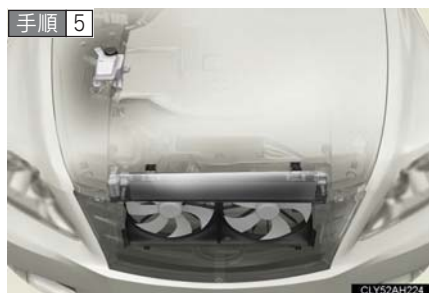
ファンが作動している場合：

「ハイブリッドシステム過熱」が消えてからハイブリッドシステムを停止する。

しばらく待っても消えない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する。

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する。



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水漏れを点検する。



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。(別冊メンテナンスノート参照)

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ オーバーヒートとは

オーバーヒートのとき、お車に以下のような症状があらわれます。

- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

 警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- “パワー”スイッチ上のインジケーターとREADYインジケーターが消灯していることを確認してください。
- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬけがにつながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱いうちはクーラントリザーバーキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

 注意

■ 冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 247)

警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車両、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車両が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

車両が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4



“パワー” スイッチを 3 秒以上押し続けてハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 414

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 420

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類のご使用をおすすめします。

弊社純正オイル・液類以外を使用される場合は、弊社純正油脂類に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	84

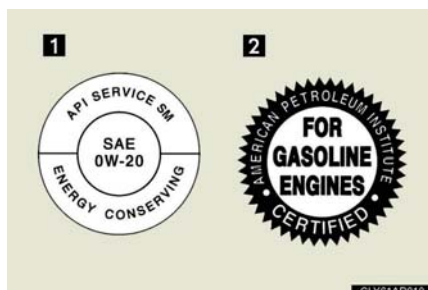
エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※ —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	2UR-FSE	8.4	9.0

※ 0W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

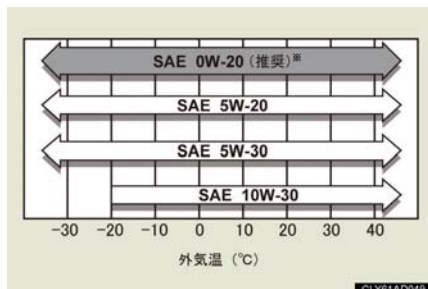


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。
オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリンエンジン	インバーター
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	11.1	2.5

トランスミッション

銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	5.7

トランスファー

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正トランスファーギヤオイル LL80 (推奨)、 弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	0.7

フロントディファレンシャル

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.75

リヤディファレンシャル

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄

弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	95

※ 200 N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 (ハイブリッドシステム始動時)	パーキングブレーキ表示灯の 状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）

4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	235/50R18 97W 235/50R18 97V	230 (2.3)	230 (2.3)
	245/45R19 98Y	230 (2.3)	240 (2.4)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：H9） ロービーム	65 LED※
	車幅灯	LED※
	フロントフォグライト（バルブタイプ：HB4）	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	16
	制動灯&尾灯	LED※
	尾灯	LED※
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED※
	番号灯	LED※
	ドアミラー照明	5

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	フロントインテリアライト	8
	フロントパーソナルライト	LED ※
	フロントバニティライト	8
	リヤインテリアライト	8
	リヤパーソナルライト (後席 9 型ワイドディスプレイ装着車)	10
	リヤパーソナルライト (後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車)	LED ※
	リヤバニティライト	3
	シフト照明	LED ※
	インサイドハンドル照明	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	シートベルトバックル照明	LED ※
	足元照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※
	灰皿／ノースモーカーズボックスライト	LED ※
	コンソールボックスライト	LED ※
	コンソール背面小物入れライト	LED ※
	リヤ席アームレスト下小物入れライト (4 人乗り)	LED ※
	トランクリッドライト	3.8
	トランクライト	3.8

※ LED は、Light Emitting Diodes (発光ダイオード) の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
LS600h	UVF45	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	AWD (4 輪駆動)
LS600hL	UVF46	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	AWD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 56)	解錠ドアの選択	全席	運転席
			各席
			側席
	スマートエントリー&スタート	する	しない
ワイヤレスドアロック (→P. 67)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	トランク解錠時の操作	1 回長押し	2 回押し
			1 回短押し
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 56、67)	非常点滅灯での作動の合図	する	しない
	半ドア警告ブザー	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ドアロック (→P. 69、 399)	車速感応オートドアロック	する	しない
	運転席を開けたときの全ドア解錠	しない	する
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	する	しない
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	しない	する
	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
トランク (→P. 74)	パワートランクリッド機能	あり	なし
パワーイージー アクセスシステム (→P. 95)	降車時運転席シート移動量調節	標準	OFF -1
	ハンドルのオートアウェイ・オートリターン機能	する	しない
パワーウィンドウ (→P. 114)	助手席・リヤ席スイッチによる自動全開	あり	なし
	運転席スイッチによる助手席・リヤ席の自動全閉	あり	なし
	メカニカルキー連動時の作動	開閉作動	なし
			開作動のみ
			閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	なし	開作動のみ
			閉作動のみ
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	あり	開閉作動 なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ムーンルーフ (→P. 117)	ドアキー連動時の作動	開閉作動	なし
			開作動のみ
			閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	なし	開作動のみ
			閉作動のみ
			開閉作動
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 199)	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	スマートエントリー&スタートシステム連動閉機能	あり	なし
	ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ～ 2
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
	オートマチックハイビーム	有効	無効

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 280)	室内照明の消灯までの時間	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	ドアミラー照明の点灯時間	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	メーターなどの明るさを、 周囲にあわせ自動減光する センサーの感度	標準	-2 ~ 2
	自動減光したメーターなど の明るさをもとに戻すセン サーの感度	標準	-2 ~ 2
	解錠時の作動	あり	なし
	“パワー” スイッチ OFF 後 の作動	あり	なし
エアコン (ナビゲーショ ンシステム取扱 書参照)	足元照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	AUTO スイッチが ON のと き、連動して外気導入と内 気循環を自動的に切りかえ る	する	しない
	AUTO スイッチを ON にし たとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON に なる	する	しない
	排ガスセンサー感度調節	標準	-3 ~ 3

ご自身で変更できるカスタマイズ一覧

以下のカスタマイズは、ナビゲーションシステムの画面操作により、ご自身でも設定を変更することができます。

(ナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。)

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 56)	解錠ドアの選択 (スマートドアアンロック)	全席	運転席
			各席
			側席
	スマートエントリー&スタート	する	しない
ワイヤレスドアロック (→P. 67)	解錠時の操作 (ボタン 2 回操作アンロック)	1 回で全ドア解錠 (しない)	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠 (する)
スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック (→P. 56、67)	非常点滅灯での作動の合図 (施錠・開錠時非常点滅灯応答)	する	しない
ドアロック (→P. 69、399)	車速感応オートドアロック	する	しない
	運転席を開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	しない	する
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	する	しない
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	しない	する
	メカニカルキーによる解錠 (キー 2 回操作アンロック)	1 回で全ドア解錠 (しない)	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠 (する)

項目	機能の内容	初期設定	変更後
パワーイー ジー アクセスシ ステム (→P. 95)	降車時運転席シート移動量 調節	標準	OFF
			-1
ライト自動点 灯・消灯シス テム (→P. 199)	ライトセンサーの感度調整 (コンライト感度調節)	標準	-2 ~ 2
イルミネーシ ョン (→P. 280)	室内照明の消灯までの時間 (室内照明消灯時間調節)	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
	ドアミラー照明の点灯時間 (室外照明点灯時間調節)	15 秒	OFF
			7.5 秒
			30 秒
エアコン (ナビゲーシ ョンシステム取扱 書参照)	メーターなどの明るさを、 周囲にあわせ自動減光する センサーの感度 (減光開始 感度調節)	標準	-2 ~ 2
	自動減光したメーターなど の明るさをもとに戻すセン サーの感度 (減光解除感度 調節)	標準	-2 ~ 2
	AUTO スイッチが ON のと き、連動して外気導入と内 気循環を自動的に切りかえ る (内外気切替 AUTO ス イッチ連動)	する	しない
	AUTO スイッチを ON にし たとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON に なる (エアコン AUTO ス イッチ連動)	する	しない
	排ガスセンサー感度調節	標準	-3 ~ 3

さくいん

略語一覧 428

五十音順さくいん 429

症状別さくいん 440

ハイブリッドさくいん 444

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンに関わる装備
(エアコン・オーディオなど) は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説
明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
A/C	エアコンディショナー / エアコンディショニング
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
AWD	オールホイールドライブ
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックツールコレクション
IPA	インテリジェントパーキングアシスト
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
PWR	パワー
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギヤレシオステアリング
VSC	ピークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ	アームレスト	309
	アクセサリコンセント	299
	アクセサリソケット	299
	足元照明	280
	アダプティブフロント	
	ライティングシステム	200
	アンチロックブレーキシステム	245

い	ETC システム※	
	EV ドライブモード	173
	イグニッションスイッチ	169
	イベントデータレコーダー	372
	イモビライザーシステム	125
	イルミネーテッドエントリー	
	システム	280
	インストルメントパネル	
	照度調整スイッチ	188
	インテリアライト	
	スイッチ	281
	インテリジェントパーキングアシスト※	
	インナーミラー	110

う	ウインカー	
	W 数	418
	スイッチ	180
	電球の交換	346
	ウインドウ	
	ウォッシュャー	208
	パワーウインドウ	114
	ウインドウロックスイッチ	114
	ウォーニングライト	374
	ウォッシュャー	
	液の補給	362
	スイッチ	208
	タンク容量	417
	冬の前の準備・点検	276
	運転	
	寒冷時の運転	276
	正しい姿勢	132
	手順	160
	運転席シートベルト	
	非着用警告灯	376

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

え

エアコン※

エアバッグ

SRS エアバッグ 134

一般的な警告 139

お子さまのための注意 139

カーテンシールドエアバッグに

関する警告 139

カーテンシールドエアバッグの

作動条件 137

改造・分解 142

警告灯 374

サイドエアバッグに

関する警告 139

サイドエアバッグの作動条件 ... 137

正しい姿勢 132

配置 134

フロントエアバッグの

作動条件 136

エコドライブモード 177

エネルギーモニター 44

エレクトリック

パワーステアリング 245

エンジン

イグニッションスイッチ 169

エンジン回転計 187

エンジンがかからない 392

エンジン警告灯 374

エンジンスイッチ 169

エンジンルームカバー 338

オーバーヒート 406

かけ方 169

タコメーター 187

ハイブリッドシステムの

始動方法 169

ボンネット 333

パワースイッチ 169

エンジンオイル

冬の前の準備・点検 276

容量 414

エンジンスイッチ 169

お	オーディオ※	
	オートアラーム	126
	オートマチックトランスミッション	
	S モード	178
	トランスミッション	176
	シフトレバーが	
	シフトできない	394
	オートマチックハイビーム	202
	オートレベリングシステム	201
	オーバーヒート（エンジン）	406
	オーブナー	
	給油口	121
	トランク	74
	ボンネット	333
	お子さまの安全のために	
	ウインドウロックスイッチ	114
	エアバッグに関する警告	139
	お子さまのシートベルト着用	106
	お子さまをのせるときは	27
	コンフォータブル・エアシートに	
	関する警告	308
	シートヒーターに関する警告	308
	シートベルトコンフォート	
	ガイド	105
	シートベルトに関する警告	107
	ステアリングヒーターに	
	関する警告	303

	チャイルドシート	152
	チャイルドシートに	
	関する警告	155
	チャイルドプロテクター	70
	電子キーの電池に関する	
	警告	361
	トランクに関する警告	76
	発炎筒に関する警告	367
	バッテリーに関する警告	404
	パワーウインドウに	
	関する警告	116
	ムーンルーフに関する警告	120
	オドメーター	187
か	カーテンシールドエアバッグ	134
	外気温表示	187
	回生ブレーキ	33
	買い物フック	321
	加速が鈍いときは	34
	カスタマイズ機能	420
	カップホルダー	287
	環境にやさしく経済的な	
	運転のしかた	49

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

き

キー	
エンジンスイッチ	169
キー	51
キーナンバー	51
キーレスエントリー	67
キーを無くした	55
電子キー	51
電子キーが正常に働かない	399
パワースイッチ	169
メカニカルキー	51
ワイヤレスドアロック	67
救急箱固定用バンド	321
給油口	121
緊急時の対処	
エンジンがかからない	392
オーバーヒートした	406
キーを無くした	55
警告灯がついた	374
警告メッセージが表示された	378
けん引	368
故障したときは	364
シフトレバーが	
シフトできない	394
車両を緊急停止するには	411
スタックした	410
電子キーが正常に働かない	399
ハイブリッドシステムが	
始動できない	392
パーキングブレーキが	
解除できない	395
発炎筒	366
パンクした	381
補機バッテリーがあがった	402
緊急ブレーキシグナル	245

<

空気圧 (タイヤ)	418
区間距離計	187
曇り取りスイッチ※	
クリアランスソナー※	
クルーズコントロール	
クルーズコントロール	212
レーダークルーズ	
コントロール	215
レーダークルーズコントロール	
(全車速追従機能付)	225
グローブボックス	285

け	計器	
	メーター	187
	メーター照度調整スイッチ	188
	警告灯	
	SRS エアバッグ	374
	アンチロックブレーキ	
	システム	374
	エンジン	374
	シートベルト非着用	376
	充電	374
	水温	376
	スリップ表示灯	374
	燃料残量	376
	パワーステアリング	374
	半ドア	376
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	374
	プリテンショナー	374
	ブレーキ	374
	ブレーキアシスト	374
	マスターウォーニング	376
	警告表示	378
	警告ブザー	
	シートベルト非着用	376
	半ドア	376
	マスターウォーニング	376
	化粧用ミラー	295
	けん引	368

こ	コインホルダー	286
	交換	
	タイヤ	340
	電球	346
	電子キーの電池	360
	ヒューズ	356
	工具	340, 381
	コーションラベル	36
	後退灯	
	W 数	418
	電球の交換	346
	高電圧ケーブル	36
	高電圧部位	36
	コートフック	319
	後方プリクラッシュセーフティ	
	システム	262
	子供専用シート	143
	小物入れ	
	小物入れ	291
	ノースモーカーズボックス	290
	コンソールボックス	288
	コンフォータブル・エアシート	305
	コンライト	
	(自動点灯・消灯装置)	199
さ	サービスプラグ	37
	サイドエアバッグ	134
	サンシェード	
	リヤ	312
	リヤドア	316
	ルーフ	117
	サンバイザー	294

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

し

G-Link ※

シート

運転席ポジションメモリー 95

コンフォータブル・

エアシート 305

シートポジション

メモリー 95, 99

助手席ポジションメモリー 95

正しい姿勢 132

チャイルドシートの固定 152

調整 80, 86

調整に関する警告 85, 94

手入れ 327

パワーイージーアクセス

システム 97

ヘッドレスト 101

ペルビックサポートシート 90

リヤシートポジション

メモリー 99

リヤシートリラクゼーション

システム 91

シートベルト

お子さまの着用 106

緊急時シートベルト固定機構 ... 106

シートベルト警告灯 376

シートベルト

プリテンショナー 105

清掃・手入れ 328

正しい着用 104

チャイルドシートの固定 152

調整 104

妊娠中のかたの着用 106

シートポジション

メモリー 95, 99

シガレットライター 297

室内灯

W 数 418

スイッチ 281

事故が発生したときは 39

事故後、ハイブリッドシステムを

始動する前に 39

シフト照明 280

シフトレバー

シフトレバーが

シフトできない 394

トランスミッション 176

シフトロックシステム 394

車高調整

電子制御エアサスペンション ... 243

ジャッキ

ガレージジャッキ 336

車載ジャッキ 340

ジャッキハンドル 340

車幅灯

スイッチ 199

車両型式 419

車両仕様 414

収納装備 283

助手席シートベルト

非着用警告灯 376

す	水温計	187
	スイッチ	
	EVドライブモードスイッチ	173
	イグニッションスイッチ	169
	ウインドウロックスイッチ	114
	エコドライブモードスイッチ ...	177
	エンジンスイッチ	169
	オートマチックハイビーム	
	スイッチ	202
	ステアリングヒーター	
	スイッチ	303
	ドアロックスイッチ	69
	パーキングブレーキスイッチ ...	181
	ハザードライトスイッチ	365
	パワーウインドウスイッチ	114
	パワースイッチ	169
	パワートランクリッド	
	スイッチ	74
	非常点滅灯スイッチ	365
	フォグライトスイッチ	207
	モードセレクトスイッチ	177
	ライトスイッチ	199
	ワイパー&ウォッシュャー	
	スイッチ	208
	スタック	
	スタックした	410
	ステアリングホイール	
	調整	109
	パワーイージーアクセス	
	システム	97
	ハンドルポジション	
	メモリー	95
	ヒーター	303
	ロック解除	171

せ	清掃	
	外装	324
	シートベルト	328
	内装	327
	積算距離計	187
	洗車	324
	前照灯	
	W数	418
	オートマチックハイビーム	202
	スイッチ	199
	電球の交換	346
そ	速度計	187

ステアリングホイールヒーター	303
スピードメーター	187
スペック	414
スマートエントリー&スタートシステム	
ハイブリッドシステムの始動 ...	169
ドアの施錠・解錠	57
トランクを開ける	57

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

た	タイヤ	
	空気圧	418
	交換	340
	チェーン	276
	点検	330
	パンクした	381
	パンク修理キット	381
	冬用タイヤ	276
	ローテーション	330
	タコメーター	187

ち	チェーン (タイヤチェーン)	277
	チェンジレバー	
	チェンジレバーが	
	シフトできない	394
	トランスミッション	176
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定	153
	シートベルトでの固定	153
	種類	143
	チャイルドプロテクター	70
	駐車ブレーキ	181

つ	ツール	340
----------	-----------	-----

て	DC/DC コンバーター	36
	ディスプレイ	
	エネルギーモニター	44
	警告メッセージ	378
	トリップインフォメーション ...	196
	レーダークルーズ	
	コントロール	215, 225
	手入れ	
	外装	324
	シートベルト	328
	内装	327
	テーブル	310

テールランプ	
スイッチ	199
電球	
W 数	418
交換	346
電子キー	
正常に働かない	399
電子制御エアサスペンション	243
電話スイッチ※	

と	ドア	
	ドアガラス	114
	ドアミラー	112
	ドアロック	56, 67, 69
	ドアカーテシー照明	
	W 数	418
	ドアカーテシー照明	280
	ドアポケット	286
	ドアミラー	
	調整	112
	ミラーポジションメモリー	95
	ドアミラー照明	
	W 数	418
	ドアミラー照明	280
	盗難警報アラーム	126
	盗難防止システム	
	イモビライザーシステム	125
	オートアラーム	126
	トークスイッチ※	
	ドライビングポジションメモリー	95
	トラクションコントロール	245
	トランク	
	オープナー	74
	クローザー	74
	トランクリイト	
	W 数	418
	トランスミッション	176

	トリップメーター	187		ハザードライト	
な	ナイトビュー	265		スイッチ	365
	ナビゲーションシステム※			発炎筒	366
に	荷物			バックアップライト	
	積むときの注意	274		W 数	418
	荷物固定用フック	321		電球の交換	346
ね	燃費画面	44		バックガイドモニター※	
	燃料			バッテリー	
	給油	121		バッテリーがあがった	402
	種類	414		冬の前の準備点検	276
	燃料計	187		パニティミラー	295
	容量	414		パニティライト	
は	パーキングブレーキ			W 数	418
	パーキングブレーキ	181		パニティライト	295
	パーキングブレーキが			バリアブルギヤレシオ	
	解除できない	395		ステアリング	245
	パーソナルライト			バルブ	
	W 数	418		W 数	418
	スイッチ	281		交換	346
	灰皿	296		パワーイージーアクセスシステム	97
	ハイブリッドシステム			パワーウインドウ	114
	ご使用になるにあたって			パワーコントロールユニット	36
	(高電圧・高温について)	36		パンク	
	(駆動用電池・吸入口に			パンクした	381
	ついて)	40		パンク修理キット	381
	始動方法	169		ハンズフリー※	
	始動できないときは	392		ハンドル	
	ハイブリッドシステムの特徴	32		調整	109
	ハイブリッドシステムの			パワーイージーアクセス	
	作動状態	42		システム	97
	ハイブリッド車運転の			ハンドルポジションメモリー	95
	アドバイス	49		ヒーター	303
				ロック解除	171

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

ひ	ピークルスタビリティ	
	コントロール.....	245
	ピークルダイナミクス	
	インテグレイテッド	
	マネージメント.....	245
	非常点滅灯	
	スイッチ.....	365
	尾灯	
	スイッチ.....	199
	ヒューズ.....	356
	表示灯.....	191
	ヒルスタートアシスト	
	コントロール.....	245

ふ	フォグライト	
	W 数.....	418
	スイッチ.....	207
	電球の交換.....	346
	フック	
	買い物フック.....	321
	けん引フック.....	368
	コートフック.....	319
	荷物固定用フック.....	321
	冬用タイヤ.....	276
	プリクラッシュセーフティ	
	システム.....	251, 262
	ブレーキ	
	緊急ブレーキシグナル.....	246
	パーキングブレーキ.....	181
	ホールド.....	184
	ブレーキアシスト.....	245
	ブレーキホールド.....	184
	フロアマット.....	320

フロントシート	
シートポジションメモリー.....	95
調整.....	80
ドライビングポジション	
メモリー.....	95
パワーイージーアクセス	
システム.....	97
フロントターンシグナルライト	
W 数.....	418
電球の交換.....	346
フロントフォグライト	
W 数.....	418
スイッチ.....	207
電球の交換.....	346

へ	ヘッドライト	
	W 数.....	418
	オートマチックハイビーム.....	202
	スイッチ.....	199
	電球の交換.....	346
	ヘッドライトクリーナー.....	211
	ヘッドレスト	
	アクティブヘッドレスト.....	83
	調整.....	101
	プリクラッシュインテリ	
	ジェントヘッドレスト.....	83
	ベルビックサポートシート.....	90
	ベンライト.....	381

ほ	ホイール.....	330
	方向指示灯	
	W 数.....	418
	スイッチ.....	180
	電球の交換.....	346
	ホーン.....	186
	ボンネット.....	333

ま	マルチインフォメーション ディスプレイ.....	195
----------	-----------------------------	-----

み	ミラー インナーミラー..... ドアミラー..... バニティミラー.....	110 112 295
----------	---	-------------------

む	ムーンルーフ.....	117
----------	-------------	-----

め	メーター インストルメントパネル 照度調整スイッチ..... メーター..... メンテナンス メンテナンスデータ.....	188 187 414
----------	---	-------------------

ら	ライト W 数..... 室内灯..... 電球の交換..... ドアカーテシーライト..... ハザードライト..... パーソナルライト..... バニティライト..... 非常点滅灯..... フォグライト..... ヘッドライト..... 方向指示灯.....	418 280 346 280 365 281 295 365 207 199 180
----------	---	---

り	リヤウインドウデフォッガースイッチ※ リヤサンシェード..... リヤシート シートポジションメモリー..... 調整..... テーブル.....	312 99 86 310
----------	---	------------------------

リヤシートリラクゼーション システム..... リヤターンシグナルライト W 数..... 電球の交換..... リヤドアサンシェード..... リヤフォグライト W 数..... スイッチ..... 電球の交換..... リヤブリクラッシュセーフティ システム.....	91 418 346 316 418 207 346 262
---	---

れ	冷却水 冬の前の準備・点検..... 容量..... 冷却装置 エンジンオーバーヒート..... レーダークルーズ コントロール..... レーンキーピングアシスト.....	276 416 406 215, 225 237
----------	--	--------------------------------------

わ	ワイパー スイッチ..... ワイヤレスドアロック 電池交換..... リモコン.....	208 360 67
----------	---	------------------

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。



タイヤがパンクした

P. 381 パンクしたときは



ハイブリッドシステムが
始動しない

P. 392 ハイブリッドシステムが始動できない
ときは

P. 125 イモビライザーシステム

P. 402 補機バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 394 シフトレバーがシフトできないときは



水温警告灯が点灯した

P. 406 オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーをなくした

P. 55 キーをなくしたときは



補機バッテリーがあがった

P. 402 補機バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 57
P. 67
P. 69 ドア



ホーンが鳴り出した

P. 126 オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 410 スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 374 警告灯がついたときは



■警告灯一覧



ブレーキ警告灯

P. 374



ABS& ブレーキアシスト
警告灯

P. 374



ブレーキ警告灯

P. 374



燃料残量警告灯

P. 376



SRS エアバッグ/プリテン
ショナー警告灯

P. 374



半ドア警告灯

P. 376



エンジン警告灯

P. 374



スリップ表示灯

P. 374



クルーズコントロール表
示灯 (点滅)

P. 374



充電警告灯

P. 374



運転席シートベルト非着用
警告灯

P. 376



助手席シートベルト非着用
警告灯

P. 376



水温警告灯

P. 376



マスターウォーニングと
警告メッセージ

P. 376



パワーステアリング警
告灯

P. 374



PCS 警告灯 (点滅)

P. 374



オートマチックハイビーム
表示灯 (点滅)

P. 374



AFS OFF 表示灯 (点
滅)

P. 374



警告音が鳴った

- 警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。
 - 警告灯が点灯、点滅している (→P. 374)
 - 警告メッセージが表示されている (→P. 378)
- 警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 64
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 178
	シフトダウンしたとき	P. 178
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 215, 225

ハイブリッドシステムについての解説

- ハイブリッドシステムの特徴 ----- P. 32
- ハイブリッドシステムの作動状態 ----- P. 42

ハイブリッドシステムについての注意事項

- ご使用になるにあたって
(高電圧・高温について) ----- P. 36
(駆動用電池・吸入口について) ----- P. 40

運転のしかた

- 運転にあたって ----- P. 160
- ハイブリッドシステムの始動方法 ----- P. 169
- トランスミッション ----- P. 176

環境に配慮した経済的な運転

- ハイブリッド車運転のアドバイス ----- P. 49

事故が起きたときは

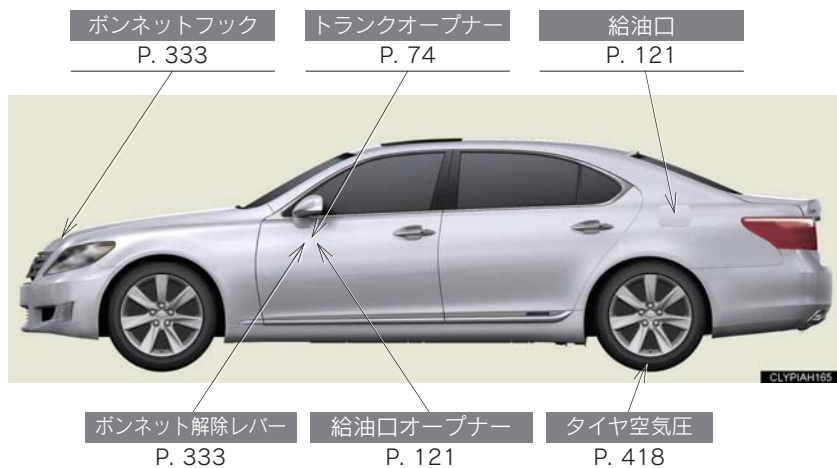
- 事故が発生したときの警告 ----- P. 39
- 事故後、ハイブリッドシステムを始動する前に ----- P. 39

ハイブリッド特有の説明がある項目

■ 計器類 -----	P. 187
■ 表示灯／警告灯 -----	P. 191
■ マルチインフォメーションディスプレイ -----	P. 195
■ ボンネット -----	P. 333
■ エンジンルームカバー -----	P. 338
■ けん引について -----	P. 368
■ ハイブリッドシステムが始動できないときは -----	P. 392
■ 補機バッテリーがあがったときは -----	P. 402
■ オーバーヒートしたときは -----	P. 406

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



燃料の容量 (参考値)	84 L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 122, 414
タイヤが冷えているときの空気圧	18 インチタイヤ 前輪 : 230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 後輪 : 230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 19 インチタイヤ 前輪 : 230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 後輪 : 240 (2.4) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 : 8.4 L オイルとフィルター交換時 : 9.0 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30)

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

